

一四 外蒙古ニ関スル露支蒙三者協定關係一件 二七八

Waichiao-pu et la Légation de Russie à Peking.

Le nouveau règlement minier et les autres règlements du même genre ne seront applicables aux entreprises russes dans le Houlounboure que lorsqu'ils seront définitivement entrés en vigueur.

Veillez agréer etc.

(signé) Kroupensky.

(右和訳文)

在北京露国公使ヨリ中国外交総長宛秘復翰亨

(一九一五年十月二十四日附)
十一月六日

呼倫貝爾ノ地位ニ関シ本使ト貴総長トノ間ニ為サレタル取極第八条(露国企業家ト呼倫貝爾官憲トノ間ニ締結セラレタル契約ニ関スル条項)ヲ補足スル為将来此ノ種契約ハ露

四四四

国企業家ト地方官憲トノ間ニ締結セラレ且黒龍江省官憲ニヨリ認許セラルヘク若シ黒龍江省官憲ニ於テ必要ノ認許ヲ与ヘ難キコトアル場合ニハ事件ハ外交部ト在北京露国公使館トノ間ニ商議セラルヘキ旨並鉅山ニ関スル新規則其ノ他類似ノ諸規則ハ確定的ニ実施セラレタル場合ノ外呼倫貝爾ニ於ケル露国企業ニ適用セラレサルヘキ旨閣下ハ一九一五年十月二十四日附書翰ヲ以テ支那政府ノ名ニ於テ声明セラレタリ本使ハ本国政府ノ命ニ依リ茲ニ右声明ヲ了ス
右申進旁……

クルペンスキー

事項一五 露国内政關係雜纂

二七九 一月五日

在モスクワ平田總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛

露国大蔵省一千万留發行ニ関スル件

通第二号

(二月四日接受)

大正四年一月五日

在莫斯科總領事代理

領事 平田 知夫(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

露国政府ハ今回都市其他ノ地方団体ニ対スル短期貸付資金増加ノ為メ四分利大蔵省發行証券發行ノ件勅裁ヲ経タル旨発表セラレタリ総額一千万留ニシテ利息ハ露曆十二月一日ニ遡リテ計算セラルヘク近々適當ノ時機ヲ見テ發行ノ手續ヲ執ラルヘシ

右及報告候 敬具

二八〇 一月二十二日

在露国本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

一五 露国内政關係雜纂 二七九 二八〇 二八一

四千万磅借款取纏ノ為露国蔵相倫敦及巴里ニ向ケ出発ノ件

第六四号

露国政府ニ於テ英国ヨリ四千万磅借入交渉ハ略ホ纏マリツツアリシ所最後ニ至リ両国政府間ニ意志ノ疏通ヲ欠キタルニ付大蔵大臣ハ右取纏ノタメ一月二十日倫敦及巴里ニ向ケ出発

二八一 一月二十三日

在露国本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

巴里出張露国蔵相ノ使命ニ関シ駐露仏国大使

談話ノ件

第六七号

往電第六四号ニ関シ一月二十三日駐露仏国大使ノ本官ニ語ル所ニ依レハ露国大蔵大臣ハ同電記載事項ノ外尚次ノ如キ重要使命ヲ帶フト言ヘリ即チ巴里ニ於テ英露仏三国大蔵大臣会見シ(一)英露仏三国力戦時中及戦後ニ於テ執ルヘキ財政

四四五

上ノ措置(ニ)其他同盟国及好意の中立国ニ対スル財政的援助ニ関シ協議スルコト是ナリ而シテ右ハ英国政府ノ提議ニ基クモノニシテ会见地ヲ巴里ニ選ヒタルハ Ribot 老年ナルカ為ナリト云フ尚往電第六四号ノ件モ右協議ノ結果ヲ俟テ決定スヘシトノコトナリ

二八二 二月二日 在モスクワ平田総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

露国政府短期国庫債券五億留發行ノ件

第五号

露国ハ一月四日ヨリ以後六ヶ月間ニ新タニ五分利付短期国庫債券五億留ヲ国内ニテ同四千万磅ヲ英国ニテ發行スル管ニテ右ニ関スル一月六日附勅令發表セラレタリ

二八三 二月二日 在米田珍大使ヨリ
加藤外務大臣宛

露国ニ於ケル英露連衡反対運動ニ関スル米

新聞記事切抜送付ノ件

機密第九号

(三月一日接受)

大正四年二月二日

在米

紙第二号切抜ノ如ク右「ウキツテ」伯一派ノ意嚮ナルモノニ賛成シ独露平和克復ヲ唱導致居候間是亦為御参考供貴覽候。敬具

追テ当地「ポスト」新聞ハ近來頗ル親独主義ニ傾キ在米露国大使「バクームエフ」氏ノ如キハ先般本使ニ向ヒ同新聞ノ持主「マツクリン」ト自己ハ親類ノ關係アルモ彼ハ独逸側ヨリ買収セラレ居ル疑モアリ近來一向自分トハ交際セサル事情ナルヲ以テ此事ハ本使ニ於テモ承知シ呉ル様内話シタルコトモ有之次第ナルニ付別紙論説ノ如キモ右ノ含ニテ御閲読相成度此段為念申添候也

註 別紙新聞切抜省略

二八四 二月四日 在露国本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

露国平和ヲ希望ストノ風説ニ関シ駐露伊国大

使來訪ノ件

第二〇九号

二月三日在露伊国大使本官ヲ來訪シ本国政府ヨリノ電報ニ依レハ伯林及ヒ維也納ニテハ露国政府力大ニ平和ヲ希望シ居ルトノ風説伝ハリ殊ニ「ウイツテ」伯ハ密使ヲ伯林ニ派

特命全權大使子爵 珍 田 捨 己(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

客月三十一日紐育「ウォールド」新聞ハ別紙切抜第一号ノ通り露国ニ於テ「ウキツテ」伯ヲ首脳トセル一派カ英露ノ連衡ヲ破ラントシテ活動セルコト該連衡カ露国ニ於テ不人望ナル所以及現戦争ハ英国ヲ利スルコト大ナルヘキモ露国ノ益スル処甚タ尠ク同国皇室ニ於テモ露独ノ平和ハ希望セラレ居ルニ不拘「グラント、デューク、ニコラス」殿下カ野心ヲ抱藏シテ参戦ヲ主張セラルル為メ皇帝陛下ノ如キモ其傀儡ト成リ兩國ノ平和克復ヲ見ルニ至ラストノ記事ヲ掲ケ居候処該記事ハ其出処不明ナルト又其論法ヨリ察スルニ或ハ独逸側ヨリ出テタルモノナランカト思ハルル節有之信ヲ置クニ足ラサル如キモ一方ニ於テ若シ今ニ方リ露独平和ヲ回復スルヲ得ハ「チュートン」同盟ハ「コンスタンチノープル」ヲ露国ニ与フルニ咨ナラサルベシトシ大ニ兩者ノ握手ヲ鼓吹シ居ル点ノ如キ仮リニ此記事カ独逸側ヨリ出テタルモノト推測スルニ於テ亦同同意嚮ノ一面ヲ知ルニ参考タルヘキカト被存候而モ該記事ハ当地「ポスト」新聞(本月一日)ニ全部転載セラレ同紙ハ更ニ本日ノ紙上ニ於テ別

シ独逸国政府ノ意向ヲ探ラシメタリトノコト迄言振ラスモノアリタル由ナルカ貴官ニ於テ何カ聞込ミタル所ナキヤト質問シタルニ付本官ハ之ニ対シ各方面ヨリ得タル報告及ヒ本官一己ノ觀察ニ依レハ目下露国政府部内ニ於テ平和ヲ希望シ居ルカ如キ形跡ハ毫モ見受ケサルノミナラス文武官トモ一般ニ戦争ハ長引クモノト見込ヲ付ケ飽迄強硬ニ遂行セサルヘカラストノ意見ナルカ如シ尤モ当国守旧派ノ一部ニシテ平素ヨリ親独主義ノ人士間ニハ多少可成速カニ平和克復ヲ希望シ居ルモノアルヤニ聞及ヒタルモ右ハ極メテ少数ノ由ニテ目下ノ所毫モ勢力ナシ右ノ次第ニ付露国カ平和ヲ希望シ居ルトノ風説ハ全然無根ナリト確信スト答ヘタルニ伊国大使ハ之ニ対シ自分ニ於テモ全ク御同感ナリ且又仮令露国政府カ今日平和ヲ希望スルトモ英仏兩國政府ハ決シテ之ニ同意スルコトナカルヘク又本戦争ノ結果トシテ露国カ最大ノ目的トスル所ハ「ダーダネルス」問題ノ根本的解決ニアルヲ以テ其解決ニ関シ十分見込ノ付カサル間ハ本戦争ヲ中止スルカ如キコトハ万々ナカルヘシト云ヒタルニ付本官ハ之ニ対シ全然同意見ナリト述ヘ置キタリ尚本官ハ此機ニ乘シ独逸兩國政府ハ長ク戦争ヲ継続スルノ力アリ得ルヤ

否ヤニ付同大使ノ意見ヲ叩キタルニ同大使ハ独塊兩國政府ハ到底最後ノ捷利ヲ得ル見込ナカルヘキニ付目下ノ情況ニテ平和ヲ講スルコトヲ得ハ至大ノ幸福ナルヘキモ去リトテ容易ニ講和ヲ求ムルカ如キコトハナカルヘシ依テ此戦争ハ先ツ長引クモノト見込ヲ付クル方安全ナルヘシト言ヒ又伊國ノ態度ニ付質問シタルニ本國政府ヨリハ未タ何等報道ニ接セサルモ本國ニ於テ目下取リツツアル諸般ノ準備ヨリ之ヲ判断セハ何レ戦争ニ参加スル決心アルモノト自分限リハ確信シ居レリト答ヘタリ右御參考迄

本電在伊大使ヘ電報シタリ

二八五 二月十二日

在琿春北条副領事ヨリ
加藤外務大臣宛

露国帰化朝鮮人ノ琿春方面ヘノ逃亡ニ関スル

件

機密公信第七号

(二月二十四日接受)

大正四年二月十二日

在琿春

副領事 北條 太洋 (印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

公第二八号

(三月四日接受)

大正四年二月十二日

在露

特命全權大使男爵 本野 一郎 (印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

昨年八月八日露国カ独塊兩國ト開戦スルニ際シ議會ヲ召集シ國家ノ態度ヲ中外ニ宣明シタル以來六ヶ月ヲ經過シタリ其間内外ノ形勢ニ少カラサル變化ヲ來シ世間戦争ニ関スル露国國民ノ意嚮ニ就キ兎角ノ言ヲ為スモノ漸ク多カラントスルニ際シ恰モ歲計予算案決定ノ時期トモ相成リタルヲ以テ露国政府ハ一月二十四日勅令ヲ以テ議會ノ召集ヲ命シ二月九日議會ノ開会ヲ見ルニ至レリ今當日ニ於ケル議會ノ狀況ヲ記サンニ午後一時半「タウリーチェスキ」宮殿ナル下院議場内ニ於テ上下両院議員各大臣等参集シ開院祈禱式ノ挙行アリ二時十二分開會議長「ロドジャンコ」氏ノ発声ニテ議員一同皇帝陛下ノ万歳ヲ唱ヘ更ニ議員中ヨリ国歌ノ合唱ヲ要求スルモノアリ乃チ議長ノ指導ノ下ニ議員一同露国国歌ヲ合唱ス議長ハ國家多難ノ際ニ當リ國民ノ赤誠ヲ皇帝陛下ニ電奏スヘシトノ提議ヲナシテ満場ノ同意ヲ得其ヨ

露領沿海州ニ於テハ本年一月十九日ヨリ滿十八才以上ノ國民兵ヲ召集スルコトナリシニ因リ同國帰化鮮人中之ヲ避ケテ琿春方面ニ逃走スルモノ多キ旨情報ニ接シタルヲ以テ調査ノ結果左ノ如シ

露国ハ開戦後帰化鮮人ヲ出征セシメタルヲ以テ彼等ノ内朝鮮及支那ニ逃走スルモノアリ昨年中煙秋ニ於ケル露国官憲ヨリ此等ノ逮捕方ヲ当地支那官憲ニ照会シ來リタルヲ以テ所在ノ判明シタル者数名ヲ引渡シタル事實アリ然レトモ近來逃走シ來ル者ナキガ如キモ多クハ其發覺ヲ恐レテ偽名セルモノノ如シ而シテ露国官憲ハ逃亡者ノ財産ヲ没収スルコトト為シタルヲ以テ財産アル者ハ止ヲ得ス出征スルモ財産ナキ者ハ各方面ニ逃走セル者少カラサルガ如シ右御參考ノ為及報告候 敬具

二八六 二月十二日

在露国本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛

露国議會開会ニ関スル件

附屬書一 議長ロドジャンコ氏ノ演說

二 總理大臣ゴレムイキン氏ノ演說

三 外務大臣サゾーノフ氏ノ演說

リ左ノ訳文ノ如キ演說ヲナセリ同演說中各同盟國ニ対スル挨拶アリ其都度外交官席ニ在ル日英仏白等大公使ニ対シ各議員一同稽首敬礼ヲ行ヒタリ議長ノ演說ニ次ク總理大臣ゴレムイキン氏及外務大臣サゾーノフ氏ノ演說アリ其ヨリ議員ノ代表演說ニ移リ最初ニハ各民族及階級ヲ代表シテ農民、僧侶、波蘭人、「アルメニヤ」人、「エストン」人、「猶太人」「レテイッシ」人、回教徒等各議員代表者ノ演說トナリ次ニ各党派代表者ノ演說トナリ社会民主党「チヘイゼ」、労働党某、立憲民主党「ミリュコフ」、改進黨「エフレイモフ」、十月党「シドロフスキ」、中央派「リウオフ」、国民党「サウエンコ」、右党「レワシヨフ」等諸氏交々立チテ戦争ニ対スル自党ノ意見ヲ述ベタルガ其中社会民主党及労働党代表者ノ演說ノミハ戦争中止ノ必要ヲ述ヘタルモノニシテ議場ハ一時動揺ヲ來タサントシタルモ議長ノ節制宜シキヲ得テ無事ニ終了シ右兩演說ハ速記録中ヨリ除去セラレ大要左記ノ如キ決議文ヲ通過シテ初日ノ議會ハ閉鎖セラレタリ

下院ハ我カ軍人ノ勇武ナル功績ノ前ニ拝跪シ陸海軍ニ対シテ熱誠ナル感謝ノ意ヲ致シ又我カ同盟國ニ対シテ衷心

ノ敬意ト同情トヲ寄セ戦争ノ偉大ナル国民的自由ノ本義ニ到達スヘキ確信ヲ表白シ而シテ歐洲ノ平和ノ保障セラレ權利及正義ノ恢復セラルヘキ条件ヲ以テ敵ノ屈服セサル限り戦争ヲ継続セントスル露国民ノ不撓ノ決心ヲ宣明ス

翌二月十日下院ハ予算案ノ議事ニ入り予算委員長ノ報告演説會計検査院長ノ説明演説(大蔵大臣ハ外国旅行中ニ付會計検査院長之ニ代ハリタルナリ)各党派代表者ノ演説アリテ委員会査定案ヲ即決通過シタリ但シ此ノ議決ニハ社会民主党及労働党ハ加ハラサリキ二月十一日下院ハ本年十一月迄閉會ヲ命セラル

(附屬書一)

議長ロドジャンコ氏ノ演説

諸君、軍國ノ多事ニ際シ臣民トノ和合ヲ念トセラレ臨時議會ノ召集ヲ慶福トナシ給ヘル陛下ノ詔勅ヲ此處ニ拜聴セルハ六ヶ月前ナリ。御聰明ナル陛下ノ御期待ハ違ハザリキ。陛下ハ此處ニ國難ニ際シ總テノ内紛ヲ忘レ舉國一致皇帝祖國ノタメニ奮起セル統一和合セル露西亞ノ聲ヲ聞カレタリ。未曾有ノ慘劇既ニ半歳ヲ閱ス然シテ露國ハ舉ゲテ意志

ノ爭議ノ結果ニアラズシテ相容ルベカラザルニ主義ノ衝突ナリ。一ハ平和、民族ノ自由、正義ノ擁護者ニシテ他ハ世界併吞ヲ夢想スル軍閥ナリ。平和的勞營ヲ基礎トスル諸國民共同生活主義ト鐵血主義、世界併吞主義トノ對立ナリ。諸君之レ今回戦争ノ眞因ニシテ敵ガ大戦亂ヲ起セル目的ナリ。

露國ハ戦争ヲ欲セザリキ。然レトモ一旦干戈ニ訴ヘタル以上敵ハ須ク正義ニ敵ナク我が國ガ如何ナル犠牲ノ前ニモ躊躇セザルベキヲ記セザルベカラズ。露國ハ勝利ノ堅キ信念ヲ以テ沈靜此ノ慘劇ヲ忍ビツツアリ。吾人ハ孤立ニアラズ、我等ト血ヲ共ニスル塞爾維、黑山國ハ壯烈不撓暴力ニ對スル意氣ノ勝利ヲ世界ニ表明シツツアリ。埃匈軍ハ既ニ彼等ノ國外ニ撃退セラレ我が同胞ハ敵ニ寸地ヲ譲ラズヨク彼等ノ名譽ト自由ヲ擁護シツツアリ。血ト教ヲ同ウスル卿等幸ニ健在ナレ。大「スラヴ」主義ニ忠ナル卿等幸ニ健在ナレ。武勇ナル白耳義國民ハ第一ニ戦端ヲ開ケル者ノ一ナリ。彼ハ未曾有ノ慘禍ヲモノトモセズ堅忍ヨク敵ト奮闘シ高潔霜ノ如キ國王ニ統率セラルル白耳義軍隊ハ敵ニ頭ヲ垂ルコトナシ。我等ハ勇士ノ武烈ニ感嘆措カザルナリ。

強固志氣旺盛ニシテ傲慢無禮ナル敵兵ノ到底挫キ得ル所ニアラズ。頑強狡猾ナル敵ハ精力及ビ久シク準備セル兵力ノ全部ヲ舉ゲテ威大ナル我が軍ヲ撃破セントス。然レトモ我が兵士ノ鐵胸ニ當リテハ敵モ海波ノ岩ニ當リテ碎クルガ如シ。正義ノ信念厚キ勇敢ナル我陸軍ハ恰モ岩ノ聳ユルガ如ク恐ヲ知ラザル海軍ハ沈靜國防ノ事ニ當リ勇烈陸軍ト爭フ。國民無限ノ人望ヲ一身ニ集メ給ヘル老練不撓勇武ナル大總統ノ宮殿下御統率ノ下ニアル我が軍隊ハ上ハ大將ヨリ下ハ一兵卒ニ至ルマデ戦争ノ重荷ヲ双肩ニ負ヒソノ壯烈、堅忍、不撓全世界ヲシテ驚嘆セシム。

聖ナル祖國ノタメニ闘ヒツツアル勇士ヨ卿等ニ讃辭ヲ呈ス。卿等ハ我が誇ナリ。正義ノ友タル卿等ハ到ル處トシテ神ノ祝福ヲ受ケ民衆ノ敬愛ヲ享ケ必ズ勝利ヲ博セン。

戦争ノ犠牲ハ重且大ナリ。露國中一家族トシテ家族中ノ何人カヲ戦争ニ送ラザルハナク名譽ノ戦死ヲ遂ゲタル者モ亦多シ。上ハ皇室ヨリ下ハ庶民ニ至ルマデ血族ノ戦死ヲ弔ハザルハナシ。然モヨク志氣ノ衰ヘザルモノ君國ノタメヲ思ヘバナリ。戦死者追悼式ハ明日午後一時執行スベシ。

諸君、今回ノ戦争ハ武力ヲ以テ解決シ得ラルベキ通常一樣

吾人ト共ニ忠誠ナル大佛蘭西アリ。彼ハ百年ノ仇敵ト戦ヒ大ニ勇名ヲ天下ニ轟シツツアリ。佛軍萬歳、盟友萬歳。

諸君、高潔ナル英國ハ全力ヲ舉ゲテ正義ノタメニ奮闘シツツアリ。英國ノ勞ヤ大、ソノ意義ヤ深シ。吾人ハ英國民ヲ信ジソノ堅忍勇敢ヲ稱ス。敵ハ屢々兩國ノ親密ヲ損ハンコトヲ試ミタレド成功セズ。露國ノ正義ヲ愛スル國民精神ハヨクカカル奸策ニ陥ルコトナク堅ク盟友ヲ信ズ。兩國ノ親善ナル天空ノ一點ノ曇アルナシ。忠誠ナル盟友、海上ノ霸王、我戦友タル卿等ヨ卿等ニ誠心ヨリノ辭令ヲ送ル。卿等ノ行ク處成功ト名譽アルベシ。

今ハ同ジ我が盟友ナル敢爲不撓ノ日本國民モ亦大戦亂ニ參加セリ。正義派ノ意氣ニ感ジ我等ノ戦列ニ入レル日本國民ハ暴力及不正ト奮闘シツツアリ。約言ニ忠ナル遠キ友ヨ卿等ニ我が國民ノ辭令ト尊敬ノ念ヲ捧グ。

記念スベキ七月二十六日(八月八日)以來既ニ半歳ナリ。然モ吾人ニ何等ノ變化ナシ。敵寇撃攘ナル國家最高ノ目的ノタメ吾人が再び此處ニ團結一致スルヲ見ルハ嬉シ。吾人ハ再び國民意氣ノ壯烈ヲ發露シ再び此處ニ曰ハン。露國ノ諸人種ハ一家ナリ。吾人ノ間ニ不和ナク内訌ナシ。予ハ全

露ノ専心念トスルハ一ニ勝利ナルヲ斷言ス。露國全土ノ諸人種ガ兄弟的ニ團結セル今日我等選良タル者ノ義務ハ此ノ民力ノ保存所ヲ守護スルニアリ。諸君、吾人ノ義務ハ戰爭ノ終了ト共ニ現代露國ノ強大ナル所以ナル團結ヲ以テ永劫我が帝國ヲ結合セムトスル國民ノ期待ヲ嚮導スルニアリ。軍備擴大ノ義務ハ吾人ノ時間ト權限ノ許ス範圍内ニ於テ之ヲ遂行セリ。予ハ此處ニ吾人ガ之ヲ實行スルニ際シテハ常ニ深キ愛國ノ至情ヲ以テセルコトヲ斷言ス。諸君、此回ノ大戰爭ニ際シ吾人ハ世界史上未曾有ノ現象ニ會ス。皇帝陛下ニハ國民百年ノ弊タル飲酒ヲ禁ジラレタリ。感謝ニ充テル陛下ノ臣民ハ此ノ禍ノ永久ニ終レルヲ信ズ。健全ナル國民ノ意氣ハ國民自覺ノ威力ヲ増シ自己ノ使命ヲ會得スル所以ナリ。胸ニ十字架ヲ掛ケ心ニ聖旨ヲ體セル露國臣民ハ敵ニ怯ムコトナクヨク陛下ノ命ヲ奉ズ。之レ我等祖先ノ遺訓ヲ黑海ノ岸ニ實現シ世界ノ平和安寧ヲ紊ス獨乙諸邦ヲ懲セントスルナリ。

此ノ慘憺タル戰爭ハ必ズヤ我國及聯盟國ノ勝利ニ歸セシメザルベカラズ。吾人ハ敵ガ吾人ノ指示スル平和ノ條件ニ服從スルマデ戰爭ヲ繼續スベシ。吾人ハ我國ガ拂ヘル犠牲ヲ盟軍ノ成功ハ吾人ヲシテ益々目的ニ近カラシム。戰爭ノ前途ハ遼遠ナリ。然リ政府ハ戰爭ノ當初ヨリ卿等ニ告ゲテ困難ト犠牲ノ大ナルベキヲ以テセリ。半ケ年ノ戰爭ハヨク獨逸ノ努力ヲ語ルト共ニ覺醒セル露國ノ強大ヲ中外ニ示スモノナリ。

政府ハ諸君ヲ通ジテ記念スベキ七月二十六日（八月八日）コノ議場ニ於テナサレタル誓約ノ事實トナリテ現ハレタルニ對シ陛下ノ謝意ヲ全國民ニ傳フルヲ光榮トス。露國ハ「全民發奮ハ之レ祥事ノ前兆ナリ」ト云ヘル祖先ノ格言ヲ目ノアタリ會得セリ。我が軍隊ハ常ニソノ背後ニ全國民ノ後援アルヲ知リ此ニソノ英氣ヲ養ヒツツアリ。全露統一ハ紅ロシヤ（ガリシヤ）ノ占領ト共ニ全ク、全露皇帝ノ月桂冠ハ玆ニ最後ノ一枝ヲ添フ。露西亞人ト堅忍ヨリ戰爭ノ慘禍ヲ負ヘル波蘭土人トノ兄弟的報公及スラヴ民族親睦ノ増進ハ共ニ祝スベシ。諸君ト分袖後重大事件ノ發生セルハ土國ノ獨乙側ニ立チタルコトナリ。然レトモ敵ノ兵力ハ我が名譽アル高加索軍ノ擊破スル所トナリ、黑海ノ岸君士坦丁堡城頭露國年來ノ宿望モ益々實現ニ近カラントス。大ナル時代ハ大ナル機會ヲ與フ。露國ノ前途ヤ多望ナリ。諸君ハ

償フニ充分ナル平和ヲ得ルニアラズンバ武器ヲ收メザルベシ。吾人ハ國民ノ名ヲ以テ曰ハン「之レ全露ノ欲スル所ナリ」。我勇敢ナル健兒ヨ寒キ塹壕ノ中ニ意氣衝天露國國旗ヲ飄ス卿等ヲ我等國民ノ熱烈ニ聽ケ。困難辛苦ノ中ニヨク不屈不撓ノ精神ヲ以テ祖國ノ爲メ奮闘シツツアル卿等ノ酬ハ喜悅ト満足ニ輝ケル母國ヲ見、正義人道ノ上ニ祖國ガ形而上下共ニ輝々タル發展ヲナスヲ見ルニアリ。玆ニ再ビ軍隊及大總統ノ宮殿下ノ萬歳ヲ三唱セン。

（附屬書二）

總理大臣ゴレムイキン氏ノ演説

諸君、露國ガ永久ニ忘却スルコト能ハザル全國民發奮ノ記念スベキ一日ヲ當議事堂ニ送レルハ實ニ半年前ノコトナリ。當時一同ハ如何ナル困難ニ遭遇スルモ之ニ堪ヘ必勝ヲ得ベキ堅キ信念ヲ以テ陛下ノ萬歳ヲ祈リ以テ袖ヲ分チタル次第ナリ。前途尚遼遠ナリト雖モ終局ノ勝利我ニアルコト分明セル今日政府ハ陛下ノ名ヲ以テ此處ニ再ビ卿等ヲ迎フルヲ喜ブ。當時露人ノ抱ケル必勝ノ信念ハ今ヤ轉ジテ確信トナレリ。我が國家ノ名譽タル我が勇敢ナル軍隊ノ意氣ハ益々軒昂ナリ。戦死者ノ靈ヨ永久ニ安カナレ。我が軍及同

各地方ニアリテ今回ノ大戰爭ガ露國國民ノ經濟ニ影響スルコト如何ニ微々ナルヤヲ知ラン。予ハ勿論直接戰爭ノ巷トナレル地方ニ就キテ之ヲ云フ者ニアラズ。戰爭ノ巷トナレル地方ハ到ル處非常ニ荒廢シテ一般社會及國家ノ扶助ニヨリテ常態ニ復スルヲ得ンカ。然シ全般ヨリ云ハバ露國全土到ル處各自安ジテ其ノ業ニ從事シツツアリト云フコトヲ得ベシ。

戰爭ヨリ生ズル損害ハ莫大ナリ。然レドモ露國國民ハ如何ナル犠牲ヲ供スルモ必ズ戰爭ヲ終局マデ繼續セザルベカラザルコトニ一致スベシ。況ヤ露國ガ全力ヲ傾倒シ盡シテ寸毫ノ餘裕ナシト云フニアラザルニ於テオヤ。開戦以來ノ禁酒ニヨリ露國人民ノ生活ハ多クノ點ニ於テ堅固トナレリ。露國人民ノ惡弊ヲ矯メタル大英斷ノ功果ハ時ノ經過ト共ニ現ルベシ。之レ陛下ノ御稜威ニヨリテ除カレタル第二ノ奴隸制ナリ。禁酒ノ露國ハ數年ナラズシテ測知スルヲ得ザル大變化ヲナスベシ。

國庫ニ莫大ノ收入ヲ與ヘタル火酒ノ專賣廢止ハ殊ニ戰時ノ如キ財政困難ノ時ニ於テ我が國家經濟ノ上ニ鈔カラザル困難ヲ惹起セルハ事實ナリシモ我が財政ノ強固ナルヨリ之ニ

耐へ、國內必要ノ經營モ之ヲ縮少スルコトナク殊ニ出征軍人遺族ノ扶助ハ社會ノ援助ト相俟テ遺憾ナク之ヲ實行シツツアリ。外務大臣ハ陛下ノ允許ヲ得テ國際關係ノ概要ヲ述ブベク會計検査院長ハ我が國家經濟ノ現狀ニ就キ報告スル所アルベシ。サレバ予ノ云フベキハ今後兩院ト協力シテナスベキ内政改革ナリ。戰爭ハ吾人ニ與フルニ我が工業及農業ヲシテ獨乙ノ羈絆ヲ脱セシメ國境地方ニ於ケル土地所有ヲ獨乙人ノ手中ヨリ露人ノ手中ニ歸セシメ世界ニ露國農產物ノ市場ヲ求メ露國ヲシテ世界獨歩ノ健全ナル發達ヲナサシムベキ手段ヲ講ズル等種々ノ研究問題ヲ以テス。政府ハ此ノ意味ニ於テ種々ノ法律案ヲ作製シ又ハ之ヲ起草シツツアリ。諸君ノ御盡力ヲ俟テ此等ノ諸計畫ヲ實行スルハ戰爭後ナルベシ。予ハ今直チニ此等ノ問題ヲ論究スルヲ尚早ナリト思惟スルモノナリ。如何トナレバ現今露國ノ切ニ要スルハ言論ニアラズシテ實行ナレバナリ。赤誠ヲ陛下ニ致シ必勝ノ信念ヲ以テ各自ノ義務ヲ遂行センニハ露國歷史上最モ光榮アル頁ヲ繙クモ遠ニアラザルベシ

(附屬書三)

外務大臣サゾーノフ氏ノ演說

過去六ヶ月間我カ勇敢ナル軍隊ハ最高ノ總指揮官太公殿下統率ノ下ニ露國武器ノ銷磨スヘカラサル名譽ノ月桂冠ニ更ニ新ラシキ光輝ヲ添ヘ奇蹟の勇武ヲ顯揚シツツアリ我カ軍隊ハ同盟軍ト相提携シ其目的ニ向テ確乎タル歩武ヲ進メツツアリ而シテ吾人ハ彼等ノ勇氣ヲ以テ誇トナシ又彼等ノ目的ヲ容易ニ遂行セシメント努メ平靜ニ光榮アル最後ノ勝利ヲ期待スル也

吾人ノ敵ハ誤テ形勢ヲ打算シ容易ニ且ツ速カニ勝利ヲ博シ得ベシトシ戰場ニ向テ血ノ犠牲ヲ送り有ユル方法ヲ講シ吾人ト戰ハンカ爲メ全力ヲ緊張シツツアルナリ而シテ彼等ハ何物ヲモ顧慮セス信義ヲ破リ譎詐ヲ逞フシテ止マサル也獨逸政府ハ先ツ其國民ヲシテ正義ノ己ニ在ルコトヲ知舉セシメンカ爲メ自ラ輕舉シテ惹起シタル戰爭ニ於テ輿論ヲ岐路ニ導カンカ爲メ全力ヲ傾注シ且ツ事實ニ反シ恰モ今回ノ戰爭カ獨逸ニ向テ挑發セラレタルカ如ク斷言ス而シテ英王「エドワード」七世陛下ノ時代ニ於テ獨乙ハ既ニ仇敵ノ統圍スル所トナリ危險ノ狀態ニ在リタルカ如ク唱道スルナリ然レトモ賢明ナル「エドワード」王ノ平和ヲ好愛スルハ全世界ニ明ナル所ニシテ王ニハ久シキ以前ヨリ伯林政府ノ限

議員諸君

吾人ノ遭遇シツツアル歴史の時機ノ重大ナルニ鑒ミ予ハ茲ニ諸君ニ對シ現下ノ政治的狀態ノ一斑ニ就キ陳述センカ爲メ勅許ヲ奏請スルヲ義務ナリト思惟セリ

回顧スレハ予カ此ノ演壇ニ立チテ塞耳維及白耳義ノ獨立ニ對シ壞獨兩國ノ亡狀ナル迫害ヲ加フルニ際シ我露國ハ破毀セラレントスル正義ノ擁護ノ爲ニ其ノ執リタル決心以外他ニ執ルヘキ途ナキコトヲ諸君ニ向テ指示シタル以來六ヶ月ヲ經過シタリ

陛下ノ大御心ニ由リテ此ノ唯一ノ貴重ナル針路ニ嚮ヒタル露國ハ何等動搖遲疑スル所ナク一人ノ如クニ立チ而シテ天佑ヲ確信シ戰爭ヲ挑發シタル敵ニ對シテ奮起シタリ祖國ニ對スル大ナル責任ノ共通の自覺ト感動トノ下ニ政府及國民ハ全然一體トナリテ活動シ而シテ國民ノ代表者タル諸君ハ熱誠ニ官民ノ一致ヲ宣言シ稀有ナル滿場一致ヲ以テ此ノ歷史の瞬間ヲ銘記シタリ

鞏固ニ結合シタル露國ハ孤獨ナルモノニハアラザリキ吾人ト志ヲ同フスル佛英兩國ハ吾人ト共ニ起チ而シテ幾許モナク日本モ亦起チテ吾人ノ味方トナレリ

リナキ野心ヲ洞察セラレ歐洲ノ均衡ヲ維持スルニハ平和の利益ヲ主トスル列國ノ接近唯タ之ヲ能クスヘキコトヲ了解セラレタリ左レハ王ノ締結セラレ若シハ準備セラレタル協約ノ類ハ専ラ防守の目的ヲ有スルモノ也然ルニ最近數年間ニ於テ獨逸カ常ニ取り來レル行動ハ全然右トハ方針ヲ異ニシタリ予ハ敢テ茲ニハ海軍力ニ關シ獨逸カ英國ヲ凌駕セント努力シ之レカ爲メ英國ノ交渉ニ耳ヲ借ササリシ事迹ニ關シ述フル所ナカルヘシ又予ハ獨逸カ佛國ノ利益ニ對シ絶エズ迫害ヲ加フルコト例セハ夫ノ有名ナル「アガデル」事件ノ如キニ就キ而シテ又其隣境中立國ヲ自己ノ意思ニ從ハシメントスル淺薄ナル獨逸ノ企圖ニ就キ言及スル所ナカルヘシ然リト雖モ予ハ露國ニ對スル獨逸ノ態度ニシテ事實上明カニ責ムヘキモノニ就キ諸君ノ前ニ之ヲ披瀝スヘシ吾人ハ由來歷史的傳説ニ忠實ナルモノ善隣ノ好誼ヲ尊重シ來リタルニ拘ハラズ到處獨逸ノ反對スル所トナリ屢々彼我ノ衝突ヲ見ルニ至レリ獨逸ノ外或ハ露國ノ總テノ隣邦ニ於テ殊ニ吾人ノ最モ多大ナル利害關係ヲ有スル地方ニ於テ常ニ吾人ニ對抗シタリ而シテ最初獨逸ノ行動ハ慎重隱約ノ裏ニ執ラレタルモ後ニハ漸次明々地ニ鋒鋦ヲ現ハスニ至レリ「ス

カンジナビヤ」諸國ニ於テ獨逸人及其幫助者ハ露國ト此等諸國トノ間ニ存在スル良好ナル關係ヲ破壞セントスル希望ヲ以テ最モ組織的ニ畫策セラレ露國ニ對スル不信ノ種子ヲ蒔ケリ「ガリシヤ」ニ於テハ同種ナル露西亞人ノ中心ニ内訌ヲ起サシメントノ目的ヲ以テ伯林ヨリ膏ラセル黃白ヲ散シ所謂邊疆騷擾事件ナルモノヲ人工的ニ支持シタリ吾人ト宗教ヲ同フスル羅馬尼ニ於テハ其國民間ニ存在スル露羅兩國利害關係ノ共通テフ認識カ獨逸ノ努力ノ爲ニ年ト共ニ漸次銷磨スルニ至レリ而シテ這般利害關係ノ共通ナルモノハ經濟上ニハ兩國互ニ境域ヲ接シ政治上ニハ埃匈國ノ苛政ノ下ニ我同種民人ノ多數カ存在スル所ヨリ來ル當然ノ結果ナリ勃牙利ハ吾人ト特殊ナル歷史的關係ニヨリ結合スルモノナルニ拘ハラス獨逸ハ有ユル手段ヲ盡シ之ヲ自己ノ勢力下ニ服從セシメント努メツツアリ土耳其ニ於ケル獨逸ノ露國對抗策ハ最モ顯著ナリシモノナリ予カ伯林ニ於テ信スベキモノト思惟セル說明ヲ受ケシ翌日獨逸政府ハ土京ニ於ケル軍政ヲ獨逸將校ノ掌裏ニ収メタル既成ノ事實ノ前ニ吾人ヲ服セシメント努メタルカ如キハ今更諸君ニ對テ叙說スルノ必要ナカルヘシ爾來土耳其ニ對スル獨逸ノ壓迫ハ益々其歩

ナレハナリ

獨逸ニ由リ惡意ヲ以テ流布セラレタル譏誣の風説中ニ恰モ露國軍隊カ猶太人ノ住屋ヲ破壞シ又同住民ニ對シ暴虐ヲ加フルカ如キコトヲ言ヘリ

予ハ今此ノ演壇ニ於テ其風説ノ全然譏誣ナルコトヲ辯セント欲ス即チ若シ猶太人が交戰地帯ニ於テ辛酸ヲ舐ムルトセハ其ハ戰爭ニ伴フ避クヘカラサル現象ニシテ苟モ同地方ニ在ル總テノ住民カ一樣ニ苦痛ヲ受ケツツアルモノトス夫ノ我波蘭ニ於テモ又白耳義及塞耳維ニ於テモ其ノ土地ノ甚シク荒廢ニ歸セシハ埃獨人ノ手ニ藉リテ爲サレシモノナルコトハ實地目撃者ノ確認スル所ナリトス前述ノ如キ譏誣ハ北米合衆國ニ於テ同國人ノ露國ニ對スル感情ヲ毀損セシメンカ爲メ獨逸官邊ヨリ特ニ熱心ニ傳播セラレタリ然リト雖モ米國人ノ常識ハ斯ル亡狀ナル欺瞞ヲ信スルコトヲ許ササルナリ予ハ露米兩國ノ良好ナル關係カ獨逸ノ中傷ニ由リ何等毀損セラルル所ナカリシヲ希望スルモノ也

尚獨逸カ吾人ト爭鬭スルニ一ノ方法アリ之ニ就キ予ハ茲ニ數語ヲ費スヲ無益ナリトセス其方法ト稱スルハ吾人同盟國間ヲ乖離セントスルノ計畫ナリトス之カ爲メ或ハ某々國ハ

ヲ進ムルニ至レリト雖モ之ニ就キ予ハ他ノ場合ニ於テ詳細ニ説明スル所アルヘキヲ以テ茲ニハ唯タ獨乙ガ如何ナル執着心ヲ以テ我カ歐洲隣境ノ全部ニ亘リ自己ノ政治的陰謀ノ目的ニヨリ吾人ヲ束縛セント試ミタルカラ述フルニ止メント欲ス

亞細亞ニ於ケル情態モ亦以上ト異ルコトナシ波斯ニ於テハ「ボツダム」協約並ニ之ニ關聯シテ吾人ニ與ヘタル明白ナル約束ノ精神ヲ沒却シ波斯ニ於ケル獨逸ノ代表者ハ露英兩國ノ特殊利益ニ對シ有ユル困難ヲ惹起セシメントシテ積極的運動ニ熱中シタリスノ如キ獨逸ノ陰謀ハ支那及日本ニ於テモ吾人亦之レアルヲ認ム即チ彼ハ日支兩國ヲシテ露國ニ反抗シテ起タシメント其全力ヲ傾注シタリト雖モ此ノ計畫ハ吾人ニ取り幸ニ成功スルコトナカリキ

以上述ヘ來リタル所ニ據リ獨逸カ三國協商側ヨリ迫害ヲ受ケタリト假想的ニ苦情ヲ唱フルヨリモ露國カ獨逸ノ迫害ヲ被ムリシ事實ノ如何ニ多大ナルカヲ見ルヲ得ヘシ

戰爭ハ獨逸ノ意思ニ反シ開始セラレタルモノナリトスル彼ノ自信ハ何等根底ナキモノナルコト瞭然タリ何トナレハ近時發表セラレタル外交文書ハ全然明確ニ其反證ヲ示スモノ

個々ニ平和條約ヲ締結セントノ希望アリトカ或ハ同盟軍ノ間ニ戰爭ニ關スル負擔ノ輕重ニ關シ不平アリトカ等常ニ虛偽ノ風説ヲ流布シツツアリ然レ共此等ノ計畫ハ何處ニ於テモ反響ヲ生ゼザリキ露國ニ於テハ國民間及同盟國間ノ一致ノ鞏固ニシテ分離スヘカラサルコト而シテ其關係カ日ヲ經ルニ從ヒ益々緊密ヲ加フルコトヲ明知シ居レリ共通の利益ニヨリテ結合シタル吾人ハ將來歐洲カ鞏固ナル平和ヲ確保スルニ足ルヘキ秩序ヲ樹立センガ爲メ敵ノ武力ヲ破壞スヘキ唯一ノ目的ニ向テ進ミツツアリ而シテ吾同盟國ハ密接ニ結合シ乃チ客歲八月二十三日(九月五日)堂々トシテ倫敦協約ヲ締結スルニ至レリ

吾人ハ其共同の事業ニ對シ全力ヲ傾注ス同盟國ハ露國カ無數ノ兵勇ヲ戰場ニ送り長大ナル戰線ニ於テ三帝國ト善戰シツツアル努力ヲ驚嘆スルナリ而シテ吾人ハ又其立場ヨリ我同盟軍ノ他ニ匹儔ナキ絶大ノ勇氣ヲ稱揚シ陸ニ海ニ吾人ニ對スル彼等ノ協力ノ眞價ヲ明知スルモノナリ予ハ茲ニ其痛苦ト功績トヲ以テ不朽ノ名譽ヲ負ヘル英雄的白耳義カ一般の事業ノ爲ニ發揮シタル努力ニ對シ又肝銘セサル可ラス予ハ今茲ニ露國國民ノ選良中ニアリテ我同盟國ニ向ツテ其誠

實ニシテ有力ナル協助ニ對シ衷心ノ感謝ヲ言明スルヲ欣幸トス

現時同盟國ト吾人トノ密接ナル結合ハ遙ニ現代ヲ超越シタル價值ヲ有スルモノナリ

政治上及軍事上ニ於ケル吾人ノ協同動作ハ近時財政經濟の性質ヲ帶ヘル新協商ノ上ニモ擴張セラレタリ吾人ノ前途ニ横ハル複雜ナル問題ヲ無事ニ解決スル上ニ此協商ノ意味アルコトハ諸君ノ注意ヨリ閑却セラルベキモノニ非ル也該協商ニヨリ露國及其同盟國ハ根本的ニ獨乙ヲ打破スヘキ決意ヲ以テ彼ト交戦スヘキモノナルコトヲ明確ナラシメタリ近頃發表セラレタル橙書 (livre d'Orange) ニ就キ諸君ハ露國カ土耳其ト開戦スルニ至レル「ボスホオル」ノ情勢ヲ知悉セラレシナルヘシ予ハ茲ニ獨乙ノ採レル行動ヲ指摘セザル可ラス

土耳其政府ハ獨逸將校ヲ招聘シ更ニ軍事使節トシテ「フオン、ザンデルス」將軍ヲ迎ヘ之ヲ以テ其軍隊ノ勢力ヲ強大ナラシメ若リニ伯林ヨリ傳ヘラルル危險ナル露國ニ對シ其獨立ヲ確保シ得ヘシト思惟シタルヤ勿論ナリ獨乙ニ至リテハ土耳其ヲ以テ自己ノ政治的企圖ヲ遂行スルノ機械タラシ

事業ヲ分擔センコトヲ言明シタリ一九一四年一月二十六日 (二月八日) 附露土協約ハ歴史的文書ニシテ之カ調印ニ據リ土耳其政府ハ「アルメニア」問題ニ對スル我特殊ノ位置ヲ認メタルモノトス左レハ戰爭終了後這般特殊ノ位置ハ帝國政府ニ於テ「アルメニア」人ニ對シ好意的方針ノ下ニ行使セラルヘキ也

塞耳維保護ノ爲ニ劍ニ仗リテ起チタル露國ハ同胞種族ニ對スル自己ノ遣訓的感覺ニ忠實ナルモノナリ唯今次ノ戰爭ハ塞耳維國民ノ精神ノ偉大ナルコトヲ吾人ニ表示シ連鎖ヲ以テ露國民ヲ塞國民ト結合シタリ

予ハ大ナル満足ヲ以テ黒山國カ全「スラーブ」族ノ爲ニ吾人ト共ニ勇敢ニ戰鬪シツアルコトヲ言明ス

我同盟國タル塞耳維ト安危ヲ共ニシタル友邦希臘ト露國トノ關係ハ最重要ナル性質ヲ有ス「エリン」民族ノ志望ハ今尚土耳其ノ桎梏下ニ存在スル同民族ヲ救済スルニ在リテ帝國政府ニ於テモ之ニ對シ同情ヲ表セサル能ハス

羅馬尼國トノ關係ハ昨年六月我皇帝陛下ノ「コンスタンザ」御訪問以來帶ビ來レル友好的性質ヲ保持シタリ羅都並ニ同國地方ニ於テ昨秋ヲ通シ繼續シタル露國ニ對スル同情の表

メント欲シ土耳其軍隊ニ漸次其勢力ヲ扶植シタルモノニシテ「ゲーベン」及「ブレスラウ」ノ兩艦カ土耳其領水ニ到達シタルノ日ハ即チ土耳其カ全然獨逸ノ手中ニ歸シタルノ時ナリトス爾來土耳其ノ行動ハ獨逸政府ノ壓力ノ下ニ進行シツアルモノナルコトヲ知ラザルベカラズ土國政府カ露國ノ沿岸ヲ襲撃シタル責任ヨリ脱セントスル努力ハ今更同國ヲシテ獨逸ノ爲ニ致サレタル危機界ヨリ脱セシムヘキモノニアラサルナリ予ハ露土國境ニ於テ完成セラレタル事件カ獨逸ノ後見ノ土國ヲ亡滅ニ導クモノナルコトヲ了解セシメ土耳其人ヲ覺醒セシムルコトヲランコトヲ希望ス而シテ此事件カ唯ニ露國ノ武器ニ新名譽ヲ加ヘタル耳ナラス露國ヲシテ自由ナル海面ニ門戸ヲ開キ得ヘキ經濟的及政治的問題ノ解決時期ニ近ツカシムルモノナリ

本日諸君ニ配布シタル「アルメニア」改革ニ關スル文書集ニツキ諸君ニ於テモ承知セラレ得ベキカ如ク帝國政府ハ最近數年間露國政策ノ私心ナキ遣訓並ニ帝國ノ利益ニ鑑ミ土耳其「アルメニア」人ノ狀態改善ニ努力シタリ伯林ニ於テ我「アルメニア」改革ノ可能的計畫ヲ察知スルヤ獨逸外交家ハ之レカ正當ノ實施ニ妨害ヲ加ヘントシテ故意ニ吾人ノ

示運動ハ則チ一方ニ埃匈國ニ對スル羅馬尼國民ノ反感的傾向ヲトシタルモノナリ

諸君ハ今予ヨリ總テノ非交戰國カ今回ノ戰爭ニ對スル關係ノ如何ナルモノナルカヲ聽カンコトヲ希望セラルルナル可シ蓋シ此等ノ諸國ハ露國及其同盟國側ニ附キテ戰爭ニ參加スルノ利益ナルコトヲ助言セラレサル可ラザリシモノナリ此等諸國ニ於ケル輿論ハ國民ノ理想ヲ胎成スル諸問題ニ對シ敏捷ナルモノニシテ夙ニ這般ノ意思ヲ表白シタルモノトス然リト雖モ諸君ハ吾ト友好關係ニアル此等諸國ノ政府カ目下尚ホ最後ノ決定ヲ爲サザルノ事情ニ顧ミ這般問題ニ對シ予カ明細ニ言及シ能ハサルコトヲ諒セラルヘシ蓋シ斯ル決定ヲ爲スハ彼等政府ノ事ニ屬ス若シ國民ノ宿望カ其政府ノ採擇スル處トナラザル場合ニ於テ其責任ヲ負フハ惟彼等政府アルノミ

予ハ以上非戰鬪國ニ言及シ茲ニ西班牙及伊太利カ敵國ニ在留スル我カ同胞保護ニ關シ容易ナラザル任務ニ服スルコトヲ衷心ヨリ感謝セサルヲ得ズ而シテ獨乙人ノ迫害ヲ受ケ瑞典國ヲ經由シテ歸國シタル我憐ムヘキ同胞ニ對シ同國カ表示シタル同情的斡旋ニ關シテモ亦一言セサル可ラス實ニ瑞

國人ノ這般斡旋ハ歸國同胞ノ證明スル所ニシテ吾人ハ之ヲ以テ衷心希望スル善隣交誼ヲ鞏固伸張セシムルコトニ新動機タランコトヲ期待スル也

若シ夫レ獨塊兩國ニ於テ抑留セラルル我同胞ニ關シテハ帝國政府カ彼等ノ苦痛ヲ輕微ナラシメ成ルベク彼等ヲシテ歸國セシムルコトニ就キ種々ナル方法ヲ講シ居ルコトヲ諸君ニ陳述スルヲ其義務ナリト信ス又同胞ノ捕虜ニ關シテハ帝國政府ハ彼等ノ狀態ヲ改善スルコトニ就キ歩ヲ進メツツアリ其一トシテ羅馬法王「ベネデクト」十五世ノ博愛仁慈ニ訴ヘ相互の基礎ノ下ニ少クトモ戰鬪力ヲ失ヒタル我軍人ニシテ之ヲ捕虜トシテ抑留スルハ唯殘忍ナル道德的苦痛タルニ止マルモノナレバ之ニ對シテ交換ヲ行ヒ各歸國セシメント爲シタリ思フニ法王ノ寛大ナル提言ハ各交戰國ノ等シク採用スヘキモノナルコトヲ信スル也、土國トノ戰爭開始以前ニ於テ吾人ハ一九一三年ノ秋開始セラレタル波斯灣ヨリ「アララツト」ニ至ル土波兩國國境劃定ニ關スル困難ナル事業ヲ完成シ右兩國間ニ多年ノ重大ナル紛議ヲ惹起セントシタル問題ヲ解決スルヲ得タリ露英兩國ノ仲裁ニ依リ波斯ノ土地ニシテ土國カ從來何等ノ權利ヲ有セサリシニ拘ラス

ガ同國ノ中立ヲ侵害スルモノニ非ルコト也抑モ露國軍隊ノ波斯領土内ニ駐屯スルコトナリタルハ數年以前ノ事ニシテ其目的ハ我領土ト隣接シ吾ニトリ最大至重ノ意義ヲ有スル地方ニシテ若シ土國ニシテ其一部ニ占據スルニ於テハ高架索ニ對スル作戰上好個ノ根據地トナル可キ波斯地方ノ秩序ヲ恢復シ且ツ之カ維持ニ任セントスルニアリ波斯政府ハ事實上自己ノ中立ヲ維持スヘキ實力アルモノニ非ルヲ以テ土國ノ中立侵害ヲ抗議シタリト雖モ何等ノ結果ヲ収ムルニ至ラザリキ

予ハ大ナル満足ヲ以テ波斯問題ニ關シテ露英ノ關係カ全然相互の信頼及誠意的協同動作ニ出ツルコト從來曾テ見サル所ナルヲ言ハントス如此キ狀態ハ同問題ニ關シ將來起リ得ベキ複雜ナル事件ヲ無事ニ解決スルニ最好ナル擔保ナリトス

吾人カ千九百〇七年及一九一〇年ニ於テ日本ト締結シタル協約ハ現時殊ニ著シク其効力ヲ發揮シ豐富ナル成果ヲ齎セリ今回ノ戰爭ニ於テ日本ハ吾人ノ味方トナリ彼我ノ關係ハ事實上同盟國タリ日本カ獨乙ニ布告シタル戰爭ハ太平洋面ヨリ獨逸人ヲ驅逐シ而シテ支那ニ於ケル獨乙ノ根據地タル

種々ナル要求ヲ提出シ且其一部ヲ占領シ居リタリシモノニ萬方露里ハ波斯ノ領土トシテ之ヲ収メタリ露土開戰ト同時ニ波斯政府ハ嚴正中立ヲ遵守スヘキコトヲ宣言シタリト雖モ斯ノ宣言ハ波斯人ヲシテ自己ノ味方ニ誘致セントスル獨逸土三國代表者ノ熱心ナル煽動の計畫ヲ阻止スルコトナカリキ、「ネジェフ」及「ゲルベル」ニ於ケル高級回教僧侶ヨリ發シタル檄文ハ露英兩國ニ對スル所謂神聖戰爭ニ波斯人ヲ引込マントスルモノニシテ獨逸土三國勝利ノ虛報ヲ傳ヘ波斯人ヲシテ同國ニ於ケル露英ノ干涉ヨリ脱出セントスル思想ヲ鼓吹シタリ此謀計ハ殊ニ「アゼルベージヤン」ニ於テ執拗ニ演セラレ土耳其人ハ同地方「クルド」人ノ一部ヲ其味方ニ引込ムヲ得タリ、尤モ「クルド」人ハ開戰以前ニ在リテ土領ニ於ケル同人種若クハ土耳其兵士ト連合シテ「ウルミヤ」及「ホイ」地方ニ於テ露國ニ對シテ敵對行爲ヲ開始シタルモノナリ、開戰後土國軍隊ハ先ツ波斯ノ中立ヲ破壞シテ其境域ヲ侵シ「クルード」人ノ無數ノ匪徒ノ援助ノ下ニ我軍隊ヲ駐屯セル地方ニ進入シ其結果「アゼルベージヤン」ヲシテ露土交戰地帶ノ一部タラシムルニ至レリ玆ニ注意ヲ要スルハ波斯ノ領土内ニ我軍隊ノ駐屯スルコト

膠州灣ハ日本ノ掌裏ニ歸シタリ八月二十三日（九月五日）

ノ協約ニ日本政府ノ調印ヲ缺クモ而モ日英同盟條約中ニハ兩締約國カ單獨ニ平和ヲ締結スルコトナキ双方ノ義務ヲ規定シアルヲ以テ今回ノ戰爭ニ於テモ獨逸政府ハ英國ト平和ヲ締結スルニ先チ從ツテ佛露兩國ト講和スルニ先チ日本ト之カ締結ヲ爲スコト能ハサル也日露兩國間既成ノ關係ハ近時日本政府カ支那政府ニ提出スルヲ必要ト認メタル要求中ニ於テ露國ノ利益ト相反スル何物ヲモ含マサルコトノ確信ヲ吾人ニ與フ

露支ノ關係如何ト見レハ是亦近時良好ニ向ヒツアルヲ悦フナリ蒙古問題ニ關シ露支兩國ノ委員カ恰克圖ニ於テ從事シツツアル談判ノ進捗ハ固ヨリ緩漫ナリト雖モ然カモ平和的ニシテ予カ他日諸君ニ對シ對外關係ヲ説明スル場合ニ於テ同談判カ無事ニ終了シ而シテ外蒙古ノ内治上ニ全然獨立ヲ保タントスル蒙古人ノ希望ヲ満足シ得ヘキ露支蒙三國條約ノ締結セラレタルコトヲ報告シ得ルコトヲ期待スルモノ也而シテ此條約カ外蒙古地方ニ於ケル露國ノ利益ヲ保護スルト同時ニ支那ヲシテ恥辱ヲ感セシムルコトコレ無カルベシ

諸君、終ニ臨ミ予ヲシテ一ノ希望ヲ述フルコトヲ得セシメヨ半歳以前一大決心ヲ要スル峻嚴ナル時期ニ於テ政府及諸君カ代表セラルル國民ハ皇位ヲ中心トシテ緊密ニ結合シ和衷協同シテ全露國防衛ノ爲メニ起テリ當時發揚セル同心一致ハ凡テ吾人ヲ抱擁シ至難ナル功業ニ向ツテ吾人ヲ進マシメタリ吾人ハ將來ニ於テモ其着手セル事業ヲ完成センガ爲和衷協同シテ之ニ當ル可キナリ而シテ吾光榮アル軍隊ノ勇武ニ由リ収メ得タル所ヲ處理スルニ當リ政府ハ露國ノ幸福ト名譽トニ關シ其前途ニ横ハル複雜ナル政治的問題ヲ解決センカ爲メ議會ニ於テ親善ナル國民ノ援助ヲ期待スルモノ也

二八七 三月十七日

在シアトル高橋領事ヨリ
加藤外務大臣宛

米國在留露國予備兵召集ニ關シ報告ノ件

政公第六三号

(四月九日接受)

大正四年三月十七日

在シヤトル

領事 高橋 清 一 (印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

公第四七号

(四月十四日接受)

大正四年三月二十六日

在露

特命全權大使男爵 本野 一郎 (印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

過般來露都ニ開會中ナリシ全露國貴族団代表者大会ニ於テ會員中ヨリ「ダーダネル」海峡及君士丹丁堡問題ニ關シ決議案ヲ提出シ同問題ニ對スル露國貴族全体ノ斷乎タル決心ヲ中外ニ宣明スヘシトノ動議ヲナセシモノ有之候処現下ノ時局右様ノ決議ヲナスハ聊カ穩當ヲ欠クヘシト二三反對ヲ唱フルモノ有リシニ拘ハラス會員ノ多数ハ之ヲ採用スルコトヲ決シ右原案ニ多少文字ノ修正ヲ加ヘ本月二十四日大会最終日ノ議場ニ於テ左記ノ通り決議文ヲ發表致候

全露貴族団代表者大会ハ今次ノ世界の大戦争カ露國及其同盟國ノ全捷ヲ以テ終局スヘキコトヲ確信シ一般勝利ノ必然の結果ノ一トシテ君士丹丁堡カ露西亞帝國領有ノ下ニ歸スヘキモノナルコトヲ予想スルモノ也國民の意識中ニハ聖ソフヒヤ寺院ノ塔上高ク十字架ヲ掲揚シ東方教會(正教)ノ最高法院ヲ往昔ノ盛時ニ回興スヘキモノ露國

在留地露國總領事ハ管内ノ「ワシントン」「オレゴン」「アイダホ」「ワイオミング」「モンタナ」諸州及「アラスカ」ニ於ケル各種露國予備兵ニ召集ヲ發シ四月十三日迄ニ露國ニ到着スベク然ラザルモノハ脱走者ト看做スベシトノ通知ヲナシタル趣ニテ右ニ關シ三月十六日「ビー、アイ」紙ノ記事ニ依レバ管内ニ二万五千人ノ予備兵残り居レリ之レガ輸送ニハ露國義勇艦隊ヲ使用スベシトノ意味有之点ニ付キ序ヲ以テ当地露國總領事ニ問ヒ合セタル処召集ノ命令ヲ發シタルハ事實ナルモ人員二万五千又義勇艦隊ニテ輸送云々ハ誤報ニシテ總領事ノ考ニテハ管内ニ參百位予備兵アルベシトノコトニ有之候

尤モ紐育州ヲ筆頭トシ東部諸州ニ於テハ多数ノ露國出生者(露國人種ノミニ非ズ)居住シ居ルニ付今回ノ予備兵召集ハ合衆國全体トシテハ相當ノ人員ニ上ルコトト察セラレ候右御參考迄報告申進候 敬具

本信写送附先 米國駐在陸軍武官

二八八 三月二十六日

在露國本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛

ダルダネル海峡問題ニ關スル件

皇帝ヲ措ヒテ他ニ何人モ之レ無シトノ確信ノ深ク潜在スルモノアリ而シテ露國ノ生存の利益ハ「ボスフォル」及「ダーダネル」海峡ニ對スル一切ノ敵襲ニ對シ海陸兩方面ノ防禦ヲ恒久ニ安全ナラシムル条件ノ下ニ同海峡ノ領有ヲ最モ痛切ニ要求スルモノトス

露國貴族団ハ御承悉ノ通露國社會ニ於ケル最モ有力ナル団体ニシテ同団体ノ意見ハ大ニ重要視スヘキトコロ今般海峡問題ニ關シ右様ノ決議文ヲ發表シタルハ時節柄注意スヘキ事實ニシテ同問題ニ對スル露國輿論ノ趨嚮ヲトスヘシト被存候右御參考迄及報告候 敬具

二八九 六月十日

在モスクワ平田總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

モスクワ市ニ對敵國人暴動勃發ノ件

第四二号

(六月十二日接受)

六月十日午後當市ニ於テ對敵國民暴動勃發シ主トシテ労働者及學生ヨリ成ル群衆ハ独塊人ノ經營セル商店ニ闖入シテ家具ヲ破壊シ商品ヲ奪掠スル等全市ニ亘リテ暴行ヲ逞フシ一時未曾有ノ無秩序ヲ現出シタルカ夜ニ入りテ漸次鎮靜シタリ右ニ對シ今十一日軍政長官ハ特ニ諭告ヲ發シテ如斯基

行動ハ徒ニ敵ノ激昂ヲ招クニ止マリ戦局ノ發展上我ニ不利ヲ来スモノナルヲ切言シ今後同様ノ企ニ対シテハ斷乎タル措置ニ出ツヘク且示威運動其他一切ノ集合ヲ禁止スル旨ヲ説明シ又市長モ市民カ各自相戒メテ此際妄動輕挙ヲ慎ムヘキ旨警告シタリ

(露都經由大正四年六月十一日後六、四〇發第六〇六号)

二九〇 六月十二日 在モスクワ平田總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

モスクワ市内形勢險惡ニ付夜間外出禁止令發

出ノ件

第四三号

(六月十三日接受)

往電第四二号ニ関シ六月十一日朝来市ノ要所ハ軍隊ヲ以テ警備セラレタルカ午後ニ至リテ暴行ヲ始メ数ヶ所ニ放火シ軍隊ト衝突シテ死傷者ヲ生スル等形勢頗ル險惡ナルヲ以テ軍政長官ハ同日以後午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間一般民衆ノ外出ヲ禁スル命令ヲ發シタリ今回ノ暴動ハ最近露軍敗戦ニ対スル鬱憤力戰爭継続ニ基ク一般生活上ノ困難ト相俟テ勃發セルモノノ如ク從テ或ハ何時一転シテ純然タル内乱ノ性質ヲ帶フルニ至ルヤモ計リ難ク警察官憲カ当初傍觀ノ

モ測リ難キ形勢相見エ候処十一日以後官憲ニ於テ嚴重ナル鎮圧手段ヲ執リタル為メ事態ノ發展ヲ見ルコトナク翌十二日以来全ク鎮靜ニ帰シタル次第ニ有之候今其ノ筋ノ公報其他ニ基キ事件ノ經過ヲ叙述シ茲ニ重テ供貴覽候
本件ニ関スル其筋ノ公報左ノ如シ

五月廿八日(六月十日)全莫斯科市ニ於テ最モ激烈ニシテ而カモ不測ノ変事演出セラレ実ニ二百万ノ人口ヲ有スル同市ハ其ノ平和ヲ攪乱セラレ我敵国民ニ属スル店舗ヲ蹂躪セルノ恨事ニ遭遇セリ抑モ本事件ノ發生セル久シキ以前ヨリ我露国内ニ住居スル独逸人カ有ラユル手段ヲ講シテ同国民ヲ掩護シ以テ露国人ニ多大ノ損害ヲ与ヘントセリト巷説喧伝セラレ偶々數個ノ工場ニ於テ使用職工中激性ノ胃病ニ罹リ或者ハ生命危篤ニ陥レルヲ報セラルルヤ右ノ風説ハ更ニ勢力ヲ加ヘ独逸人ハ故ラニ飲料水ニ毒藥ヲ投セルモノナリトノ虚説サヘ生スルニ至レリ是ニ於テ罹病者ヲ出セル工場ノ職工ハ其ノ事務所ニ迫リ独逸人ヲ解雇センコトヲ請求シタルカ固ヨリ事實無根ナルヲ以テ之ヲ斥ケタルニ軈テ五月廿七日(六月九日)「チンデリ」及「シュレーデル」ノ両工場ニ於テ突然暴動發

態度ヲ守リ恰モ暴行ヲ默認セル觀アリシカ如キ畢竟此種ノ危惧ニ基ケルモノト察セラル

(露都經由大正四年六月十二日後一〇、〇三發第六〇七号)

二九一 六月十八日 在モスクワ平田總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛

モスクワ市ニ於ケル暴動顛末報告ノ件

政第一二七号 (七月十四日接受)

大正四年六月十八日

在莫斯科

總領事代理 平田 知夫(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

莫斯科市ニ於ケル六月十日以來ノ出来事ニ関シテハ同月十一日發往電第四十二号及同十二日發往電第四十三号ヲ以テ不取敢及報告候処元来今回ノ暴動タル最近「ガリシヤ」及「リバウ」方面ノ敗報荐リニ到ルニツケ今更ノ如ク独逸人ニ対スル憤怨ノ度ヲ高メタルト一方戰爭継続ニ基ク物価高騰ノ為メ下級社会ノ生活上ノ困難漸次甚タシキヲ加ヘタル等種々ノ事由ト相俟チテ爆發ヲ見ルニ至リタルモノノ如ク一時ハ何時一転シテ純然タル内乱ノ性質ヲ帶フルニ至ルヤ

生シ職工ハ独逸高級事務員ノ住宅ヲ破壊シ家人ニ暴行ヲ加ヘタルヲ發端トシ遂ニ廿八日ノ樺事ヲ惹起セリ

廿八日午前十時「ボロウイツキー、ワロータ」街ニ小群集現ハレ露国国旗ヲ擁シ或者ハ皇帝ノ御真影ヲ奉戴シ国歌ヲ奏シツツ前進シ通行人ノ之ニ和シ各方面ヨリ脱帽シテ列中ニ加ハルモノ多數ニ及ヒ漸次増加シテ遂ニ大群集トナリ皇帝及軍隊ノ万歳ヲ連呼シツツ「クラスナヤ、ブローシチアヂ」広場ヘ押寄せタリ

群集ノ一団ハ其ノ附近ノ勸工場ニ驀進シ商店破壊ニ着手シ劈頭先ツ「エイネム」及「チンデリ」ノ両店其ノ犠牲トナレリ当初ハ一人トシテ商品ヲ掠奪スルモノナク地上ニ放棄シ之ヲ寸断シ或ハ土足ヲ以テ踏ミ破ルニ止マリ窃カニ持去ラントスルモノアレハ之ヲ捕ヘ悉ク切斷シ破壊セリ斯クシテ暴拳ノ報一度全市ニ伝ハルヤ暴行ノ場所ニ集合スルモノ大多數トナレリ

警官ハ是等暴動ノ不意ニ起リ且ツ群集ノ數無慮數千人ニ達セルカ為メ之ニ対シ全ク防止スルノ策ナク放任シタルニ群集ノ一隊ハ「キタイ、ゴロド」(最モ繁華ナル場所)ノ独逸商店ニ向ヒ一団ハ「ルビヤンスカヤ、ブローシチ

「アヂ」「ペトロフカ」及「クヅネツキー、モスト」等ノ各街衢ニ前進シ暴行ハ到ル処ニ同時ニ演セラレタリ当初暴徒ハ指揮者ノ命令ニ服従シ独塊人ニアラサル商店ニ対シテハ最モ注意ヲ加ヘタリ予メ指揮者ノ所持スル名簿ニ依リ一ノ商店ヲ破壊シ漸次他ノ指定ノ商店ニ到ルヤ指揮者ハ先ツ店舗ニ入り間糺シ若シ店員ノ独塊人ニアラサルコトヲ弁解スルヤ之カ証拠ヲ請求シ其ノ確實ナルモノハ之ヲ除外シ群集ニ前進ヲ命シ群集ハ之ニ応シ毫モ違背スルコトナク敢テ輕拳妄動スルモノナカリシモ漸次大部隊トナリ指揮者モ遂ニ之ヲ指導スルヲ得サルニ至ルヤ群集ハ破壊ヲ擅ニシ殊ニ酒類ノ倉庫ヲ破壊セル以後ハ狂酔者ヲ交ヘ益々暴行ヲ逞フシ畜ニ商品ヲ破壊スルニ止ラス掠奪ヲ開始スルニ至レリ婦女及幼年者ハ各方面ニ於テ暴行ノ場所ヨリ物品ヲ持去リ殊ニ薄暮ニ近カントスル頃ハ見苦シカラサル服裝ヲ為セルモノ亦之ヲ行ヘリ已ニシテ群集ハ破壊セントスル商店ハ何人ノ有ナルヤ否ヲ探知スルナク単ニ店舗ノ姓名カ露国姓ニアラサルモノハ悉ク破壊シ去リ斯クシテ勢カラサル露国臣民ハ災厄ヲ蒙ルルニ及ヘリ

夜間ニ入り暴徒ハ益々專横ヲ極メ數ヶ所ニ火災起リ破壊セル商店ニ放火セルモノアリ火災ハ翌朝ニ至ル迄終熄セサリキ夜間ハ八時以後一切ノ店舗ハ閉鎖シ何等ノ証拠ヲ提示スルモノナカリシヲ以テ其ノ何人ニ属スルヤ全ク弁知スルノ遑ナク擅ニ破壊シ終レリ翌廿九日午前三時ニ至リ稍靜穩ニ赴キ午前五時ニ至リテ全ク鎮靜ニ帰セリ莫大ノ財産ハ委棄セラレ多數ノ商店ハ全商品破壊ノ為メ閉鎖セリ暴動ノ最初ニ當テハ勞働者之ニ参加セルモ群集ノ漸次龐大ヲ加ヘ暴動全市ニ蔓延スルヤ彼等ハ各自解散シ帰宅セリ破壊セラレタル商店數及損害ノ程度ハ未タ不明ナリ

廿九日朝群集ハ再ヒ暴行ヲ繼續セントセルモ警官及軍隊ハ集合ヲ嚴禁シ直ニ解散セシメタリ
右ノ記事ハ大体ニ於テ其ノ真相ヲ得タルモノニシテ当日ノ狀況ヲ推察スルニ難カラサルモ實際ハ迥ニ横暴ヲ極メタリ越エテ翌十一日莫斯科軍政長官ハ左ノ告示ヲ發表セリ

五月廿八日莫斯科市ニ於テ悲ムヘキ事件發生セリ其ノ起因ハ工場ヨリ敵国臣民ヲ驅逐セントスルノ意嚮ニ胚胎シタルモノナルモ遂ニ僞激ナル暴行ヲ惹起スルニ至レリ群

集ハ外国姓ヲ有スル商店ニ對シ畜ニ硝子窓ヲ破壊スルニ止ラス商品ヲ破壊シ之ヲ掠奪スルニ及ヘリ是等暴行ニ婦人及疑ハシキ年少者ノ加入セルハ最モ恥辱トスヘシ余ハ

ルヘク且ツ市街ニ於テ集合又ハ示威運動ヲ嚴禁セルコトヲ告示ス

是ノ暴動ニ関シ市民ニ向ヒ露西亜国内ノ秩序ヲ乱スハ徒ニ敵国ノ意氣ヲ興奮セシメ戰意ヲ昂ムルモノタルノミナラス露国最後ノ勝利ヲシテ遂ニ延滞スルモノタルヲ告ケントス露国民ヨ一度卿等ノ為メニ戰ヒ且ツ我露国内ニ独逸人ノ侵入ヲ防カントスル卿等ノ光輝アル我同胞ノアルヲ想ヘハ自ラ彼等ノ至大至聖ナル任務ヲ阻碍スルコトナキヲ期セサルヘカラス露国ノ利益ヲ擁護スルカ為メ我皇帝陛下ニヨリ任命セラレタル官憲ノ存スルコトヲ記臆スヘシ同時ニ官憲ハ露国ノ安寧ヲ維持シ自ラ制裁ヲ他ニ加ヘントスルノ暴民ヲ膺懲スルニ足ルコトヲ記臆スヘシ余ハ莫斯科ニ於ケル是等ノ權限ヲ委任セラレタルモノトシテ就任ノ初日ヨリ独逸ノ圧迫ト戰ヒ敵国民カノ波及ヲ拒クニ努ムルヲ確信スルト共ニ断シテ余カ權限ヲ侵害スルヲ許ササルコトヲ警告ス同時ニ個人ノ生命財産ニ對シ何等カ危險ヲ及ホスノ暴行ヲ敢テセントスル場合ハ仮令敵国人ニ對スル時ト雖モ之カ鎮圧ニ最モ嚴重ナル手段ヲ執

右ト同時ニ莫斯科市長ハ臨時市会ノ決議ニ依リ軍政長官ニ對シ鎮圧方ヲ請願シ遲滞ナク秩序ヲ回復スルコトヲ計リ市民ニ對シ勞働者職工ヲシテ速ニ就業セシメ拮据勞役セシムルコト一日ノ休業ハ一日敵国ヲ利スル所以ナル旨ヲ告示シ其ノ反省ヲ求メ莫斯科大主教ハ同シク暴行ハ上帝ノ旨ニ悖ルモノナルヲ述ヘ各自ノ戒慎ヲ促ス等百万之カ鎮靜策ヲ講シ軍政長官ハ再ヒ十一日午後ニ至リ一般市民ニ對シ軍政長官或ハ警視總監ノ許可ヲ有スルモノヲ除ク外午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間市中ノ通行ヲ禁スルコト且ツ藥舖病院及傷病兵收容所ヲ除ク外一切ノ家屋ハ右時間中出入口ヲ閉鎖スヘキコトヲ命令シ玆ニ全ク一時猖獗ヲ極メタル暴行モ頓ニ屏息シ翌十二日以後ハ秩序ヲ回復シ從來ト異ナルナキニ至リ通行禁止ノ命令ハ十三日ニ至リ撤廃セラレタリ

目下本事件ニ関スル善後策トシテ犯人ノ檢挙ニ從事スルト一方被害者ノ調査ヲ進行セシメツツアリ新聞紙ノ報ニ拠レハ今日ニ至ル迄ノ調査ニテ商店約四百七十五戸住宅其他約二百〇七戸損害額約五千万留ニシテ内独塊臣民ニ属スルモ

ノ約百十三戸外国姓ヲ有スル露国民国及親好国臣民ノ分約四百九十戸残余ハ純粹ノ露国人ニ属スル由ニテ右以外ニ尚ホ調査未了ノモノ百七十八戸ノ見積ナリト云ヘハ合計破壊家屋約一千戸ニ近カルヘシ

右報告申進候 敬具

二九二 六月二十四日

在英國井上大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

歐洲戦局ニ関シ報告ノ件

第三五〇号

(六月二十七日接受)

戦局目下ノ情況ハ一般ノ報道ニ依リ御承知相成ルヘキ如ク多年ノ熟考ト挙国一致ノ努力ニ基ク独逸戦闘力ノ発現ハ遠ク聯合列強ノ予想外ニ出テ昨秋以來聯合列強ノ計画タリシ春期攻勢作戦ハ事実空望ニ帰シタルノミナラス東方面ニ於テハ露軍ハ今ヤ全然守勢ニ立ツノ已ムヲ得サルニ至リタル上ニ西方面ノ戦勢ハ二三仏軍ノ部分的成功ニ拘ラス大体ニ於テ昨秋来ト同一ノ戦線ニ依然対峙ノ姿ヲ脱セス「ガリポリ」方面モ事実塹壕戦ニ陥リ聯合軍ノ攻撃ハ差向キ発展ノ見込ナキハ今ヤ一般公知ノ事実ニ属セリ独リ埃伊境上ニ於ケル伊国ノ作戦ハ案外進捗ノ観アルモ戦局ノ根本的開展ハ

当方面ノ人心ヲ快クシタルモ国王ノ病氣加フルニ独逸側ノ陰謀熾シニシテ議會開会ト共ニ内閣交迭行ハルヘキヤ否ヤスラ危フマレツツアル有様ニテ要スルニ巴爾幹三国ハ大体ニ於テ何レモ形勢望観両端ヲ持シ急ニ態度變更ノ模様ナキハ明カナリ

事情斯クノ如ク戦局当分開展ノ見込ナキコト前途転々遼遠ナルコトハ益々当国人心ニ印象シ居ルト同時ニ此等見地ニ基ケル政府施設ニ対スル国民各階級ノ熱誠ハ日ニ益々昂騰シツツアル様見受ケラル「タイムス」軍事記者 Repington 大佐モ露軍ノ Leopold Berg 撤退ト關聯シ戦局ノ現状ハ一ニ聯合軍側ニ於テ準備不足ニ原因スト論シ英國モ露国モ玆ニ論述ノ要ナキ理由ニヨリ未タ以テ重ナル戦場ニ各自戦闘実力ヲ持来ス能ハサル次等ナルニ付独逸トノ決戦ハ来年春期迄之レヲ遷延スルノ外ナク此ノ間我方ハ英露兩國トモ適当ノ規模ニ武器彈藥ヲ整ヘ得ル迄防禦策 (To play out time) ヲ執ルノ万已ムヲ得サルヤモ知ルヘカラス斯クノ如キハ我方トシテハ辛ラキ所ナリト雖モ吾人ハ素ヨリ之ヲ忍ヒ通ス覚悟ナカルヘカラスト論シ居レリ

大体ニ於テ当国識者ノ所見ヲ反影セルモノト信ス右散見

一五 露国内政關係雜纂 二九三

固ヨリ此方面ヨリ望ミ得ヘキニアラサルハ識者ノ夙ニ認ムル所ニシテ「グレー」氏モ曾テ此ノ意味ノ談話ヲ本使ニ為シタルコトアリ(伊国宣戰當時「グレー」氏ハ本使ト会谈中伊国軍活動ノ舞台タルヘキ埃伊国境ハ概シテ險阻ノ山地ニシテ攻ムルニ難ク守ルニ便ナルノ地勢ナレハ伊国軍力此ノ方面ヨリ敵国ニ著大ノ打撃ヲ与フルカ如キハ急ニ望ミ得ヘキニアラス從テ伊国戦争参加力直ニ戦局ノ上ニ特ニ見ルヘキ展開ヲ齎スモノトハ思ハレス只從來仏国海軍ニ於テ引受ケ居リタル「アドリアチック」ニ於ケル埃伊海軍ノ押ヘハ今後伊国海軍ニ於テ主トシテ之ニ当ル事トナルヘク何ノ途英仏海軍ニ取リテハ多大ノ援助ナリ此ノ一事ハ差向キ伊国戦争参加ノ直接結果ト見ラルト語レリ)

各方面戦場ノ形勢ハ上述ノ如クナルカ更ニ巴爾幹諸邦ノ向背ニ付テハ夙ニ聯合軍側ト見做サレタル羅馬尼モ依然形勢觀望ノ地位ニ在リ(同国ハ往電三六号英國ヨリノ借款ト前後シテ埃国ヨリモ借款ヲ為シタルハ疑モナキ事実ナルカ如シ)同国ハ勿論勃牙利ニ対シテモ聯合列強側ヨリ戦争参加ヲ促ス為提議協商中ナルモ未タ見ルヘキ効果ナク独リ希臘ニ関シテハ最近総選舉ニ於ケル Venizello 派ノ勝利ハ頓ニ

ノ低御參考迄申進ス

二九三 六月二十五日

在英國井上大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

歐洲戦局ニ関スル「タイムス」社説報告ノ件

第三五三号

戦局ニ関スル六月二十五日「タイムス」社説大要左ノ如シ今日ニ至ル迄我国民ハ(不明)手段ト目的トヲ混同シ遅レバセニシテ併カモ早急ニ出デタル我方ノ活動ヲ以テ直ニ勝利ノ予兆ナリト見做スノ傾アリタルモ、コハ誤謬ノ最モ甚シキモノナリ仏国方面ニ於ケル戦況ハ如何同方面ニハ激戦絶エス兩軍ノ死傷頗フル多大ニシテ最近仏軍ハ勇敢猛烈ナル攻撃ニ出デ Arras ノ北方ニ於テ幾多重要ノ地点ヲ占領シ得タルモ併カモ深く敵ノ防禦線ヲ突破シ敵軍ヲ其国境内ニ驅逐スルカ如キハ到底近キ将来ニ其ノ見込ナク英軍ハ重砲強爆発彈機關砲等ノ供給充実セサル間到底十分其威力ヲ發揮スル能ハス併カモ之レカ軍需品ノ充実ハ尚數ヶ月ノ時日ヲ要スヘシ將來独軍カイツ何時攻撃ニ転シ從前ヨリモ一層用意アル計画ト優勢ノ勢力トヲ以テ Calais 進出ヲ企ツルヤモ知ルヘカラスルコトハ吾人ノ予テヨリ確信スル所ナ

四六九

ルカ将来ノ予想ハ兎ニ角現時ノ *hard facts* ハ既ニ深く吾人ヲ憂慮セシムルニ至ルモノアリ *Lemberg* 陥落カ軍略上左迄重大ナラサルハ事実トスルモ敵ニ与ヘタル精神上ノ効果ハ蓋シ莫大ナルヘク露軍カ敵ニ多大ノ打撃ヲ与ヘツツ其大部隊「ガリシヤ」ヨリ撤退シ得タルハ最も喜フヘキ事実ナルカ。

露軍退却原因ハ我ト同様軍需品ノ不足ニ在リ之レガ補給ニハ幾多ノ時日ヲ要スヘキヲ以テ露軍ハ再ヒ攻勢ニ転スルノ日ハ到底当分ノレヲ望ムヘカラス之レヲ要スルニ仏露兩方面ニ於テハ目下急速戦局發展ノ見込ナシ更ラニ「ダーダネルス」方面ヲ見ルニ是亦神速成功ノ見込絶ヘ今や多大ノ兵力ト軍需品ノ必要急ヲ告クルノ状態トナレリ只目下發展ノ曙光ヲ認メ得ヘキハ独リ伊太利方面ナルノミ伊太利ハ未タ大規模ノ作戦ニ出テス其ノ軍器ハ充分充実セルヲ以テ同國ニシテ愈其ノ時ニ至ラハ或ハ大局ニ影響ヲ及シ得ルニ至ラシカ戦局ノ大勢ハ叙上ノ如シ併カモ今日我方 *Great asset* ハ不屈不撓斷シテ独逸ヲ屈服セシメ以テ人類ノ歴史ノ *Whole future Course* ヲ變更セントスル危険ヨリ世界ヲ救済セサルヘカラストスル同盟各國ノ牢固不拔ノ決心之レ

ナリ「ガリシヤ」ノ敗戦ニ拘ハラス露國ノ意氣ハ依然タリ其ノ國民ノ精神ハ益々揚カリツツアリ仏國ノ決意ハ斷乎トシテ抜クヘカラス若シ夫レ我英國國民ニ至リテハ時局ノ真相大ニ明白トナルニ從ヒ其ノ意氣込日ニ増シ熾烈ヲ加ヘツツアルナリ云々

二九四 六月二十六日 在英国井上大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

タイムス外報部長ノ時局談要領報告ノ件

第三五六号

六月二十五日「タイムス」外報部長 *Geed* ガ本多ニナシタル時局談要領左ノ如シ

戦局ノ現状ハ御承知ノ通ナルカ聯合列強側ノ決定ハ益々鞏固ナリ英國ハ今ヤ覺醒セリ *Now the country is awake Joffe, Delcasé* 以下朝野各方面三十余名ノ有力者ト会见種々意見ノ交換ヲ試ミタルニ仏國ノ決心ト自信ノ確乎タルハ今更ニ敬服シタル所ナリ(本多ハ一般人民ハ如何仮リニ戦争カ今二三年継続スルモノトセハ仏國人ノ意氣ハ中途ヨリ沮喪スルカ如キナカルヘキヤト尋ネタルニ同氏ハ二三年

云々ノコトハ予ハ暫ク之ヲ知ラス唯彼等仏國人カ尠クトモ今一年戦争ニ堪フル意氣ト実力アルハ予カ実験上確認スル所ナリト答ヘタリ)露國近來ノ戦敗ハ御承知ノ通 *Equipment and ammunition* ノ不整ヒニ依ルコトナルカ最近「ガリシヤ」方面戦闘中独逸軍ノ損害多大ナルニ拘ハラス露軍ハ何等其ノ実力ヲ損失セシテ軍略的退却ヲ全フシタルハ敵ノ大ニ失望シ居ル所ナラン併カモ軍器彈藥ノ不足ハ当分露軍ヲシテ攻勢作戦ニ出ルコトヲ許ササルヘキモ露國ハ流石ニ露國ナリ本日予ノ会见セル某商人ノ談ニ依レハ露國ハ現在ノ戦闘員ノ外尚一千万ノ *trained men* アリト云フ是等ノ壯丁武裝シ使用スル迄ニハ未タ時日ト準備ヲ要スルモ露國武力ノ資源ハ寔ニ莫大ナリト云ハサルヘカラス前述ノ露國人ハ最近莫斯科ヨリ戦線ニ赴キ総司令官「ニコラス」ニモ謁見シタル趣ナルカ沿道各地ノ所見ニ依ルニ露國ノ百姓ハ挙テ今回ノ戦争ヲ以テ露西亞民族ニ取リテノ *Holy war* ナリトテ其熱誠非常ナリト云フ國民ノ意氣込右ノ如クナル以上ニ政府部内ノ親独派ハ疾ク既ニ確実ニ片付

ラン居ルロト (*They have been fastly stamped out*) 故露國ノ態度ニ付テハ何等懸念ナシ但シ現下露當局中ノ人物

ハ先ツ「ニコラス」太公ト新任内務大臣ノ二人ナルカ如シ予ハ露ノ為寧ロ最近ノ敗戦ヲ祝セント欲ス此失敗ニ依リ露國モ玆ニ猛然トシテ國力ヲ傾注シテ最善ノ努力ヲナスニ至ルヘキヲ以テナリ尚右ノ次第ニテ時局ニ對スル聯合列強各自及相互間ノ態度ニハ何等懸念スヘキ所ナシ最近五六日來ノ軍情ニ付テハ未タ内幕ノ消息ヲ聞キ居ラサルモ惟フニ西方面ノ戰場ニ於テハ独軍ハ遠カラス英仏軍ニ對シ総攻撃ヲ行ヒ來ルコトトナルヘシ尚其内聯合列強間 *Military Conference* 催サルヘキ模様ナリ

初メ世人ハ多ク開戦ト同時ニ獨逸國ノ瓦解ヲ見ルヘシトナセリ併カモ事實ハ之ニ反シ獨逸國各部ノ結合ハ今日程鞏固ナルナシ寔ニ未曾有ノ現象ト云ハサルヘカラス *Tisza* *Kaiser* ハ今次時局ノ大立物ニシテ禍乱ノ源ハ此二人ニ外ナラス本日最近維也納ヨリ來リタル *Trieste* 某銀行家中立國人ノ來談ニ依レハ獨逸國ノ金融狀態ハ頗ル良好ニシテ貨幣潤沢ナリ但シ貨幣ト云フモ紙幣ノコトニテ開戦以來紙幣發行額三億万磅ニ達セルト云フ正貨準備ハ開戦當時約七千万磅アリシカ現在ニテハ三千万磅弱ニ減ス去リ乍ラ殆ト貿易杜絶ノ今日海外仕払ノ為メ金貨ノ必要ナク國內金融ハ紙幣

流通ニヨリ何等故障ナク軍事公債発行モ円満ニ行ハレタリトノコトニ付予ハ然ラハ戦争明日終了スト仮定セハ埃國ノ財政状態如何ト糾シタルニ同人ハ勿論破産ナリ而シテ其場合埃國ノ支払能力ハ多分其債務ノ一割一位ナルヘシ独逸國モ無論破産スヘク(独逸國現在正貨準備ハ一億二千万磅)其支払能力ハ債務ニ対シ一割五六分ヲ出テスト述ヘタリ要スルニ独埃兩國共其戦勝ヲ抵当トシテ財政ヲ運用シツアルモノト云フヘシ云々ト

二九五 六月二十八日

加藤外務大臣ヨリ
在露國本野大使宛

露國政況内情等精確報告方訓令ノ件

政令送第一四二号

歐洲戦乱發生以來敵國ニ關スル諸情報ヲ集ムルノ必要ハ申ス迄モ無之候ヘ共同時ニ貴任國ノ政況、内情其他參考トナルヘキ諸情報ハ精細且確實ニ承知致置クコトモ亦最モ必要ノ儀ニ有之貴官ヨリモ從來隨時御報告ハ有之候次第ニハ候ヘ共今後トモ一層御注意ノ上電信又ハ郵便ヲ以テ御報告相成候様致度爲念此段申進候也

挙國一致困難ニ當ルベシトノ声ヲナスモノアリ。六月八日ノ全国実業家大会決議文中ニモ議會召集ヲ希望スル旨ノ一節アリ。然ルニ前内相「マクラコフ」ハ議會召集ニ關スル論說ヲ新聞紙ニ記載スルヲ禁ゼルタメ表面之ニ對スル世論ヲ察知スルコト困難ナリシモ民論ハ益々召集說ニ傾キ下院議長「ロヂヤンコ」氏ハ議院内各派領袖相談會ノ決議ヲ齎シテ首相「ゴレムイキン」ヲ訪ヒ廿五日会见ノ始末ヲ議院内各派領袖相談會ニ報告スル所アリ。之ニヨレバ首相ハ議會召集ニ異議ナク七月中旬前後ヲ以テ召集スベシトノ口約ヲナシタルラシク二十七日大本營ニ於ケル御前會議ニ於テ愈々議會召集ノ議決セラレ玆ニ別添ノ詔勅ヲ首相ニ下賜セラレタル次第ナリ。

右及報告候 敬具

(附屬書)

露國議會召集ノ詔勅

イワン、ロギノヴィチ卿ヨ

朕ハ國內到ル處ヨリ軍需品供給ノタメカヲ國家ニ致サントスル熱望ヲ證スル志願ヲ寄スルニ接ス。朕ハ光輝アル將來ハ斯ル舉國一致ニ存スルヲ信ズ。

二九六 七月五日 在露國本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛

露國議會召集ニ關スル件

附屬書 露國議會召集ノ詔勅

公第一一一号

(七月二十日接受)

大正四年七月五日

在露

特命全權大使男爵 本野 一郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

五月二日以来独埃軍ハ「ガリシヤ」方面ニ大部隊ヲ送りテ攻勢ニ転ズルヤ此ノ方面ノ戦況頗ニ一変シ露軍ハ日々其ノ占領地ヲ失ヒ六月三日「ペレムイシリ」ヲ放棄シ二十二日「レムベルグ」ヲ敵手ニ委ス。露軍ノ連敗此ノ如キハ軍隊トシテ種々ノ欠点アルニ依ルハ勿論ナレドソノ主因ハ露軍ガ大砲砲彈其ノ他ノ武器ニ欠乏セルニアリ。サレバ政府ハ武器供給ノタメ広ク公共団体ノ力ヲ藉ルコトニ決シ事情ヲ打チ開ケテ実業團及議員ニ懇談スル所アリ。乃チ戦時産業會議、軍需品供給會議等組織セラレ頻リニ軍需品供給ノコトヲ議ス。此ヨリ先キ國家大事ノ際宜シク議會ヲ召集シテ

戦争ハ曠日彌久益々奮勵ヲ求ム。困難倍加シ武運變轉スル毎ニ我等ガ胸裡天佑ヲ保有シ大勝ヲ博スル迄戦争ヲ繼續スベシトノ決心益々強固ナリ。敵ハ必ズ挫カザルベカラズ。然ラザレバ平和ヲ結ブコトナカルベシ。

朕ハ露西亞ノ力無盡ナルヲ確信スルモノニシテ政府、公共團體、産業界并ニ忠良ナル我が臣民ハ協力一致地位ト意見ノ別ナク我が勇敢ナル軍隊需要供給ノタメ努力スベキヲ期ス。全露西亞國ノ努力ハ爾今此ノ國民的目的ニ集中セラルベキナリ。

朕曩ニ軍需品供給ノタメ特別會議ヲ組織シ兩院議員ヲシテ之ニ參與セシム。朕今更ニ民意ヲ聽カンコトヲ欲シ議會召集ノ期日ヲ早メント欲ス。乃チ議會ハ之ヲ本年八月以内ニ召集スベク内閣ハ朕ガ意ヲ體シテ戦時ノ必要ニ基ク法律案ヲ作製スベシ。

千九百十五年六月十四日(露曆)、御野立所ニ於テ

御名

二九七 七月十八日

在露國本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

露國議會召集及大蔵大臣訪仏ノ件

第六九〇号

八月一日露国議会召集セラルヘシ閉会後（開期ハ長カラサ
ルヘシ）大蔵大臣ハ財政問題協議ノ為仏国ヘ赴ク由ナリ

二九八 七月二十七日 在露国本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛

露国政況内情ニ関スル上田通訳官報告書進達

ノ件

機密第一六号

（八月十日接受）

大正四年七月二十七日

在露

特命全権大使男爵 本 野 一 郎（印）

外務大臣男爵 加藤高明殿

最近露国政況内情ニ関シ上田通訳官ノ調査ニ係ル別紙報告
書竝ニ及進達候 敬具

（別 紙）

露国政況内情ニ関スル件

今次歐洲ノ大戦争ニ対スル露国ノ決意ハ遠キ将来ハ暫ク之
ヲ論セス現状ニ就キ之ヲ考フルニ国民のナリ言語宗教風俗
習慣ヲ異ニスル諸民族ヨリ成レル露国国民ハ其教義主張宿
望目的ノ如何ニ拘ラス挙ツテ該戦争ニ当リ協同一致以テ最

後ノ勝利ヲ得ルニアラサレハ止マサルノ決心ヲ有セリ尤モ
国民ノ一部就中「バルチック」沿岸及其他ニ散在セル独逸
系民族中ニハ事実非戦論者少カラス又下院内左右両極党ニ
モ亦各自ノ所見ニ従ヒ非戦論ヲ唱フルノ人士之レ無シトセ
ス現ニ此等人士殊ニ社会民主党ハ本年一月下院ニ於テ公然
非戦ノ意思ヲ発表シタリ然レトモ内ニ在リテハ国民ノ大多
数カ既ニ主戦論者トナリ又外ニ在リテハ同盟軍諸国及敵国
国民カ其党派ノ如何ヲ問ハス挙国一致シテ戦ヒツアルヲ
以テ露国左右両極党ノ大部分ハ形勢ニ鑑ミ其意ニ反シテ主
戦論ヲ称フルノミナラス同院ノ大多数ハ主戦論者ニシテ就
中政府反対党ノ中堅タル立憲民主党ノ如キモ亦主戦論ヲ称
シ居レリ要之本戦争ニ対スル露国ノ決意ハ挙国一致国民的
タルノ実ヲ失ハス

今回ノ如ク露国カ挙国一致以テ外敵ニ当ルハ其歴史上未タ
嘗テ其類例ヲ見サルトコロナリ露土戦争ハ挙国一致的タリ
シト伝ヘラルルモ其實今回ノ戦争ホド国民的ニハアラサリ
キ夫ノ日露戦争ノ如キニ至リテハ国民ハ実ニ戦争ノ意味ヲ
解セサリシ程ナリキ今回ノ戦争カ斯ノ如ク露国民ヲ挙ツテ
一致セシメタル重ナル原因ハ敵国カ「スラブ」民族ノ国タ

ル露国ト利害相容レサル独逸民族国タルカ為メニ外ナラス
露独両国国民ハ各々其情性及文明ノ程度ヲ異ニシ殊ニ経済
關係上前者ノ利益ハ全ク後者ノ為メニ壟断セラル加フルニ

露国内政關係上国民大多數ノ敵タル所謂官僚ノ一派ハコレ
マデ極右党（保守派）ト共ニ武国トシテ帝權ノ偉大ナル独
逸ト露国ヲ接近セシメ以テ君主專制ノ維持ヲ計リシカ為メ
露国国民ノ大多數殊ニ民党ハ常ニ独逸ヲ敵視シタリ從ツテ
今回露独ノ開戦ハ大ニ国民ノ意氣ヲ喚起セシムルニ至レリ
此ノ如ク今回ノ戦争ハ大ニ国民ノ人氣ニ投シ開戦当初ヨリ
挙国一致ノ性質ヲ帯ヒタリ此性質ハ依然トシテ今尚現存ス
ルト雖此現象カ果シテ最後マテ不変不動ナルヘキヤ否ヤニ
関シテハ露国ノ国民性ニ照ラン多少疑問無キニアラス抑モ
露国ノ国民性ハ左右両極端ヲ兼備シ而モ激變的ナリ此性ハ
国政ニ大ナル影響ヲ及ホスモノニシテ歴史ハ之ヲ証明セリ
故ニ概括的ニ之ヲ曰ヘハ露国ニ於テハ今日ノ主戦論モ明日
非戦論ニ急変スルノ危険無キヲ保シ難シ然レトモ已ニ對手
国カ露国国民大多數ノ仇敵タル独逸国ナルニ加ヘ露国国民
ヲ代表スル議會ハ政府ト共ニ戦争ニ関スル一切ノ責任ヲ負
担スルコトヲ声明シタルヲ以テ戦争中露国ニ大革命ノ發生

セサル限リ此戦争カ変シテ非国民的トナルノ危険ハ十中八
九マテハ之レ無カルヘシト信セラル

開戦前露国軍事当局者ハ内外ニ向ツテ露国軍備ノ充実ヲ誇
リタルノ事実アリシヲ以テ露国国民ハ一般ニ露仏同盟軍ノ
兵力ハ独逸同盟軍ノ夫レヲ凌駕スルモノト確信シタリ加フ
ルニ開戦後直チニ英国カ露仏同盟軍ニ加入スルニ至リシヲ
以テ露国民ハ勝利ハ当然而モ容易ニ露仏英白塞黑聯合軍ニ
婦スヘキモノト信シテ疑ハサリキ左レハ露国政府反対党ハ
無条件ニ政府党ト共ニ政府ヲ援ケ以テ挙国一致ノ実ヲ挙ケ
而シテ更ニ戦後ニ至リ政府ヨリ一定ノ報償ヲ要求スルコト
トナセリ夫ノ立憲民主及改進黨等ノ有力ナル政府反対党
カ戦争ニ関シテ政府党ト提携シ相共ニ「ゴレムイキン」内
閣ヲ支持シ以テ外敵殲滅ニ関スル一切ノ措置ヲ政府ニ一任
シタルハ蓋シ之カ為メナリ然ルニ若シ国民カ当初露国ノ軍
備カ独逸ニ劣ルノ事実ヲ知リタリトセンカヨシヤ国民ハ此
戦争ヲ避クルコトヲ欲セストスルモ政府ヲ支持スル国民ノ
態度ハ其趣ヲ異ニシ少クモ政府反対党ハ斯クモ無造作ニ
「ゴレムイキン」内閣ヲ謳歌セサリシナルヘシ果セル哉其
後露軍敗戦ノ為メ一方ニハ兵器彈藥ノ不足ナルコト世ニ暴

露スルト同時ニ政府当局者カ其措置ヲ過マリシコト世ニ明白トナルニ至ルヤ曩ニ「ゴレムイキン」内閣ヲ詠歌シタル露国国民ハ今ヤ同内閣ヲ非難シテ以テ援助甲斐無キ政府ナリトスルノミナラス内閣員ニ対シ不満ノ意ヲ表白シ現内閣ヲシテ挙国一致ノ援助ヲ得ントスルニハ閣員ヲ更迭スルノ必要ヲ自認セシムルニ至レリ

政府ハ兵器彈藥不足ノ事實ヲ永ク隱蔽スルコト困難ナルヲ認メ同盟軍諸国政府ト同シク国民ニ訴ヘテ之カ補給ヲ求ムルノ必要ヲ感スルニ至レリ茲ニ於テ政府ハ自ラ進ンテ兵器彈藥ノ不足ヲ世ニ表白シテ国民ニ物質的ノ援助ヲ求メ六月一日皇帝ハ勅命ヲ下シ下院議長「ロドジャンコ」氏ヲ會長トシ二三下院議員（十月党）ヲ加ヘ物資供給委員會ナルモノヲ組織セシメタリ下院議長ハ同勅命ヲ奉体シ民間ニ於テ極力奔走スルト同時ニ政府当局者ニ注意スルトコロアリタリ其結果在野政事家及実業者ハ全国ノ工場ヲシテ軍隊ニ兵器彈藥ヲ供給セシムルノ必要ヲ認メ本戦争ヲ以テ名実共ニ全ク国民のタラシムルコトニ決セリ

斯ノ如ク戦争ハ名実共ニ国民のタルコトニ決シタルヲ以テ此戦争カ非国民的ニ変スルノ危険ハ今ヤ殆ント除去セラレ

本色ヲ發揮スルヲ常トス日露戦争ノ際ノ如キ露国ノ内敵ハ開戦当初順民ヲ装フテ憂国運動ヲ舉行シタルモ最後ニ至リ政府反對党トナリテ革命運動ヲ起シタリ此他同戦争前ニ官僚トシテ要路ニ立チタル高官ニシテ戦後民間ニ下リテ革命党ニ与シタル人土少シトセス如此ハ一見頗ル奇異ノ感アリト雖露国国民性ヲ解スル者ニ対シテハ寧ろ露国国民ノ常態ナリトノ感ヲ与フルニ過キサルナリ

右ノ如ク露国ニ於テハ一民族ヲ以テ国民トスル国ト異リ外寇ハ一般ニ内憂ヲ助勢スルノ傾アリテ挙国一致ハ必スシモ外寇ニ伴ハサルニ拘ラス今回ハ異例トシテ外寇カ菅ニ何等内憂ヲ助勢スルコト無キノミナラス国民ハ挙国一致以テ最後マテ敵国ト戦フノ決心ヲ有スルモノノ如シ

斯ノ如キ異例ヲ見ルニ至リタル所以ハ畢竟国民力一般ニ戦争ノ原因及其意味ヲ詳カニスルカ為メニ外ナラス此故ニ今回ノ戦争ハ多分最後マテ国民のトシテ継続セラルルナルヘシ然トモ今次ノ戦争カ挙国一致国民のタルダケソレ丈ケ現内閣ハ国民ノ制肘ヲ受ケ遂ニハ現内閣閣員ノ更迭ハ愚カ現内閣倒レテ国民的新内閣ノ成立ヲ見ルニ至ルヤモ未タ測リ知ルヘカラサルナリ

タルモノト見テ可ナルヘシ戦争其モノニ対スル露国国民ノ決意ハ今日ト雖開戦當時ト毫モ異ナル所無クシテ国民ハ最後マテ戦争ヲ継続スヘシト叫ヒツアリト雖国民ノ政府ニ対スル感想ハ開戦當時トハ全ク一変シ現ニ開戦ノ際無条件ニ内閣ヲ支持スルノ意思ヲ表彰シタル国民ハ今ヤ閣員ノ更迭ヲ条件トシテ政府ヲ支持スルヲ必要トスルニ至レリ斯ル變化ノ發生スルニ至リシハ畢竟露軍カ「カルパート」方面ニ於テ敗戦シタルカ為メナリト雖又露国国民ノ所謂激變的国民性与ツテ大ニ力アリト云ハサルベカラス

露国国民ノ激變的国民性ハ天然氣候風土ノ感化并ニ諸民族集合ノ賜ニ外ナラス元來露国国民ハ征服シタル一民族ト征服セラレタル数民族トヨリ成リ而シテ其征服セラレタル或民族ノ智識程度ハ征服シタル民族ノ智識程度ヲ凌駕ス然レトモ被征服者ハ征服者ニ庄セラルルノ現状ナルヲ以テ此等被征服者ハ常ニ此現状ノ打破ヲ夢想セリ之レヲ以テ露国ニ於テハ外寇ハ内憂ヲ助勢スルノ傾アリ是レ即チ露国ノ一大病根ニシテ又露国カ国内ニ所謂内敵ヲ有スル所以ナリ露国ノ内敵ハ必シモ当初ヨリ其旗色ヲ鮮明ニスルモノニアラスシテ多クハ平時ニ在リテハ順民ヲ装ヒ有事ノ日ニ至リテ其

今次ノ戦争ハ当初ヨリ国民のタルノ性質ヲ有シタルヲ以テ国民ハ地方ノ自治体及公共団体トシテ傷病軍人看護出征軍人家族保護軍人遺族救助等ノコトニ参加シテ尽力スル所アリタリト雖政府ハ兵器彈藥ノ補給物資ノ供給ヲ始め一般ニ糧食及燃料ノ供給等ニ至ルマテ一切之ヲ自ラ其ノ手裏ニ収メテ国民ヲシテ毫モ之ニ関与セシメサリキ何トナレハ一旦国民カ此等事業ニ容嘴スルニ至ランカ政府ハ国民ノ制肘ヲ受クルニ至ルヘキヲ患ヒタルヲ以テナリ露国国法カ地方自治団体ノ権限ヲ制限スルモ畢竟此理由ニ基ケリ左レハ国民モ亦政府ノ声明ヲ過信シテ軍備ノ充実ヲ確信スルノ余リ兵器彈藥ノ補給ニ遺漏無キモノト思惟シ從ツテ国民ハ英仏兩國ニ於ケルカ如ク兵器彈藥ノ補給ニ尽力スルコト無クシテ一切之ヲ政府ニ一任シテ敢テ顧ミサルノ有様ナリキ然ルニ露軍カ本年五月上旬「カルパート」ニ大敗シ六月上旬「ベレムイシリ」ヲ放棄スルノ已ムヲ得サルニ至ルヤ政府ハ始メテ此ノ如キ敗因ハ全ク兵器彈藥ノ不足ニ基クモノナルコトヲ国民ニ告知シ同時ニ之カ補給ニ関シ国民ニ援助ヲ促カスニ至レリ

是ヨリ先キ英仏兩國ニ於テハ兵器彈藥等ノ欠乏ヲ補フ為メ

当局者ハ国民ノ援助ヲ求ムルト同時ニ一方ニハ各党派領袖ニ内閣大臣ノ椅子ヲ与ヘテ所謂挙国一致ノ内閣ヲ組織シ又他方ニハ国民ヲシテ全国ノ工場ヲ専ラ軍用ニ供セシメタリ然ルニ露国ニ於テハ嘗ニ挙国一致ノ内閣ヲ見ルニ至ラサルノミナラス政府ハ国民ニ依頼シテ物資ノ供給ヲ仰クハ将来ノ為メ危険ナリトノ見解ヨリシテ国民ヲシテ此事ニ干与セシメルコト無ク最後マテ兵器彈藥ノ不足ヲ国民ニ秘シタリ然ルニ其後之カ不足補給ニ関シ国民ノ援助ヲ求ムルノ必要ヲ感知スルニ及ヒ始メテ政府ハ国民ニ事ノ真相ヲ知ラシムルニ至リタルカ国民ハ内閣ノ此措置ニ対シ不快ノ感ヲ起シ從ツテ内閣ニ対スル不信任ノ声ハ漸次民間ニ高マルニ至レリ露国ハ英仏諸国ト事情ヲ異ニスルモノアルヲ以テ露国ニ直チニ各党派代表者ヲ以テ英仏ノ如ク所謂聯合内閣ヲ組織スルコトハ頗ル困難ニシテ多数国民モ亦之ヲ諒知ス左レハ国民ハ今日必シモ直チニ聯合内閣ヲ要求セスト雖国民ト接近スルヲ欲スル内閣ノ組織ヲ政府ニ迫ルヲ必要トスルニ至レリ

閣員排斥ガ具体的トナリテ外ニ表ハレシハ本年六月八日ヨリ十日ニ亘リテ露京ニ開カレタル第九回全露工商業者會議

會議ハ昨年五月即チ歐洲大戦争開始前ニ開カレタリ同會議ハ専ラ工商業ニ関スル經濟上ノ實際問題ヲ審議スルヲ目的トスルモノナリト雖第九回全露工商業者會議ハ日程ヲ變更シテ専ラ時局問題殊ニ軍隊ニ物資ヲ供給シテ露国ヲシテ強敵ニ対シ勝利ヲ制セシムルノ問題ヲ議シタリ同會議ニハ実業者及政事家五百余參列シ「アウダーコフ」氏之カ議長タリ開會第一日議長「アウダーコフ」氏ハ開會ノ辞中ニ露国軍隊ヲ助クル為メ全国ノ工業ヲ動員スルノ必要ヲ述ヘ強敵ニ対スル露軍ノ勝利ヲ期スルニハ工業者ノ援助ヲ要スト説ケリ商工次官「ウエシヨラオ」氏ハ本省ヲ代表シテ一場ノ挨拶演說ヲナシ「リトウイノフフアリンスキー」氏ハ「戦争ト工業」ナル標題ノ下ニ講演ヲナシ夫レヨリ更ニ討議ニ移リ「フエヨドロフ」、「ポブラフスキー」、「ジユコフスキー」諸氏ハ全国ノ工場ヲ動員シテ軍隊ヲ援助スルノ必要ナルコトヲ喋々シ最後ニ「ジユコフスキー」氏ハ全国工商業者カ地方会及市会代表者ト共ニ協同一致シテ軍隊ニ物資ヲ供給シ且又速カニ議會ヲ召集スルノ必要ニ関スル決議案ヲ同會議ニ提出シ而シテ同案ハ直ニ満場ノ可決スル所トナレリ第二日戦場ヨリ帰京シタル「リヤブーシンスキー」氏ハ出

ノ席上ニシテ同會議ニ於ケル諸會員ノ演說就中戦場ヨリ帰京シテ直ニ會議ニ出席シタル「モスクワ」実業并ニ在野政事家「リヤブーシンスキー」氏ノ慷慨演說ハ大ニ人ヲ動かシ同日列席ノ閣員ハ驚キテ其席ヲ退キタリト云フ其後「モスクワ」市ニ開カレタル全露地方会代表者會議及全露市会代表者會議ニ於テモ亦同様閣員排斥ノ説行ハレ席上會員間ニ国民ハ全力ヲ以テ軍隊ヲシテ強敵ニ対シ勝利ヲ制セシムル為メ軍隊ニ援助ヲ与フヘキモ国民ト接近スルヲ欲セサル現内閣員ト事ヲ共ニスルヲ得ストノ意見発表セラレタリト云フ以上諸會議ニ関スル詳細ハ之ヲ知ルニ由無キモ諸新聞ニ漏レタル記事ニ依ルモ「リヤブーシンスキー」氏其他諸氏ノ演說カ如何ニ激越ヲ極メタリシカラ察スルニ余リアリ第九回全露工商業會議ハ国民力間接ニ内閣不信任ノ意思ヲ表シテ以テ閣員ノ更迭ヲ迫リ議會ノ召集ヲ以テ刻下ノ急務ナリトシ全国ノ工場ヲ挙ゲテ軍用ニ供シ以テ兵器彈藥其他一切ノ物資ヲ軍隊ニ供給スルコトヲ決議シタル一種ノ國民議會ニシテ露国史上特筆大書スヘキモノトス全露工商業者會議ハ毎年開會セラルルノ例ニシテ第八回全露工商業者

席シテ愛國の慷慨演說ヲナシタリ氏曰ク今ヤ独逸ノ全工場ハ専ラ軍隊ノ為メ作業シツツアルヲ以テ露国モ亦須ラク之ニ倣フヲ要シ敵ノ全滅ヲ期セントスレハ露国国民ハ協同一致シテ以テ全力ヲ之レニ傾ケサルヘカサルト同時ニ成效ハ人物ニ在ルヲ以テ英仏ニ倣ヒ露国モ亦此際大ニ人材ヲ集中セサルヘカラスト同氏ノ演說ハ満場ニ大感動ヲ与ヘ「ジユコフスキー」氏ハ右演說ノ結果トシテ前日可決ノ決議案ニ追加ヲナスノ必要アルコトヲ述ベ「フエヨドロフ」氏ハ所謂工場動員ニ関シ委員會議ヲ組織スルノ提議ヲナシ議長「アウダーコフ」氏ハ翌日下院議長「ロドジャンコ」氏出席シテ重要ナル演說ヲナスヘシトノ通告ヲナシタリ第三日在京中ノ上下両院議員ハ悉ク皆會議ニ出席シ下院議長ハ予告ニ從ヒ一場ノ演說ヲナシタリ下院議長ハ其演說中皇帝カ物資供給ニ関スル評議會ノ組織ヲ命シ下院議長ノ外同院議員三人ヲ之カ委員ニ任命セラレタルコトヲ報告シ挙国一致物資供給ニ力メ最後決勝ヲ期セサルヘカラサル旨ヲ述ベ「ジユコフスキー」氏ハ更ニ立案セラレタル全国ノ工業ヲ動員シテ戦時工業委員會議ヲ組織スルコトニ関スル決議案ヲ朗読セリ同決議案ハ直ニ満場ノ可決スル所トナリ同

日会議ハ閉会ヲ告ケタリ

右第九全露工商業者会議ハ現内閣ノ基礎ヲ動搖セシメタルモノニシテ現ニ同會議開会前ニ於テ政府ハ議會ノ召集期ヲ早ムルコトニ反対シタルモ其後ニ至リテ之ニ同意シ同時ニ閣員ノ更迭ハ其筋ノ問題トナルニ至レリ加フルニ同會議ニ於ケル「リヤブーシンスキー」氏ヲ始メ其他諸士ノ演説ノ内容及議場ノ消息ハ自ラ地方ニ伝ハリテ全国民ヲ刺激シ露國ノ所謂内敵ハ此機ニ乘シ流言蜚語ヲ放ツテ直接又ハ間接ニ民衆ヲ煽動シ其結果六月十日「モスクワ」市ニ大騒動ヲ惹起シ群集ハ独逸人其他内外人ノ商店ヲ破壊シ同市ハ一時全然無政府ノ状態トナルニ至レリ斯ノ如ク全露工商業者會議以後露国内ノ形勢頗ル險惡トナリ閣員ニ対スル輿論ノ不滿大ナルモノアルニ加ヘ「モスクワ」事件ノ発生アリタルヲ其筋ニ於テハ民意ヲ容レテ閣員ノ更迭ヲ行フコトニ決シ六月十八日先ツ第一着手トシテ内務大臣「マクラコフ」氏ハ其職ヲ免セラレ馬政局長官「シチエルバートフ」公ハ之ニ代リテ内務大臣ニ任セラルルニ至レリ

全露工商業者會議カ全国工業ノ動員ヲ決議スルヤ全露地方ゼムスト會代表者會議及全露市會代表者會議兩本部モ亦地方會及市

會カ工商業者ト共ニ全国ノ經濟力ヲ動員シ挙國一致以テ軍隊ヲ援助スルヲ必要トシタリ玆ニ於テ六月十八日全露地方會代表者會議及全露市會代表者會議ハ「モスクワ」市ニ於テ各自ニ會議ヲ開キ挙國一致軍隊援助ノ必要ニ関シ決議スル所アリタリ

斯ノ如ク工商業者団体市會及地方會カ挙國一致ニテ軍隊ニ物資ヲ供給スルコトニ決スルヤ政府ハ物資供給ノコトニ關シ進ンテ國民ニ援助ヲ求ムルコトトシ内閣ハ物資供給ニ關スル行動ヲ統一スルノ目的ヲ以テ特別評議會議ナルモノヲ組織スルヲ必要トシ法案ヲ具シテ上奏裁下ヲ求メ六月二十日皇帝ハ之ヲ裁可シタリ同法律ニ依レハ特別評議會ノ議長ハ陸軍大臣ニシテ之カ議員ハ下院議長勅選ニ依ル下院議員四名上院議員四名商工業者四名陸軍海軍大藏交通商工諸省會計検査院代表者其他ヨリ成リテ同會議ハ皇帝ニ直隸ス第九全露工商代表者會議ノ決議ニ依レハ戰時工業委員會會議ハ中央部及地方部ノ二ニ分レテ陸海軍ニ要スル物資製造ニ關スル事項ヲ調査スルノ目的ヲ有ス中央戰時工業委員會會議ハ之ヲ「ベトログラード」市ニ置キ地方部即チ支部ハ「モスクワ」、「ハリコフ」、「キエフ」其他全国工業地方ニ之ヲ

置ク又全露工商代表者會議ニ於テ中央戰時工業委員會會議ヲ組織スルノ委任ヲ受ケタル在「ベトログラード」工商業代表者會議本部カ認可シタル中央戰時工業委員會會議規制ニ依レハ同會議ノ常置委員ハ左ノ代表者ヨリ成ル

- 一、工商業代表者會議本部員
- 二、地方戰時工業委員會代表者
- 三、全露地方會代表者會議代表者
- 四、全露市會代表者會議代表者
- 五、「ベトログラード」市會代表者
- 六、「モスクワ」市會代表者
- 七、諸官衙代表者
- 八、中央戰時工業委員會會議ノ議決ニ依リ特ニ招待セラレタル者

右ノ外左ノ代表者ハ中央戰時工業委員會會議ノ議事ニ列席ス

- 一、商工業調査諸団体代表者

- 二、諸學會代表者

中央戰時工業委員會會議ニ左ノ十二部ヲ置ク

- 一、機械部
- 二、金屬部

- 三、火藥部
- 四、衛生部
- 五、物品部
- 六、糧食部
- 七、財政部
- 八、輸送部
- 九、燃料部
- 十、労働者部
- 十一、法律部
- 十二、発明部

中央戰時工業委員會會議ハ其後役員ヲ選定シ而シテ商工省其他諸官衙モ亦同會議ニ出席スヘキ委員ヲ任命シタリ同會議ハ六月二十二日ヨリ行動ヲ始メ且又會議ハ全国地方工業者ニ檄文ヲ廻ハシテ地方戰時工業委員會會議ノ組織ヲ促シ其結果「モスクワ」市ヲ首メトシ其他諸地方ニ於テハ戰時工業委員會會議早ヤ既ニ組織セラレ而シテ同委員會會議ノ大多數ハ今ヤ既ニ事業ヲ開始シ中央戰時工業委員會會議ニ步調ヲ合セテ行動中ナリ

之レト同時ニ下院議長「ロドジャンコ」氏全露地方會代表

者會議長「リウオフ」公全露市会代表者會議長「チエルノコフ」氏等ハ民意ノ在ル所ニ從ヒ再三總理大臣「ゴレムイキン」氏ヲ訪問シテ陳情ニ及ヒ且又一日モ速カニ議會ヲ召集スルノ必要ナルコトニ關シ陳述スル所アリタリト云フ當時恰モ露軍カ「リウオフ」ヲ放棄シタルノ際ナリシヲ以テ總理ハ右諸氏ノ陳述ニ特ニ耳ヲ傾ケタリト稱セラル其後六月二十六日ニ至リ大本營ニ於テハ各大臣列席ノ上御前會議開カレ同會議ニ於テハ内政ニ關スル重要問題就中閣員更迭及議會ノ召集期ヲ早ムルノ件ニ關スル議事行ハレ其結果皇帝ハ翌二十七日附ヲ以テ總理大臣ニ詔勅ヲ下シ同詔勅ヲ以テ八月以前ニ議會ヲ召集スヘキコトヲ命セラレタリ内閣員ノ更迭ニ關シテハ皇帝ハ同御前會議前ヨリ早ヤ既ニ屢次任免ノ辭令ヲ下シ今日マテ其職ヲ免セラレタル者ハ内務大臣「マクラコフ」氏ノ外陸軍大臣「スホムリノフ」大將、宗務大臣「サブレル」、司法大臣「シチグロウイートフ」諸氏ニシテ諸氏ハ皆議會ト提携スルヲ欲セサルノ士ニシテ皆前總理大臣「ココフツオフ」氏ノ政敵トシテ官僚右派ニ數ヘラル

新内務大臣「シチエルバートフ」公ハ末タ知名政事家トシニセントシテ運動スルトコロアリタリ其結果七月二十一日皇帝ハ勅令ヲ以テ露曆七月十九日（八月一日）上下兩院ニ召集ヲ命スルニ至レリ同日ハ恰モ露國力独逸ニ對シ宣戰ヲ布告シタルノ日ニ相当ス

近キ将来ニ於テ改造ニ一段落ヲ告クヘキ露國新内閣ノ内政方針カ旧來ト異ルヘキハ當ニ總理大臣「ゴレムイキン」氏ニ下リタル詔勅ニテ明白ナルノミナラス既ニ更迭シタル新旧内務大臣ノ言行之ヲ証明セリ併シ乍ラ其方針一變ノ程度カ果シテ國民ノ希望ヲ満足セシムルヤ否ヤハ問題ナリ國民ノ希望ハ素ヨリ多種多樣ナルヘシト雖現在表面ニ立チテ國民ヲ代表スル地方会市會議員及商工業者ノ多數并ニ下院ニ於ケル國民中央十月改進黨及立憲民主諸党ノ目下希望スル所ハ民意ヲ容レテ國民ト接近シ相共ニ軍國ノ為メニ尽サンコトヲ希フノ政府ヲ欲スルニ在リ故ニ新内閣ノ方針カ民意ヲ容レテ國民ト共ニ軍國ノ為メニ尽スニアル場合ニハ國民ノ希望ハ満足セララルモノナルヲ以テ官民協同舉國一致ノ實現ヲ見ルニ至ルヘシ然トモ若シ新内閣ノ方針カ之ニ反スルノ咍ニハ國民ハ政府ト衝突シ遂ニハ自國ノ不幸ヲ希望スル内敵ハ此機ニ乘シ國民ヲ煽動シテ第二ノ「モスクワ」騒動

テ経歴少シト雖公ハ多年地方会員トシテ地方自治ノ為メ奔走セリ今回就職後公カ新聞記者ト談話セントコロニ依レハ公ハ内政改革論者ニシテ言論出版ノ自由問題ニ關シテハ前内相ト全ク反對ノ意見ヲ有スルカ如シ新陸軍大臣「ポリワーノフ」大將ハ第三議會當時陸軍次官トシテ「スホムリノフ」將軍ヲ佐ケタリ大將ハ同議會ニ人望ヲ博シ就中時ノ下院國防委員會長「グチコフ」氏ト常ニ國防問題ニ關シ意見ヲ交換シタルヲ以テ主務大臣ノ忌諱ニ触レ遂ニ其職ヲ去リテ上院議員トナリタルノ経歴ヲ有ス故ニ新陸軍大臣ハ現議會ニ於テモ亦好評ニシテ現ニ諸新聞ハ異口同音ニ好大臣ヲ得タリトシテ大將ヲ歡迎セリ新宗務大臣「サマリーン」及新司法大臣「フウオストフ」兩氏ハ自由主義ノ士ニアラスト雖前兩大臣ノ如ク保守派ニアラスシテ比較的ニ進歩的思想ヲ有スト云フ

今回更迭ニ決シタルモノハ右諸大臣ニ止マラスシテ世間ニテハ外務文部等二三大臣ヲ除キ其他ノ諸大臣ハ更迭ニ決シテ之カ公表ハ時ノ問題ナリトノ風説アリ

議會ハ六月二十七日ノ詔勅ニテ露曆八月以前ニ召集セラルコトニ決セルモ下院議員ハ其召集期ヲ可成の一日モ速カラ起サシメ遂ニハ所謂革命ヲ惹起セシムルニ至ルヤモ知ルヘカラスト雖政府ハ今日確カニ民意ヲ容ルルニ傾キタルヲ以テ将来ハ兎モ角少クトモ現在ハ此危險無カルヘシ要之國民ヲ代表スル人士ノ希望ハ未タ何等激越のタラサルヲ以テ新内閣ハ其希望ヲ容ルルニ至ルヘシト觀測セラル

二九八 八月八日 在露國本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛

露國戰時第三次議會開會當日ノ狀況報告ノ件
（八月二十四日接受）
公第一三四号

大正四年八月八日

在露

特命全權大使男爵 本野 一郎（印）

外務大臣男爵 加藤高明殿

開戦一周年記念日八月一日ヲ以テ露國ハ戰時ニ於ケル第三次議會ヲ召集シタリ。

今次ノ議會召集ガ國民側ノ希望ニ出デタルコトハ去月四日附往公第一一一号ヲ以テ既ニ報告ノ如クナルガ露國政府ニ於テハ議會ノ攻撃ヲ恐レ召集期ヲ遷延シ此ノ間ニ在リテ自己ノ失策ヲ弥縫シ以テ徐々ニ議會ヲ召集セントシタルモ議

会側ニ於テハ数次院内各派領袖會議ヲ重ネ議會ノ速開ヲ主張シ七月七日各派領袖相携ヘテ首相ヲ訪ヒ議會速開ニ関スル領袖會議ノ決議文ヲ朗読シ回答ヲ求ムル所アリ。

当日首相ハ何等明確ナル回答ヲ与ヘザリシモコノ訪問ガ大ナル印象ヲ与ヘタルハ事実ニシテ七月九日首相ハ議長「ロヂヤンコ」ニ対シ議會ハ八月二日以前ニ召集スルコトニ閣議一決セル旨ヲ伝ヘタル由ナリ。而シテ七月二十一日ノ御前閣議ニ於テ議會ノ召集ヲ開戦満一年ニ相当スル八月一日ニ決シ同日ヲ以テ之ニ関スル詔勅ヲ下サレタル次第ナリ。政府ハ六月十八日内相「マクラコフ」ヲ黜ケ、同廿五日陸相「スホムリーノフ」ヲ罷メ、七月十八日宗務總監「サーブレル」ヲ免ジ十九日法相「シチエグロヴィトフ」ヲ除キ専ラ政府ニ対スル社会ノ惡感ヲ緩和センコトヲツトメタリ。六月下旬以来内閣全部更迭ノ風説頻リニ伝ヘラレシガ遂ニ之ガ実現ヲ見スシテ議會ノ開会トナリタルナリ。今左ニ開会当日ヨリ決議文ノ可決ニ至ル間ノ議會下院ノ状況ヲ述ベシ。

正午十二時議院内「エカテリナ」広間ニ於テ祈祷式アリ。祈祷式ニハ閣員全部参列シタリ。此日官相モ亦参列シタル

ハ挙国一致軍国ノタメ尽力スルヲ要ス。人心恟々タル頃日皇帝陛下ニハ全土ノ民意ヲ聴カンコトヲ欲シ議會ヲ召集セラル。陛下ハ深く露国国力ノ無限ヲ信セラレ政府、公共団体、産業界并ニ忠良ナル人民ガソノ主張ト地位ノ別ナク我が勇武ナル軍隊ノタメニ力ヲ致サンコトヲ期セラル。議會ハヨク此ノ聖旨ヲ解スルモノニシテ議員諸君ハ赤誠ヲ吐露シテ政府ト協力シ事ノ真相ヲ究ムルニ資セラルベシ。我等ノ議論ハ時ニ激越ニ至ルコトアラシ然レトモ吾人ハ此ノ議論ガ今回發生セル困難ヲ除去スルニアルヲ信ズ云々、

氏ハ其ヨリ軍隊ニ対シテ国民信服ノ意ヲ述べ聯盟国ニ対シテハ過去十二ヶ月ノ提携ニヨリ相互關係益々親密ナルヲ述ベテ外交官席ニ在リシ日英仏伊各大使及其ノ他ニ対シテ敬意ヲ表セリ。

氏ハ次ニ波蘭ノコトニ言及シテ戦乱ノ苦痛ヲ最モ痛切ニ嘗メタル此ノ人民ニ対シ吾人ハ満腔ノ同情ヲ表シ彼等ガ苦痛ヲ軽減セシムルタメニハ議會ハ政府ヲ援ケテ適當ノ手段ヲ講ゼシムベシト述べ更ニ今回ノ戦争ハ軍隊ト軍隊トノ争鬭ニアラズ。之ニ勝利者タランニハ宜シク挙国一致組織的奮

ガ官相ノ参列ハ議會開設以来此ノ度ガ初メナリトノコトナリ。祈祷終了ト共ニ議員各自ノ席ニ就ク、欠席者稀ニシテ例ニ無キ盛況ナリ。大臣席ニハ総理大臣「ゴレムイキン」、宮内大臣「フレドリツクス」伯、農務大臣「クリヴオシエソ」、新内務大臣「シチエルバートフ」公、新陸軍大臣「ポリワーノフ」、海軍大臣「グリゴロヴィチ」、外務大臣「サゾノフ」、文部大臣「イグナチエフ」伯、交通大臣「ルフロフ」、商工大臣「シヤホフスコイ」公、会計検査院長「ハリトノフ」、新司法大臣「フヴオストフ」及新宗務總監「サマーリン」アリ。傍聴席、新聞記者席何レモ溢レムバカリノ群衆ニシテ外交官席ニハ日英仏伊四国大使ヲ正面ニ聯盟国及中立国ノ大公使アリ。

午後一時九分議長「ロヂヤンコ」氏議長席ニ就キ満場起立ノ上議會召集ノ詔勅ヲ捧読ス。次デ同氏ノ発声ニテ皇帝ノ万歳ヲ唱フ。次テ国歌ヲ合唱ス。右了リテ議長「ロヂヤンコ」氏ハ大要左ノ如キ演説ヲナセリ。

大ナル犠牲ヲ要スル戦争ハ既ニ本日ヲ以テ一ケ年ヲ閱セリ。然モソノ終局ハ猶遠ナリ。困難ハ倍加シテ吾人戦争ヲ継続スルノ決心益々強固ナリ。最後ノ勝利ヲ得ンニ

闘ヲナサザルベカラズ。労力、時間、資金ヲ惜マズシテ事ニ従ハンニハ軍需品供給ノコト決シテ難事ニアラズ。然レトモ社会全般ノ奮闘ガ充分ノ効果ヲ収メンガタメニハ政府ハ社会ニ対シ好意ヲ表スルノミナラズ其ノ施政ノ方針ヲ根本的ニ変更セザルベカラズ。予ハ政府ガヨリ与論ニ傾聴シ社会ニ対シテ懷疑ノ念ヲ捨テ官民一致国事ニ従フベキヲ信ズ。吾人ハ最後ノ一兵卒ニ至ルマデ戦ハン覚悟ナリ。而シテ我軍隊ハ内ニ国民ノ後援アルコトヲ忘ルベカラズ云々ト結び上院議員席ニアリタル当地守備軍司令官「ルーズスキ」將軍ニ対シ敬意ヲ表セリ。

議長ニ次ギ首相「ゴレムイキン」氏ノ演説アリ。首相ハ先ヅ政府ガ本年始メ第二戦時議會ヲ閉ザルニ当リ事件ノ進行上或ハ議會ヲ指定ノ期限前ニ召集スベキコトアラソハ予期セル旨ヲ述べタル後時局ニ対スル政府ノ態度ヲ宣明シテ曰ク、

戦争ノ前途ハ尚遠シニシテ更ニ幾多ノ犠牲ヲ要ス。今回議會ヲ召集セルハ国難ニ当リ立法府ト和衷協同ノ実ヲ挙げ諸君ニ対シテ事実ノ真相ヲ告白シ諸君ト共ニ如何ニシテ勝利ヲ得ベキヤヲ議セントスルナリ。戦争ハ今後尚精

神上物質上幾多ノ努力ヲ要求ス。戦争ノ結果ハ吾人ノ準備ノ敵ニ劣レルヲ証シ工芸上吾人ヨリ遙カニ進歩セル同盟国サヘ此ノ点ニ於テ大ナル困難ニ遭遇シツツアリ。吾人ハ必ズバ民力ヲ傾注シテ敵ヲ挫クコトヲ期セザルベカラズ。

政府ハ諸君ノ協賛ヲ得ンタメ議會ニ法律案ヲ提出セルガ熟レモ戦時ノ必要ニヨルモノノミニシテ社会ノ平和的改善ニ関スル法律案ハ一時之ガ審議ヲ見合スコトセリ。此ノ法律案中一ハ第二種国民兵ノ召集ニ関スル件ニシテ此ノ事ハ交戦国熟レモ実行セル所ナリ。二ハ帝国銀行ノ紙幣發行權ヲ拡張スルノ件ナリ。三ハ軍需品供給ノタメ立法院、公共団体及産業界ノ代表者ヨリ成ル機關ヲ組織スル件ニシテ諸君ハ即チ国防充實、軍需品供給産業維持、物価調節等戦時ニ於ケル政府唯一ノ目的タル事業ニ直接従事スル次第ナリ。

一般内政ニ関シテハ今之ヲ論ズルノ時ニアラズ。何レ將來諸君ノ協力ニ待タンコトヲ期ス。

開戦以來多大ノ犠牲ヲ払ヒタル波蘭ニ関シテハ開戦當時「ニコライ」大公ガ聖旨ヲ奉ジテ發表セル檄文ヲ以テ決

戦争ハ長期ニ亘ルベク、国家ハ軍隊充實ノタメ人ヲ供セザルベカラズ。之ガタメ次年度ノ壮丁ヲ本年八月廿日ニ召集スルノ裁可ヲ得、今亦、第二種国民兵ノ若年者召集ニ関スル法律案ヲ議會ニ提出セリ。而シテ第二種国民兵中比較的若年ノ者ハ八百万アリ。政府ハソノ一小部ヲ召集セントスルモノナリ。

我軍ノ兵站事業ハ未曾有ノ好成绩ニシテ露国ノ農産ハ一ケ年ノ戦争ニヨリテ此ノ影響ヲ蒙ラズ。農事ニハ俘虜ヲ使用シツツアルガソノ数三十万人アリ。

戦争継続ノタメ最モ必要ナル兵器彈藥ノ供給ナリ。吾人ハ宜シク英仏ノ例ニ倣ヒ広ク社会ノ努力ヲ用ヒテ之ヲ成就スベシ。

海相「グリゴロヴィチ」將軍ハ今回ノ戦争ガ露国海軍ノ建設時代ニ始マリタルニ拘ラズ、露国海軍ガ此ノ一年間能ク敵ノ優勢ナル艦隊ニ当レルヲ説キ海軍ノ兵器彈藥ニ関シテハ議會ガ与ヘタル資金ニヨリ幸ヒ不足ヲ感ゼズト言明シ最後ニ戦争前一年間海軍内工場ニ屢々同盟罷工起リ大ニ建艦工事ノ遅滞ヲ来シタリシガ開戦ト共ニ独逸人ノ煽動ニヨル此等同盟罷工絶エタルタメ工事力大ニ増加シ波羅の、黒海

セラレタル処ナルガ陛下ニハ内閣ニ命ズルニ戦後波蘭ヲ自治ノ精神ニ基キテ改造シ波蘭ノ民族的、文化的、經濟的發展ヲ自由ナラシムベキ法律案ヲ作製スベキコトヲ以テセラレタリ。

幾多ノ民族ヲ包容スル帝国臣民中露国ニ忠誠ヲ致セル者独リ波蘭人ニ止マラズ。サレバ政府ハ人種、言語、宗教ノ別ナク露国ニ忠誠ナル国民ニ対シテハ公平無私ノ態度ヲ持スベシ。

終局ノ勝利ヲ得ベキコトハ政府之ヲ信ジ諸君之ヲ信ジ全國ヲ之信ズ。開戦當時此ノ議場ニ於テ旺盛ナル拳国一致ノ意氣ヲ認メタルガ今日ノ形勢ハ更ニ上下ノ接近ヲシテ一層深カラシムルモノアルヲ信ズ。戦時ノ露国ニハ勝利期成党ノ外ニ党派ナク、勝利ノ外他ニ計画アルベカラズ。陸相「ポリワノフ」將軍ハ独逸戦備ノ偉大ナルヲ説キ目下戦況ノ敵ニ有利ナルヲ公言シ露軍戰略上ノ地位頗ル不利ナレバ戦線ヲ縮少シテ兼ネテ準備ノ戦線ニ移ラザルベカラザルニ至ルナラント予告シ此ノ間ニ大ニ軍器彈藥ヲ製造シテ攻勢ニ転セントテ一時ノ失敗ニ落胆スルコトナク最後マデ戦争ヲ継続セザルベカラザルヲ説ケリ、其要ニ曰ク、

両艦隊熟レモソノ艦船ヲ増加セリト述べタリ。

次ニ外相「サゾーノフ」氏ノ外交關係ニ関スル演説アリ即チ左ノ如シ

吾人カ平和維持ニ眷々タルモノアルニ反シ独逸ハ吾ニ対シテ戦ヲ宣シ其災害ノ程度ニ於テ曠古未曾有ノ大戦乱ヲ全欧及歐洲外ノ各地ニ伝播セルニ至レル運命の一大紀念日ノ一周年ニ際シ吾人ハ過去ヲ回顧シテ其一年間ニ於ケル四囲ノ状況ヲ概観セサルヘカラス予ハ玆ニ陛下ノ勅許ヲ受ケ今日ニ於テ三度此ノ演壇ニ起テ諸君ニ対シテ此ノ期間ニ於ケル対外關係ノ一斑ニ就キ演フル所アラントス予カ議會ニ於テ為シタル前回ノ演説並ニ外務省發表ノ文書ニ拠リ諸君ハ既ニ現時ノ大戦争ヲ誘起シタル事情ヲ熟知セラルルト同時ニ戦争ニ随伴スル無限ノ災害ニ対シ重大ナル責任ヲ負フモノカ露国若クハ其同盟各国ニアラサルコトヲ諒知セラルルナルヘシ、左レハ予ハコノ一般ニ既知セラルル事項ニ就キテ再ヒ言フ所ナカルヘシ、總テノ力ガ極度ニ緊張セラレタル瞬間ニ於テ吾人ハ戦勝ヲ収メンカ為メ吾カ勇敢ナル軍隊ニ協力スヘキ唯一ノ目的ノ下ニ玆ニ参集セリ而シテ目下ハ諸君ノ事業ニ取り一刻

千金ノ貴重ナル時機ニ在ルニ鑒ミ予ハ唯タ簡短ニ外政ノ状況ヲ説明スルニ止メントス、但シ玆ニ諸君ニ向テ予メ注意ヲ求メ置キタキハ若シ予ノ演說中諸君ノ懸念スル問題ニ対シ的確ナル解答ヲ与ヘサル場合アリトセハ其ハ目下談判未了ノ事項ニ属シ之ニ触ルルノ予ニ取リテ困難ノ事情アルモノナルコトヲ諒察セラレンコト是ナリ予カ此ノ演壇ニ於テ最後ニ諸君ニ見エシ以來國際關係ハ稍ヤ變更ヲ来タセリ、露國ハ依然旧ノ如ク勇武ナル其同盟國ト密接ナル關係ニ在ルヲ以テ此等各國間ノ複雑ナル協同事業ハ鞏固ニ按配セラレ各國何レモ最善ノ方法ニ拠リ唯一共通ノ目的ヲ貫徹センカ為メ努力シツツアリ、此ノ同盟友邦ノ中ニ近頃更ニ伊國ノ参加スルヲ見タリ、伊國國民カ不撓ノ努力ヲ以テ異種族ノ桎梏下ヨリ其同胞ヲ救出セント試ミツツアリシハ久シキ事實ナリ、「トリエスト」及「トレンチノ」ノ名称ハ伊太利復興時代戰士ノ子孫ノ間ニ開戦ノ題目タリシコト既ニ久シ、「サランドラ」氏ノ内閣ハ戰爭勃発以來其進出ニ対シ注意周到ナル準備ヲ調ヘ而シテ時機ノ熟スルヲ見ルヤ其國民的理想ヲ實現セントシテ露僞英三國ニ加担シタリ、予ハ玆ニ諸君ト共ニ

ケンコトヲ希望ス

猛惡ナル独逸ノ戰鬪振リハ吾カ兵勇ノ多数ヲ毒殺シ又平和ノ人民及婦女子ヲモ假借スルコトナク之レカ虐殺ヲ敢行スルニ至リテハ中立國ニ於テモ義憤ノ精神ヲ鼓舞セスンハアラス、斯ノ民心ノ激動ハ大西洋ノ彼岸ニ及ヒ人道尊重ノ精神ニ涵養セラルル北米合衆國ノ人民ハ幾多米國人ノ生命ヲ奪ヒタル「ルシタニヤ」号撃沈事件ニ於テ断然タル態度ニ出テサルヲ得サリキ、斯ノ殘忍無謀ノ行為ハ独逸ノ面目ニ拭フヘカラサル汚点ヲ留メタルモノトス、大統領「ウキルソン」氏カ独逸政府ニ送リタル嚴格ナル詰問ニ対シ米國側ヨリ更ニ断然タル処置ニ出ツヘキヤ今ハ之ヲ予言スルコト困難ナリト雖モ米國ノ輿論ハ独逸ノ感情融和ニ頗ル昂ムル所アルニ拘ハラス独人ノ行為ニ対シ憤激スルハ明瞭ナリトス

「ガリポリ」半島ニ行動スル同盟軍ノ絶大ナル勇氣ハ吾人ノ齊シク讚嘆禁シ能ハサル所也、天險ニ拠リテ独人カ巧ニ防備ヲ加ヘタル堅固ノ攻略ニ際シ巨大ノ犠牲ヲ払ヒツツ我カ勇敢ナル同盟軍ハ不撓不屈ノ意氣ヲ鼓舞シ漸次吾人ヲシテ彼我ノ直接連絡ヲ執リ得ヘキ希望ノ瞬間ニ近

同盟國タル伊太利ニ対シ敬意ヲ表スルノ機會ヲ得タルヲ欣幸トナス、若シ他ノ列國ニシテ伊國ノ例ニ倣フニ於テハ戰爭ノ終局ヲ促進シ流血の犠牲ヲ減省シ而シテ交戦國民ハ各平和ノ常業ニ復歸スルノ時期ニ近邇スヘキヤ論ナシ、目下此等ノ諸國ハ尚ホ其決心ヲナスノ時機ヲ逸シタルニアラス而シテ各自カ其前途ニ横ハル國民の問題ヲ解決センカ為メ此ノ時機ヲ利用スルコトヲ望ミ得ヘキ也輓近社会ハ我カ北隣ノ瑞典國ニ瀾漫スル思潮ニ就キ喧伝スル所少カラズ、最近同國政治家ノ言論ハ種々ナル帰結ヲ齎スノ因ヲ為スト雖モ我カ瑞典國ニ対スル友好關係及今日ニ至ルマテ最良ノ善隣關係ヲ同國トノ間ニ持續セントスル我國ノ誠意ハ一般ノ周知スル所敢テ予ノ言明ヲ要セサル也、而シテ吾人ハ瑞國カ交戦國ニ囲繞セラルルヨリ其商業上避クヘカラサル困難アルヲ諒トシ且ツ瑞國政府カ自國ノ利益保護ノ為メニ努力スルト同時ニ其中立ヲ遵守セントスル誠意ヲ多トスルモノ也、目下「ストツクホルム」ニ於テ英瑞兩國間ニ行ハルル談判ハ全然事務的性質ノモノニシテ兩國当局者間ニ其一致点ヲ見出サンコトヲ昂メツツアリ吾人ハ該談判カ速ニ良好ナル終結ヲ告

ツケシメツツアリ

土耳其人ハ危險ノ近ツキ来ルヲ知ルト同時ニ尚ホ其領土内ニ居住スル基督教徒ニ対シ特ニ殘忍ナル行動ヲ執リツツアリ、「アルメニヤ」人ノ如キハ前代未聞ノ迫害ヲ受ケタルニ拘ハラス其義勇兵ハ勇敢ニ之ニ對抗シ「ワナ」ニ於テハ吾軍隊カ同市ヲ救出スルマテ能ク土耳其人ノ攻撃ニ堪ヘ約一ヶ月間同市ヲ支持シタリ

右同様ノ迫害ハ希臘人ニモ加ヘラレタルヲ以テ希臘國民及其政府ハ彼等ニ対シテ同情ヲ禁セス且ツ激昂シツツアリ左レハ目下希臘政府ハ正義ト自由ノ為メニ戰鬪シツツアル列國ニ聯合スルコトナク小亜細亞ニ於ケル希臘人ニ援助ヲ与ヘ得ヘキカノ問題ヲ解決セサルヘカラザル場合トナレリ

予ハ尚ホ中立ヲ棄テサル自余ノ諸國ニ於テ其當事者カ若シ其生存的利益及總テノ過去ノ事實ニヨリテ指示セラルル針路ニ就クコトヲ決定スルニ於テハ各自ノ國民ノ希望ノ全然一致スヘキモノナルコトヲ疑ハサルモノナリ、此ノ場合ニ於テ予ハ羅馬尼カ塊獨ノ代表者ヨリ受ケツツアル压迫ニ注意セスンハアラス、實ニ此等代表者ハ全力ヲ

尽シテ羅馬尼亞動カサント欲スルモ同国政府ハ其誘惑ニ近ツカズ吾人トノ間ニ友好關係ヲ持續シ而シテ這般關係ヲ鞏固ニシ且其發展ヲ期スルコトハ現ニ彼我兩國ノ共同の任務トスル所ナリ

吾同盟国タル塞耳維カ此ノ戦争ニ於テ如何ナル任務ニ從事シツツアルカニ就キ予ハ茲ニ新ニ説明スルノ要ヲ認メス、塞国軍隊ハ勇敢ナル犠牲の奇蹟ヲ演出シタル以來新勢力ノ蓄積ニ努メ又露仏英三国ヨル表示セル援助ニ抛リ自ラ支持シ更ニ同盟軍ニ参加スヘキ準備ヲ為セリ、予ハ信ス塞国民ハ其愛国的義務ノ自覺ノ上ニ現下ノ非常ナル事件ヨリ来ル他ノ犠牲ニシテ同盟各国カ同一程度ニ享受セサルヘカラサルモノハ之ヲ甘受スルノ決心アルコトヲ、黒山国軍隊ノ「スクタリ」占領ハ同国政府ノ宣言ニ抛ルニ糧食ノ輸送ヲ妨害スル「アルバニヤ」賊徒ノ行動ヲ阻止スルニ必要已ムヲ得サルニ出テタルモノトス、「ニコライ」王ノ政府ハ同市将来ノ運命カニニ同盟列国ノ意思ニ抛リ決セラルヘキモノナルヲ諒解シ之ニ関シ何等予期スル所アラサルナリ

吾人ノ敵国ハ一方ニ吾人ト戦闘ヲ交ヘツツ他方ニハ中立

ルナラン、而シテ斯ノ如キ思潮ハ露国ノ新聞界ニモ同情的反響ヲ喚起シタリ実ニ日本カ共同ノ敵ト戦闘シタルコト並ニ同国カ露国及同盟列国ノ為メニ致シタル最モ實際的ナル助力ハ三協商国政府及其輿論ノ上ニ影響シ鞏固ナル政治的結合ヲ形成スルノ機運ヲ醸成スルニ至レリ、「ポーツマス」条約締結後十年ノ歴史ハ日露兩國ノ平和的協調カ全然可能ニシテ且ツ相互ニ利益ナルコトヲ証明シタリ、現時日本ト我ノ事實的同盟關係ハ層一層密接ナル結合ノ序幕タラサルヲ得サルヘシ、日本軍ノ独逸ノ要塞青島ニ対スル戦闘行為ハ同要塞及独逸ノ租借シタル膠州地方ヲ日本ノ手裏ニ転附セシメタリ、此ノ事情ニ關聯シテ日支兩國政府間ニ談判ハ開始セラレ五月十二日同兩國政府間ニ協約ノ調印ヲ見日本ヲ其利益ノ集中スル支那ノ地方ニ於テ自国民ノ特殊權利ヲ確実ナルモノトセリ日本政府並ニ支那政府ト我国トノ親善關係ハ吾人ヲシテ此談判ノ為メニ露国ノ利益ノ侵害セラレサルヘキ信念ヲ抱カシメ又其談判カ一時危機ニ瀕シタル場合ニ在リテモ尚ホ其成行ニ対シ平靜ニ觀測スルコトヲ得セシメタリ、露支間ニ存スル右ノ如キ互信の關係ハ又吾人ヲシテ外蒙

国ニ在リテ吾人同盟国ニ対シ間接直接ニ其ノ反感の民心ヲ煽動スヘキ陰謀ヲ企図シツツアリ而シテ機會アラハ其民人ヲ驅テ吾人ト衝突ヲ惹起セシメントスルナリ、即チ波斯ニ於テハ此ノ手段ニ訴ヘ同地ニ於テ騒乱ヲ醸成センカ為メ盛ニ黄白ヲ散シ匪徒ヲ嘯集シ武器彈藥ヲ輸入シツツアリ、吾人ハ此ノ陰謀ニ対シ相当ノ処置ヲ執リシト雖モ波斯ニ於ケル継続的擾乱、政府及民主派間ノ軋轢並ニ既ニ月余ニ亘レル内閣ノ動搖等ハ遺憾ナカラ今日ニ至ルマテ満足ナル成績ヲ収ムルヲ得ス匪徒鎮撫ノ上ニ著シキ困難ヲ感シツツアルナリ、然リト雖モ波斯ニ於ケル帝国及英國兩代表者ハ相提携シ波斯政府ニ対シテ騒乱鎮圧ニ助力ヲ与ヘントシテ全力ヲ傾注シツツアルヲ以テ敵ノ陰謀ハ結局不成功ニ終リ同国内ノ秩序ヲ恢復スルニ至ランコトヲ期待シ得ヘキ也、但シ予カ茲ニ一言シ置キ度キハ若シ吾人カ目下執リ来レル施設カ同国ノ平康ヲ致スニ足ラサルヲ見シカ吾人ハ更ニ断乎タル処置ニ出テント欲スルモノナルコト是ナリ

諸君ハ近時日本ノ新聞界カ日露兩國ノ密接ナル政治的結合ノ望マシキコトニ就キ論議シツツアルヲ注意セラレタ

古ニ關スル最後の協定ヲ支那政府ト締結スルコトヲ可能ナラシメタリ、即チ五月廿五日恰克圖ニ於テ露支蒙三国ノ全權委員ハ右協約ノ調印ヲ了シタリ其全文ハ不日發表セラルヘシ、協約ノ明文ニ抛リ外蒙古ハ支那ト隸属の關係ノ下ニ内政上独立国トシテ承認セラレ即チ蒙古人ハ独立的内政ノ施行權及商工問題ニ關シテハ國際的協約締結ノ權能ヲモ包含スル処分權ヲ保障セラレタルナリ、但シ外国トノ政治的關係ニ於テハ外蒙古ノ独立的權能ハ發言權ヲ有セス該發言權ハ露支兩國ニ属スルモノトス

諸君予ハ終ニ臨ミ諸君ニ対シ戦争満一年ヲ經過セル今日ニ於テ吾人ノ努力カ所期ノ結果ヲ齎ラサルノ觀アリトスルモ成功ノ担保カ堅忍堅實ニ在ルコトヲ忘ルヘキニアラスト言ハント欲ス、予ハ滿幅ノ確信ヲ以テ政府ハ輿論ト相一致シ最後ノ勝利ヲ博スルニ至ルマテ平和和締結ノ意思ヲ有セサルコトヲ宣言スルヲ得ルナリ、吾カ誠実ナル同盟国人モ之ニ対シ同シク枉屈スヘカラサル覺悟ヲ有ス、固ヨリ吾人ノ意思ト相關セス而カモ事件ノ歴史の推移ノ影響ノ下ニ自然ニ創造セラルヘキ事ハ是アリ之ニ対シテ吾人ハ考量セサルヲ得ス、一年以前吾人ヲシテ干戈

ヲ執リ起ツニ至ラシメタル戦争ハ一九一四年七月ニ於テ唯タ遼遠ナル一ノ幻映ニ止マリシ問題ヲ敵カニ吾人ニ明示シタリ、此等ノ問題ハ予カ玆ニ詳述スルヲ要セサル程今ヤ一般ニ明確ナルモノニシテ吾人ニ対シテハ有ユル力ノ緊張ヲ要求ス蓋シ吾人ハ露国ノ前ニ之カ実現ノ義務ヲ有スルモノナルナリ、斯ルカ故ニ天ノ吾人ニ降シタル試験ノ如何ナルモノナルニ拘ハラス吾人ハ敵ヲ屈服スル迄戦闘スヘキ断乎タル決心無カルヘカラス、而シテ之カ為メニハ吾人ハ正理ノ最後ノ勝利ニ対シ侵スヘカラサル確固タル信念ヲ保持スヘキナリ

次ニ大蔵大臣「バルク」氏ノ演説アリ其要旨左ノ如シ

開戦以來一九一五年七月十五日（邦曆七月廿八日）迄ニ戦費トシテ要求シタル金額ハ六十九億七千一百万留其内六月末迄ノ支出予定額五十四億五千六百万留ニシテ即チ一昼夜平均一千九百万留余ヲ支出シタル割合ナリ、斯ノ如キ莫大ノ経費ヲ要スル戦争ハ一方ニ於テ国库ノ收入ニモ影響ヲ与ヘ著シク之カ減少ヲ見タリ、昨年度ニ於テ收入額ハ予算見積額ニ比較シテ六億七千三百六十万留ノ減少ヲ示シタルカ其最大ナルモノハ官營酒精販売ノ停止ヨ

リ来ル收入ノ不足四億三千二百八十万留トス左レハ国库減収ノ重ナル原因ハ不可抗のモノニアラズ必竟国民意思ノ自覚ヨリ来ル結果ナルヲ以テ之ニ対シ深ク憂慮スルノ必要ヲ見サルナリ本年度ノ予算編成ニ当リ收入ノ填補ハ一方ニハ各種ノ税源ニ仰キ他方ニハ支出項目ニ節約ヲ加ヘ予算面ノ「バランス」ハ「クレヂット、オベレーション」六千〇八十万留ヲ以テ調節ヲ見タリ、本年度ノ經常歳入ノ実収額ハ二十七億九千六百万留ナルヘク即チ予算面ヨリ少キコト三億三千六百万留ナルヘシ但收入不足額中一億六千万留ハ官營酒精販売及酒税ノ見積收入ノ未収ニ歸スルヲ得ヘシ然レトモ一九一四年度ノ欠損ヲ国库剰余金ヨリ填補シタルヲ以テ一九一五年度ニ於テハ八千一百万留ノ残金ヲ得タリ尚ホ一九一五年經常費中陸海軍糧食費トシテ計上シタル四億九千六百万留ハ本年度ニ於テ戦時費ニ仰クヲ以テ本年度予算ハ唯ニ欠損ヲ見サルノミナラス多少ノ剰余金ヲ見ルヲ得ヘシ左レハ陸海軍ノ維持費並ニ其他戦時ニ必要ナル諸経費ハ信用作用ヲ以テ之ヲ支弁スヘキモノトス而シテ戦費ハ各交戦国共兵力ノ増加ニ從ヒ漸次膨脹ヲ来スカ故ニ我戦費ニ在リテモ從來ノ

経験ニヨリ計算スレハ七月一日ヨリ年末マテニ四十億六千六百万留ヲ要スヘク即チ一九一五年度ノ戦費総計七十二億四千二百万留トナリ更ニ前年度ノ同費支出額ヲ之ニ加フルニ於テハ九十五億留トナルモノトス、政府ハ戦費ヲ公債ニ仰クニ就テハ慎重ノ態度ヲ持シ租税收入ノ膨脹ニ由リ經常予算ノ收入不足額ヲ少カラシムルヘキ方法ヲ講シツツアリ

政府ハ広ク一般国民ニ租税ヲ課スルモ從來国民カ酒精販売收入トシテ国库ニ納入シタル巨億ノ資金ヲ租税ニ転スルモノナルヲ以テ之カ為メ甚シキ困難ヲ感スルコトナカルヘシ目下政府カ執ラントスル租税法ハ戦時ノ急務ニ応センカ為メ從來ノ税制ト共ニ施行セントスルモノナレハ固ヨリ不備欠陥ノ存在スヘキハ言ヲ俟タス、此等ハ他日一層合法的ナル全部ノ税制改革ニ抛リ整理セラルルマテ一時ノ便法ニ過キサルナリ大蔵省ハ一般税制改正ニ関シ目下調査中ニアリ而カモ之レカ実施ヲ見ルニハ一九〇七下年院ニ提出シタル所得税法ニ対スル上下兩院ノ意見ノ確立ヲ見ルコト全ク必要也、大蔵省ノ見ル所ヲ以テスレハ所得税法ハ税制改革ノ基礎タルモノニシテ若シ之レ無

キニ於テハ真正ナル税制改革ハ到底望ムヘキニアラサルナリ

目下各交戦国ハ何レモ信用作用^{クレヂット、オベレーション}ニ由リ戦費ノ供給ヲナシツツアリ唯英國ニ在リテハ増税ニ由リ比較的少部分ノ戦費ヲ得ツツアリ露国ニ於テハ信用作用ハ本年七月十五日迄ニ約六十五億留ニ達セリ其内外国ニ於テセルハ十五億留短期国库債券ニ由ルモノ二十四億留アリ昨年十月大蔵省カ内債五億留ヲ發行セントスルヤ吾カ財政家中ニハ内債ヲ募集スルヨリハ紙幣ヲ發行スルヲ得策トスルノ議論アリシモ本省ニ於テハ断然右長期内債ノ發行ニ着手シタリ而シテ其結果ハ頗ル良好ナルモノナリキ、其後政府ハ第二回内債五億留ヲ發行シ又近頃第三回内債十億留ヲ發行シタリ即一九一四年九月ヨリ本年五月一日ニ至ル期間ニ於テ政府ハ内国市場ニ向テ四十分利附国库手札六億留並ニ長期公債二十億留ヲ發行シタルモノニシテ国库ハ其全部ノ入金ヲ見サルモ要スルニ内国ニ於テ戦費トシテ約四十五億留ヲ得ヘキナリ但其内十八億四千七百万留ハ帝国銀行ヨリ貸出シタルナリ

物価ノ騰貴ハ經濟界一般ノ現象ニシテ殊ニ戦争ニ從事ス

ル各国ニ在リテハ免ルヘカサル所也然レトモ露国ニ於テハ我同盟各国ノ予期スル範圍外ニ物価ノ騰貴ヲ認メス而シテ此ノ騰貴ヲ致セルハ避クヘカサル原因以外人為の原因ノ存セサル無キニアラス後者ニ対シテハ政府ハ之カ排除ニ相当ノ施設ヲナスヘキモ其效果ヲ収メンニハ社会の各種団体及施設ノ協助ヲ必要トナス

近時貯金局ニ於ケル貯金ノ増加ハ官營酒精販売所ノ閉鎖与テ多大ナルハ言ヲ俟タス一九一四年四月予算ノ説明ニ当リ大蔵大臣ハ露西亜全国ヲ通シ一九一四年一月一日現在貯金局ノ数ハ八千五百ヶ所酒精販売所ノ数二万五千三百ヶ所アリトシ而シテ該販売所ハ勉メテ之ヲ閉鎖シ其ノ後ニ貯金局ヲ開設スヘシト約シタリ然ルニ今ヤ勅命ニ由リ酒精販売所ハ全部閉鎖セラレ酒毒ヨリ放レタル健全ナル国民ハ到處ニ見ルヲ得ルナリ殊ニ工場ニ於テハ遊惰休業ノ弊大ニ減シ工程ノ進捗著シキモノアリ飲酒ノ結果一時慘澹タル状態ニ陥キリタル民家ニ在リテモ今ハ多少ノ余裕ヲ生シ而シテ犯罪者ノ数ハ爾来大ニ減少シ国民ノ心理状態ニハ偉大ナル変化ヲ来タシタリ

聖旨ニ拠リテ実施セラレタル此ノ大改革ハ此際其根拠ヲ

ヲ続行スベシ。近來露貨ノ下落甚シキガ政府ハ之ガ予防策ヲ講ズベシ。

国民党代表者「ボープリンスキー」伯ハ曰ク、

今ハ党派ヲロニスベキ時ニアラズ、吾人ハ悉ク国民のナラザルベカラズ、如何トナレバ吾人刻下ノ目的ハ強敵ヲ驅逐スルニアレバナリ。吾人ハ勝利ノタメ軍隊ヲ援クベシ。内政ニ於テハ禁酒ヲ続行シ、税ノ割当ハ宜シク人民ノ財力ニ応ズベク、労働者ニ対シテハ従来ノ態度ヲ改ムベシ。經濟のニ独逸ノ羈絆ヲ脱スベシ。政府ハ議會ニ内情ヲ打ち開ケ議會ノ忠告ヲ容ルベシ。議會ハ今種々ノ犯罪ヲ追究セザルベシ。然レトモ政府ハ今後カカル犯罪ヲ再ビスルナカラシム期セザルベカラズ。政府ニシテ革新ノ実ヲ挙げ勝利ノ日ニモ敗北ノ日ニモ同ジク露国ノ熱情ニ燃ユル露国国民ト共ニ行カント欲セバ吾人亦政府ヲ援護スベシ云々、

氏ハ其ヨリ国民党、中央党、十月党ノ決議案ヲ朗読セリ。

決議案

吾人ハ我陸海軍ノ壯烈無双ノ偉勲ニ対シ感嘆措ク能ハザルナリ。一ケ年ノ戦争ハ全帝国民ヲシテ最後ノ勝利ヲ制

鞏固ナラシメサルヘカラス而シテ之ニ関スル政府ノ施設ヲシテ十分ノ功果ヲ齎サシメンコト一ニ社会公共の団体ノ協助ニ待タサルヘカラス

戦費ノ財源ハ専ラ公債ニ拠ルト雖モ帝国銀行ノ紙幣発行權ヲ拡張スルコト亦必然ナリ勿論政府ニ於テハ金融界ノ安静ヲ念トスルヲ以テ特ニ金準備ノ安全ヲ期ス

右諸大臣ノ演説終了ト共ニ議院側ヨリハ右党ヨリ左党ノ順序ニテ各派代表者ハ政府及事務局ニ対スル態度ヲ声明セリ。

右党代表者タル「マルコフ」氏ハ社会及議會ノ一部ニ唱ヘラルル責任内閣説ニハ賛成セザル旨ヲ言明シ次ニ戦敗ノ責任ニ就キテ曰ク、

吾人ハ陸軍省ヲ弁護スル者ニアラザルモ今回ノ失敗ハ独リ政府ノミナラズ吾人社会全部ノ責任ナリ。政府ハ何故ニ戦争開始後直チニ産業ノ動員ニ着手セザリシヤ。此ノ間司法權ノ注意ヲ促スベキ事実アルニアラズヤ或ハ恐ル過失ニアラズシテ犯罪アリシニアラズヤ。政府ハ速カニ軍需品供給局ヲ組織シ物価騰貴ノ予防策ヲ講ジ「シンデカート」ノ跋扈ヲ抑ヘ暴利ヲ貪ル商人ヲ懲シ、行政官ヲ監督シ避難民ノ救助ヲ怠ラザルベシ。猶太人ノ追究ハ之

スルマデ聯盟諸国ト共ニ戦争ヲ継続スベシトノ不撓ノ決心ヲ更ニ強固ナラシメタリ。吾人ハ此処ニ絶対勝利ヲ得ルマデ平和ヲ結ブコトナカルベキヲ切言シ速カナル勝利ハ意氣盛ナル全国民ノ努力ニヨリ戦争ニ必要ナル兵器彈藥ヲ製造スルニアルヲ思フ。又此ノ軍需品ノ製造ガ内政ノ整備、官民ノ和合ト共ニ旧キ戦争ヲ忘レ政府ガ露国ニ忠誠ナル人民ニ対シシノ人種、言語、宗教ノ別ナクヨクソノ利害ヲ尊重スルニ於テ完カルベシ。速カナル勝利ハ国家ノ信任ヲ負ヘル政府ガ国民ト能ク密接ナル提携ヲナスニヨリテ得ラルベシ。軍需品ハ立法府、公共団体ノ協力ニ倚リテ今後ソノ不足ヲ生ゼザルベシ。欠陥、不幸、犯罪ノ犯人ハ職務上ノ地位ノ高下ヲ問ハズ法律ニ定メタル処刑ヲ受クベシ。右議事ニ入ルニ当リ之ヲ決議ス。

中央党ヲ代表セル「リヴォフ」氏ハ国力ヲ遺憾ナク發揮セシムルニハ官民一致スルヲ要ス。而シテ国民ニ対シ精力ノ傾注ヲ要求シ得ルハ国民ノ信任ヲ負フ政府ナリト論ジ独逸人ノ土地所有權問題ニ関シテハ国防上之ガ解決ヲ要スト述べタリ。

十月党自治派ヲ代表セル「サヴィチ」氏ハ曰ク

吾人ハ戦争ヲ最後マデ継続セントノ決心ヲ明言センガタメニ来レリ。經營的事業ニ着手スル前吾人ハ宜シク我が武力ガ当然収ムベキ効果ヲ収メ得ザリシ源因ヲ闡明スベシ。露国ノ戦備ナキ独リ今回ニ止マラズ。日露戦争ニ於テ然リ、露土戦争ニ於テ然リ「クリミヤ」戦争ニ於テ然リ、此ノ如キモノ独リ組織制度ノ罪ノミニアラズシテ人ノ罪ナリ。罪ハ陸軍ノミニ罪ニアラズシテ全政府ノ罪ナリ。第三選挙ノ議會既ニ砲兵本部ヲ非難セルニ拘ラズ政府ハ之ニ対シテ何等ノ処置ヲ採ラザリキ。

官民ノ疎遠ハ政府ノ大ニシテ国家全体ノ無力ナル所以ナリ。立法府ハカカル政府ニ対シテ何等ノ責任ヲ負フモノニアラザルモ勝利ヲ獲ンタメニハ彼ニ援助ヲ与フルヲ惜ムモノニアラズ。

十月党左派ヲ代表セル「カラジン」氏ハ曰ク、

一九一二年五月十二日（露曆）議會ハ議事ニ移ル前砲兵部ノ欠陥ヲ指摘シ陸相ノ注意ヲ促ス処アリタルニ拘ラズ今日ノ始末ナリ。軍需品供給ノ事ハ官僚ノミノ力ニテ之ヲ完フスルコト能ハザルハ之ニ見テ明ナリ。

必ズ人民ノ監督ト整々ノ組織トヲ要シ且民間ノ生産力ニ

テソノ発達ヲ妨ゲ波蘭ニ対スル公約ハ一年モノノママトナリ本日漸ク政府ノ断定ヲ耳ニセリ。吾人ハ波蘭人ニ対シ衷心同情スル者ニシテ今日ノ約束ガ一日モ早ク実現セラレンコトヲ祈ル。政府ハ政治犯人ヲ特赦スベシ。政府ハ最近ニ至ルマデ官僚的旧来ノ方法ニヨリ万事ヲ成シ遂ゲ得ベシトナセシガ戦況不良トナルヤ倉皇トシテ産業界ニ援助ヲ求メ来レリ。仍チ与論ヲ容レ軍隊及国民ノ最モ嫌惡セル大臣ヲ除キタリ。然レトモ此ノ如キ外形上一部ノ変化ニシテ官民相互關係ノ変化ニアラズ。戦勝ヲ以テ局ヲ収メシニハ權威アル政府ヲ要ス。然レトモ此ノ如キハ国民ノ信用アル政府ニシテ始メテ之ヲ期スベシ。国歩困難ノ今日議會ノ義務ハ全力ヲ尽シテ政府ヲ援ケ之下責ヲ分ツニアレド此ノ如キハ議會ニ対シ責任ヲ負フ内閣ニシテ始メテ期スベク、政府ハ須ク政治ノ方針ヲ根本的ニ變更スルヲ要ス。吾人ノ今日此処ニ来レルハ如何ニセバ敵ニ勝ツベキヲ計ランガタメナリ。勝利ハ国民ノ力ヲ俟タズシテ得ルコト能ハザルナリ。政府タルモノ旧来ノ方針ヲ捨テ国民ト提携スルヲ要ス。

立憲民主党ヲ代表セル「ミリニコフ」氏ハ曰ク、

俟タザルベカラズ。刻下ノ急務ハ官民合同シ政府ハ誠意人民ト提携セザルベカラズ。

波蘭人ヲ代表セル「ガルセイヴィチ」氏ハ曰ク、波蘭人ハ戦争ノ苦痛ニ呻吟シツアルモ戦争ヲ継続セントノ意志強固ナリ首相ノ演説中波蘭ノ自治ニ関スル聖旨ヲ洩ラサレタルガ吾人波蘭人ハ先ヅ陛下ニ感謝ノ意ヲ呈セザルヲ得ズ。政府ガ聖旨ヲ実現スル場合ニ於テハ宜シク波蘭人ノ權利ヲ尊重センコトヲ希望シテ止マズ。我等波蘭人ハ露国ノ勝利ヲ信ズル者ニシテ勝利ノ裏ニ我が将来ノ希望アリ。

改進黨ヲ代表セル「エフレイモフ」氏ハ曰ク、

吾人ガ軍隊ニ対スル義務ハ今日此ノ席上眞実ヲ云フニアリ。政府ガ議會ノ勸告アリシニ拘ラズ砲兵部及飛行部ヲ等閑ニ看過シタリ。前陸相及次官ガ本年二月ノ秘密會議ノ席上軍備ノ充實シテ憂フヘキモノナント事實ニ反スル陳述ヲナセルハ何等ノ不都合ゾ。露国国民ハ今ヤ事實ノ真相ヲ知ルノ權利ヲ有ス。開戦以來全國民ハ政府ト提携シテ前進セリ。然ルニ政府ハ民間ノ事業ヲ抑圧シ異種族ニ対シ公平ヲ欠キ労働者ノ団体ヲ解散シ經濟界ニ容喙シ

本年二月九日ノ議會ニ於テ吾人ハ心配ノ余リ秘密會議ノ席上陸軍当局ニ向ツテ國民ハ戦争ノタメ如何ナル犠牲ヲモ辞セザル覚悟ナレバタダ事實ノ真相ヲ打ち開ケンコトヲ求メタルニ極メテ樂觀的説明ヲ与ヘタルガソノ後半歳ヲ閱ミサザルニ國民ノ心配ハ事実トナレリ。國民ハ既ニ政府ノ言ニ満足スル能ハズ自ラ国防ノ事ニ当ラントスルナリ。政府ハ今日ノ失敗ヲ繰リ返スコトナキ様充分警戒スベシ。議會ハ政府ノ失政ニ対シ責任ヲ分タズ。政府ガ國民ニ対スル懷疑ノ態度ヲ持シ國民ト軍隊トノ聯絡ヲ阻害シ又異種族ニ対シテハ口ヲ戦時ノ必要ニカリテ迫害ヲ加ヘタルハ非難セザルベカラズ。政府ハ我等及同盟諸國發憤ノ泉タル小民族ノ自由独立テフ理想ヲ蹂躪セリ。唯自ラ慰ムベキハ「ニコライ」大公ノ波蘭人ニ与ヘタル公約ナリシガ今日漸ク首相ヨリ波蘭ノ自治ヲ耳ニシタルノミ。政府ガ爾今露国臣民ニ対シソノ人種、言語、宗教ノ別ナク、同様ニ好意的態度ヲ持スベキコトヲ宣言セルハ大ニ慶賀スベキコトナリ。

我が社会黨議員ガ外国ノ党友ヨリ送リ来レル露国戦敗希望ノ決議案ヲ否決セルニ拘ラズ之ヲ罪セルハ露国司法權

ノ恥辱ナリ。愛國ノ熱情ヲ懷キテアタラ獄屋ニ呻吟スル幾多ノ政治犯人ヲ開放スベシ。新聞紙ニ対スル態度ヲ一変シ蜚語ノ流布ヲ避ケ又社会思想ノ普遍統一ヲ計ルベシ。大臣ノ顔ハ変リタレドソノ政治的色彩ハ変セズ。政府ニシテ誠意アラバ宜シク地方官ヲ更迭シテ政府革新ノ実ヲ挙げベシ。人民ニ独立経営ノ精神ヲ奨励シ異人種ニ対スル迫害ヲ止メ愛國心ヲ喚起セシムベシ。

吾人刻下ノ急務ハ勝利ヲ得ルニアレバ党トシテ年来ノ主張ハ今之ヲ云ハズ、勝利ヲ得ベキ実策トシテ軍需品供給省ヲ設立スベキ法律案ヲ議會ニ提出セリ。農民ハ勝利ヲ組織スル人民ノ大部分ナリ。サレバ農村ノ改革、火酒ノ禁止、地方自治ノ改正、組合法ノ發布ハ刻下ノ急務ナリ。經濟上ノ同盟罷工ハ成ル可ク温和手段ヲ以テ之ヲ中止セシムベク之ニ対シ政府ガ懷疑ノ態度ヲ持スルハ不可ナリ。労働党ヲ代表セル「ケレンスキー」氏ハ曰ク、

戦争ノ過去一年ヲ回顧スルトキハ政府当局者ハ恬トシテソノ地位ニ止マルコト能ハザルベシ。吾人ハ戦争ニ關係スル政治問題及社会問題ヲ自由ニ論議スルノ權利ヲ要求スルモノナリ。

キモノ而カモ今日ニ至リテ漸ク政府ノ宣言ヲ聴ケリ。吾人ハ政府ノ誠意ヲ疑ハザルヲ得ズ。高加索ニ於ケル官憲ノ横暴ニ至リテハ言語道斷ナリ。(氏ハ最後ニ政府彈劾ノ宣言書ヲ朗読セリ。)

第一日ハ之ニテ終了八月二日ニハ「コザク」出身議員、農民出身議員ノ演説アリタル後、回教教徒、猶太人、「アルメニヤ」人、「ラテウイン」人、「エストン」人、「リスアニヤ」人等ノ代表者夫々民族ヲ代表シテ演説スル所アリ。「テフケレフ」氏ハ右各民族ヲ代表シテ次ノ宣言ヲナセリ。吾人ハ小国民ノ權利ガ蹂躪セラレタルニ起リタル今回戦乱ノ權利及正義ノ勝利ニ歸スベキヲ確信スル者ナリ。吾人ハ我等ト露國トノ關係ガ今回ノ戦争ニヨリテ益々強固トナリタルヲ覺ユ、吾人ハ国防ノコトニ全力ヲ尽スヲ吾人ノ義務トナス者ナルガ故ニ政府ハ吾人ニ平等ノ民権ヲ与ヘ以テ吾人ノ努力ノ益々大ナルヲ期スベシ。吾人ハ議會ノ決議案ニ次ノ二項ヲ加ヘラレンコトヲ希望ス。

一、箇々ノ民族ニ対スル行政上ノ压迫ヲ除クコト。

二、立法手續ニヨリ宗教及人種ニ關スル制限的法律ヲ廃止スルコト。

現在ノ難境ヲ脱センタメニハ組織ノ能力及資力ノ全部ヲ拳ゲテ人民ニ開ケ渡サザルベカラズ。政府ハ國民ト融和ノ証トシテ大赦ヲ行フベシ。言論結社ノ自由、人權平等之レ刻下ノ急務ナリ。刻下ノ急務ハ立法事業ニアラズシテ健全ナル政府ヲ形成スルニアリ。今日吾人ハ政府ガソノ過失ヲ自覺セルノ色アルヲ見ズ。罪アル者ハ免ゼラレタリ。然レトモソノ後任者果シテ万事ヲ國民ニ委スルノ決心アリヤ否ヤ、吾人之ニ対スル回答ナキ以上今後發生スル事件ニ關シ何等ノ責任ヲ負ハザルベシ。

予ハ國民自ラ國家ノ急ヲ救ヒ国政ヲ自ガ掌中ニ収メンコトヲ勸告スルモノナリ。

社会民主党ヲ代表セル「チヘエゼ」氏ハ曰ク、

露國ニシテ断乎タル処置ニ出デザレバ露國ハ土崩瓦解ニ歸シ國民ハ滅亡スルニ至ラン。政府ハ戦争開始ト共ニ我等ノ新聞紙ヲ閉ジ自ラ「ミヤソキドフ」ノ如キ大反逆者ヲ出セル彼等ハ労働者ヲ誹謗スルナリ。カカル政府ハ果シテ労働者ノ提携、國民トノ提携ヲ唱フルノ資格アリヤ。政府ハ猶太人ヲ以テ間諜トナシ之カロ実ノ下ニ恣ニ彼等ノ有力者ヲ拘禁シタリ。波蘭ノ自治ハ疾ク之ヲ執行スベ

右ニテ各派ノ宣言終リタレバ「ボープリンスキー」伯ガ先ニ朗読セル國民黨、中央党、十月党ノ決議案ノ審議ニ移レリ。

改進黨ハ「政府ハ國民ノ信任ヲ負ヘル人ヲ以テ組織シ議會ニ対シ責任ヲ負フベキモノトス」トノ修正案ヲ提出シ、立憲民主党ハ原案中露國ニ忠誠ナル人民トアル「忠誠」ノ字句ヲ除クベシト字句ノ訂正ヲ求メ、労働党ハ次ノ決議案ヲ提出ス。

議會ハ政府ノ宣言ヲ聴キ國民及軍隊ニ対スル責任上一年間ノ戦争ガ政府ニ国防ヲ組織スルノ能力ナク、軍隊ヲシテ無益ノ犠牲ヲ払ハシメ、經濟財政上国内ノ滅裂ヲ防止スルノ能力ナキヲ証セルコトヲ云ハザルベカラズ、故ニ議會ハ国防ノタメ國家ノ全力ヲ普通選舉ニヨル議會ニ責任ヲ負フ政府ヲ構成スルニ集中セザルベカラズ。此ノ如キ議會召集ヲ見ルマデ議會ハ時局ノ重大ナルニ鑑ミ直チニ特赦ヲ宣言スベシ。民権ノ自由ヲ期シ労働団体ニ対スル障害ヲ除クベシ。労働者ノ經濟上ノ地位ヲ安固ナラシムベシ。各民族平等ノ主義ヲ実行シ猶太人、「ウクライナ」(小ロシア)人、高加索地方ノ回教教徒ニ対スル迫

害ヲ止ムベシ。政府ニシテ前記ノ条件ヲ実行スルニアラザレバ国家ガ払フ犠牲ハ無効ナルベシ。

「テウリヤコフ」氏ハ社会民主党ノ決議案ヲ朗読セントセルモ議長之ヲ許サズ。

次イデ十月党ヨリ「ベニグソン」伯出デ「ボープリンスキー」伯ノ決議案ヲ弁護シ之ニ対スル各派ノ修正案ヲ排シテ曰ク、

民族団ノ決議案増補ハ「ボープリンスキー」伯ノ決議案中ニ大体含まレアリ。改進黨ノ責任内閣ハ主義ニ於テ賛成ナルモ今日之ヲナストキハ各方面ニ於テ非常ノ大動揺ヲ来スベケレバ暫ク之ヲ控ヘ戦争終了トナラバ我が党モ諸君ト共ニ責任内閣ノタメニ奮闘セン云々、

「チヘエゼ」氏ハ社会民主党ガ国民党ノ決議ニ反対スベク改進黨及労働党ノ決議案ニ投票セザルベク民族団ノ補修ニ投票スベキ旨ヲ宣言セリ。国家ヲシテ今日ノ如キ状態ニ陥ラシメタル政府ハ須ク辭職スベシト主張セリ。

「ミリュコフ」氏ハ改進黨ノ修正案タル責任内閣ハ吾人ガ議會開設以來ノ主張ニシテ今後ト雖モ決シテソノ主張ヲ變更スルコトナカルベシ。今ヤ十月党ノ代表者マデ此ノ主張

ヲ持シ議院主義ノ基礎ヲ承認セリ。吾人ガ年来ノ主張ヲ決議案ニ上ボセザルモノ吾人ガ開戦以來明言セル如ク一政党トシテノ政見ヲ主張スルヲ止メ全議會ト歩調ヲ共ニスル趣旨ニ基ク。故ニ吾人ハ改進黨ノ修正案ニ対シ投票ヲ差控フベシ。

右ニテ討論ヲ終ヘ決議案ヲ採決ニ移ル。

立憲民主党ノ修正案ハ右党十月党ヨリ成ル多数党ノタメニ否決セラレ、改進黨ノ修正案亦同ジク右党十月党ノ多数党ニヨリテ否決セラレ、議會ノ大多数ヲ以テ「ボープリンスキー」伯ノ提出セル国民党、十月党ノ決議案ヲ原案通り可決セリ。民族団ノ提議ハ百九十一對百六十二ノ多数ヲ以テ破ル。

三〇〇 八月十日 在伊国林大使ヨリ
大隈兼任外務大臣宛(電報)

歐洲戦局ニ関シ露軍回復ノ見込等検討方上申ノ件

第一五六号 (八月十三日接受)

戦局ニ関シ露軍回復ノ見込果シテ有之ヘキヤ又一方英国ノ新軍ハ何時頃ニ至レハ出動シ得ヘキヤ内密ニ我大使又ハ武

(露都第九月三日午後九時四十六分
第八〇二号)

三〇二 九月三日 在モスクワ平田総領事代理ヨリ
大隈兼任外務大臣宛

時局ニ対スル「モスクワ」市民ノ態度ニ関シ報告ノ件

政第一七一号 (九月二十二日接受)

大正四年九月三日

在莫斯科

総領事代理 平田 知夫(印)

外務大臣伯爵 大隈重信殿

第五九号
露国目下ノ時局ニ関シ莫斯科市参事会ハ八月三十一日ノ會議ニ於テ国民ハ軍隊ト総指揮官ヲ信頼シ一國拳ツテ戦捷ヲ得ルニ全力ヲ注クヲ要スルコト此戦争ハ最後迄継続スヘク完全ナル勝利ヲ占メ且ツ同盟諸國ト一致ノ上ニアラサレハ断シテ媾和ヲ為スヘカラサルコト目下ノ急務トシテ国民ノ信任ヲ博スベク有力ナル政府ヲ組織セサルヘカラサルコトヲ決議シ其他同市取引商及商業協會モ翌一日ノ集会ニ於テ略ホ同一ノ決議ヲ為セリ

コトヲ主張シ且ツ現政府ニ嫌ラズ新ニ国民ノ信頼スル政府ノ組織セラルルコトヲ要求スルモノニシテ殊ニ後段ノ要求タル戦局敗勢ノ責主トシテ従来ノ所謂官僚政治ニ在リトナシ此際之ヲ打破シテ政權ヲ事実上民意ノ上ニ立タシメントスル一般ノ趨向ヲ示スモノト見ルヲ得ヘク輕々ニ看過スヘカラザル現象ト被存候以下前記諸団体決議要領訳述供貴覽候

一 莫斯科市臨時參事會決議事項(八月三十一日)

(一) 莫斯科市ハ我カ幾多ノ都市及要塞カ敵手ニ陥レルヲ知レリ然カモ露國ノ軍隊ト其總指揮官大公ヲ鞏ク信頼スルモノニシテ我カ戦勝ヲ得ル為メニ全力ヲ注クベク用意整ヘリ戦争ハ最後迄継続セサルヘカラズ媾和ハ完全ナル勝利ヲ占メ且ツ盟邦ト相一致ノ上ニアラサレハ之ヲナスヘカラズ

(二) 露國ハ戦争ノ新局面ニ入レリ刻下ノ状況ハ一層責任アル新問題ニ逢着セリ此際ニ於テハ國家ハ全力ヲ拳テ敵全滅ノ為メニ一致奮闘セサルヘカラズ

(三) 戦勝ノ基礎ハ國民代表者ト國民トノ一致ニアリ莫斯科市ハ國民議會カ此ノ難局ニ際シ國民ノ真意ヲ發表シ其

声援ニヨリ最後迄其重任遂行ニ全力ヲ傾倒スルヲ確信ス

(四) 我國刻下ノ急務ハ國民ノ強大ナル信任ト一致ヲ有スル政府設立ニアリテ其首座ニハ國家ノ信頼スル人物ヲ置カサルヘカラズ

二 莫斯科取引所決議事項(九月一日)

露國現下ノ難境ハ國民ノ意氣ヲ沮喪セシメシテ反テ犠牲ノ如何及領土ノ一時的損失ニ関ラス最後ノ勝利ヲ得ル迄戦争ヲ継続スルコトカ國家ノ死活問題ナルコトヲ認メシメタルモ然モ吾人ハ大露國ニ相当ナル此目的ヲ達セントセハ特別ノ手段ヲ講セサルヘカラズ即チ一般國民ノ信任ヲ有スル人物ヲ速カニ内閣ニ招致シ閣員ノ地位如何ニ関ラズ之レカ任免ヲナスノ完全ナル權能ヲ与ヘ以テ政權ニ干与セシムルノ要アルヲ認ム吾人ハ目下ノ難局ニ當リ大權カ國民ト相合致シ國民代表者トノ一致ニアル内閣ニ對シ統治組織ニ一新生命ヲ与ヘ以テ大權指導ノ下ニ國家ヲシテ頑強ナル敵ニ對スル最後ノ勝利ヲ博セシムルニ至ルコトヲ確信ス

三 莫斯科商業協會決議(九月一日)

敵カ深ク内地ニ侵入セル目下ノ難境ニ際シ莫斯科商業協會

在露

特命全權大使男爵 本野 一郎(印)

外務大臣伯爵 大隈重信殿

ハ勇悍ナル露國軍隊カ拳國一致ノ力ニヨリ敵ヲ撃退シ且ツ盟邦ト完全ナル協力ニヨリ最後ノ勝利ヲ獲ルコトヲ確信ス平和ハ敵全敗ノ後初メテ之ヲ見ルヲ得ヘシ陛下及國家ニ至忠ナル本協會ハ我國國民議會カ全露國ノ最モ首要ナル希望ノ代表者タルヲ現実スルノ實力ヲ有スルコトヲ疑ハズ而シテ廣ク衆望ヲ有シ且ツ百事議會ト國民トヲ一致セシメ得ル人物ヲ速カニ内閣ニ招致スルノ要アルコト及ヒ之レ即チ「ツアル」ト國民ノ合致ニシテ事ノ成功スル所以ナルコトヲ確信ス

右及報告候 敬具

写送付先 在露大使

三〇三 九月七日 在露國本野大使ヨリ
大隈兼任外務大臣宛

露國戰時供給ノ為四特別會議設置ノ件

附屬書一 國防事務審議統一特別會議規則

二 燃料供給事務審議統一特別會議規則

三 糧食供給事務審議統一特別會議規則

四 運輸事務審議統一特別會議規則

公第一四五号

大正四年四月七日

(十月十二日接受)

國防事務審議統一特別會議規則

(附屬書一)
(訳文)

第一條 國防ニ關スル種々ノ手段ヲ討議シ且ツ之ガ統一ヲ計ルタメ又陸海軍ニ軍需品ソノ他ノ物資ノ供給ヲ安全ナラシムルタメ特別會議ヲ設ケ陸軍大臣ヲシテ議長タラシム

特別會議ハ次ノ事務ヲ掌ルモノトス

第一項 官立製造所兵器廠并ニ私立工場及ソノ他ノ工業ニシテ陸海軍ニ軍需品及ソノ他ノ物資ヲ供給スルモノヲ監督スルコト

第二項 第一項列記ノ物資ヲ製造スベキ工場又ハソノ他ノ工業ノ新經營ヲ助成シ現在工場ソノ他ノ改造擴張及整備ヲ助長スルコト

第三項 軍隊ニ必要ナル物資ノ注文ヲ内外ノ工場及ソノ他ノ工業ニ割リ當ツルコト

第四項 第三項記載ノ注文ノ履行ヲ監督スルコト

第二條 特別會議ハ國家最高ノ機關ニシテ何等ノ官衙官吏ト雖モ之ニ命令シ又ハ報告ヲ要求スルヲ得ズ

特別會議長タル陸軍大臣ハ上院法第三十六條及第四十四條ノ規定及下院法第三十三條及第四十條ノ規定ニ基キ上下兩院ニ對シ報告及説明ノ義務ヲ有

ス

特別會議員ガソノ職務遂行上犯セル犯罪行為ハ上院法第八十六條ニヨリテ之ヲ處分ス

第三條 特別會議ハ左ノ議員ヨリ成ル

(一) 上院議長 (二) 下院議長 (三) 上下兩院議員各九名 (四) 陸軍大臣ト協議ノ上當該長官ノ任命スル海軍大藏交通商工ノ各省及會計検査院ノ代表者各一名 (五) 陸軍省代表者五名 (六) 全露地方自治同盟會及全露市自治同盟會代表者ニシテソノ委員會ノ選出ニカカル者各一名 (七) 中央戰時産業委員會議代表者四名

備考一 特別會議員タル帝國立法府ノ代表者ニシテ不在ナルカ又ハ病氣ナル場合之ガ代理ヲナスタメ兩院ヨリ各三名ノ代理者ヲ選出ス

備考二 下院議員ニシテ本會議員タル者ハ議會解散ノ場合ト雖モ新召集マデ本會議員タルノ權利ヲ保留スルモノトス

第四條 陸軍大臣不在ナルカ又ハ病氣ナル場合陸軍次官中ノ一人代リテ特別會議長ノ職務ヲ行フ

第五條 軍需品供給ヲ掌ル陸軍次官ハ軍人ニ限ルコトナシ

特別會議長ニシテ有益ナリト認ムルトキハ議員外ノ者ヲ會議ニ參加セシムルコトヲ得

大臣及獨立官廳長官ハ必要ニ應ジ會議ニ列席スルコトヲ得

第六條 特別會議ハソノ議員ヲ以テ委員會ヲ組織スルコトヲ得

得ソノ數及擔任事項ハ會議ニ於テ豫メ審議ノ上議長之ヲ任命ス委員長ハ有利ナリト認ムル者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得特別會議員タル者ハ委員ニアラザルモ委員會ノ會議ニ出席スルコトヲ得

第七條 特別會議ノ審議事項ハ議長ノ提出スル所ナリ議員ノ發議ニカカル事項ハ議長ノ提議ニヨリ初メテ會議ノ審議ニ上ルモノトス

第八條 特別會議ノ事務管理ハ陸軍大臣官房又ハ議長ノ特ニ任命スル者之ニ當リ事務取扱ハ同官房又ハ議長ノ特ニ任命スル者之ヲ爲ス事務ノ取扱ニ要スル費用ハ實費ヲ以テ之ヲ支出ス

特別會議ハソノ議事ニ關シ議事録ヲ作製シ大多數ノ意見及議員中ノト不同意ニシテ特ニ自己ノ意見

第九條 ノ記入ヲ希望スル者ノ意見ヲ録ス又同議事録ニハ討議事項ニ對シテ下セル議長ノ決定ヲ録ス

第十條 戰爭終了ト共ニ陸軍大臣ハ兩院ニ對シ特別會議長ノ資格ヲ以テ爲セル處置ニ就キ詳細ナル報告ヲナスモノトス右報告ニハ會議議事録及議長ノ決定ヲ添フルモノトス

特別會議長ハ同會議ニ於テ討議ヲ遂ケタル後次ノ處置ヲナスコトヲ得

第一項 官衙公署公共團體官吏私人及私立會社ニ對シ任務施行上ノ援助ヲ求ムルコト

第二項 個人私立會社及ソノ他ニ屬スル企業ニ對シ他ノ注文乃至ハ契約濟ノ注文ニ先ジテ會議ノナス注文ヲ引キ受ケシムルコト特別會議ハ此等企業ニ關シ必要ナル報道ヲ求ムルコトヲ得

第三項 第二項記載ノ企業ハ臨戰地帶規則第十九條第十八項ニ基キ之ヲ徵用スルコト但シ徵用企業ノ監督ハ當該大臣及長官ト協議ノ上特別會議長ノ任命スル者之ヲナス之ニ要スル費用ハ企業ノ收入ヨリ支出シソノ殘部ハ企業ノ徵用ヲ免ジタル後之ヲ所有主

ニ交附スルモノトス

第四項 必要ノ場合ハ陸海軍用物資ノ製造ニ從事シツツアル官私ソノ他ノ工場ノ幹部取締等ノ役ヲ免ジ特別會議ノ任命スル者ヲ以テ之ニ代フルコト

第五項 全部及一部ノ徵發（倉庫ヲ含ム）ヲナシ又臨戰地帶規則第十條第一及第三項ノ規定ヲ適用スルコト但シ此ノ場合合同規則第十四條及第十五條ノ規定ヲ適用ス

第六項 特別會議長ハ委員ヲ命ジテ商工經營ヲ取り調ベソノ有スル設備品材料製品ノ數量并ニ此種設備品材料製品購入上ノ義務又ハ之ヲ他ノ者ニ納付ノ義務ヲ記入セル商用帳簿及書類ヲ請求シ右帳簿及書類ヨリ寫及必要ナル控ヲ取ルコト

第七項 國內及國外ニ於テアヲル方法ヲ用ヒ相當ト認ムル條件ニ於テ額ニ制限ナク製造ヲナサシムルコト陸上及水上ノ貨物運搬ニ從事スル私經營ヲシテ他ノ運搬ニ先ジ又契約濟ノ場合ニ於テモ之ニ先ジ特別會議ノ運搬ヲナサシムルコト若シ右經營ガ特別會議ノ運搬ヲ請ケ負ハザルカ運搬ヲ履行セザルト

第十三條 第十條ニ記載ノ企業ガ特別會議ノ必要ニヨリ特別會議外ノ注文運搬等ヲ期限内ニ履行シ能ハザル場合ト雖モ右企業ニシテ之ヲ契約者ニ速カニ通知スルニ於テ責任ヲ負フコトナシ此ノ場合右契約者ハ契約中不履行ノ部分ヲ無効トシ契約ニヨリ支拂ヘル手附金又ハ前渡金ノ相當部分ヲ返還セシムルコトヲ得

第十四條 特別會議ノ管理事務ニ關スル議長ノ命令ハ相當ノ軍憲及官憲ニ通知シテ速カニソノ履行ヲ求ムルモノトス

第十五條 特別會議長ノ採レル處置并ニ會議ノ事業ニ必要ナル費用ハ大臣會議ヨリ支出ス緊急支出ヲ要スル場合ニハ右經費ハ議長ノ要求ニヨリ大藏省ヨリ前渡金トシテ支出ス

第十六條 當該省ヨリ夫々ノ企業ニ代表者ヲ任命シ前渡金補助金及貸與金（第十條第十項）ノ支出ヲ監督ス特ニ止ムヲ得ザル理由アル場合ノ外必ズ此ノ規則ニ從フ前渡金補助金及貸與金ハ成ル可ク部分的ニ支拂ヒ前渡金及貸與金ハ補助金又ハ貸與金ヲ受取

第九項 特別會議ニ先セル各省ノ注文及運搬ハ各省長官ト協議ノ上之ガ履行順序ヲ決定スルコト

第十項 必要ナル場合ニ於テハ國庫ヨリ相當ノ前渡金補助金又ハ貸與金ヲ與ヘテ製造品ノ性質及數量ヲ變更セシムルコト

第十一項 必要ノ場合ニ於テ軍事上ノ意味ナキカ又ハ陸海軍ノ注文ヲ履行セザル企業ヲ閉鎖セシムルコト

第十二項 軍事上ノ必要ニヨリ勞働シツツアル企業ノ賃銀ヲ定ムルコト

第十三項 前第十條記載ノ處分ハ特別會議長ニ於テ必要ト認ムル場合會議ノ討議ヲ經ズシテ之ヲ行ヒ會議アリ次第之ヲ報告スルモノトス

第十四項 命令履行ノタメ議長ハ各地方ニ委員ヲ任命シ右委員ヲシテ特別會議ノ管掌事務審議ノタメ各地方ニ委員ヲ議長トシ同人ガ有益ト認ムル者ヲ以テ會議ヲ組織セシムルコトヲ得全露地方自治同盟會及全露市自治同盟會ノ支部及地方戰時產業委員會議ノ設ケアル地方ニ於テハ右代表者ヲ右會議ニ加フ

第十五項 特別會議長ハ軍管區司令官ニ對シ相當ノ訓令ヲ發シ一地方ヨリ他地方ニ畜類食料菽秣料及粒穀種子ノ輸出ヲ禁ジ管區内ニ於ケル食糧菽秣料ノ價格ヲ定メ又ハ之ガ變更ヲナスコトヲ得

第十六項 海軍大臣ト特別會議長タル陸軍大臣トノ間ニ意見ノ相違ヲ生ズル場合ニ於テハ各自ノ意見ハ之ヲ兩大臣ヨリ同時ニ皇帝ニ報告シ皇帝ノ裁可ヲ受ク

第十七項 第十條第二項規定ノ命令ニ服從セザルカ第十條第六項ニ規定ノ要求ニ服從セザル者ハ三ヶ月以内ノ禁錮又ハ三千留以内ノ罰金ニ處ス

第十八項 前記犯罪ヲ故意ニ行ヘル者ハ一ヶ年四ヶ月乃至二ヶ年ノ禁錮ニ處シ刑法第五十條ニ基キ特權及特典ノ一部ヲ剥奪ス

本條規定ノ犯罪事項ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬ス

（附屬書二）

(訳文)

燃料供給事務審議統一特別會議規則

第一條 交通機關及國防ノ目的ヲ以テ勞働シツアルカ又ハ特ニ重大ナル意義ヲ有スル政府又ハ公共團體ノ機關及企業ニ對シ燃料保證ノタメ之ニ關スル手段方法ヲ討議統一センガタメ特別會議ヲ設ケ商工大臣ヲシテ議長タラシム

第二條 特別會議ハ國家最高ノ機關ニシテ何等ノ官廳官吏ト雖モ之ニ命令シ又ハ報告ヲ要求スルヲ得ズ

商工大臣ハ特別會議長ノ資格ヲ以テ上院法第三十六條及四十四條ノ規定及下院法第三十三條及四十條ノ規定ニ基キ上下兩院ニ對シ報告及説明ヲナスベキモノトス

特別會議員職務遂行上ノ犯罪行為ハ之ヲ上院法第八十六條ニ依リ處分ス

第三條 特別會議ハ左ノ議員ヨリ成ル

(一) 上院議員七名下院議員七名 (二) 商工大臣ト協議ノ上當該長官ノ任命スル陸軍海軍大藏交通内務農務各省及會計検査院ノ代表者各一名 (三)

議ニ招クコトヲ得

第六條 特別會議ハソノ議員ヲ以テ委員會ヲ組織スルヲ得ソノ數及擔任事項ハ特別會議ニ於テ豫メ討議ノ上議長之ヲ定ム委員ハ特別會議之ヲ選舉シ會長ハ議長之ヲ任命ス委員會長ハ有益ト認ムル者ノ出席ヲ乞フコトヲ得特別會議員タル者ハ委員ニアラザル者ト雖モ委員會ノ會議ニ列席スルコトヲ得

第七條 特別會議ノ審議事項ハ議長ノ提出スル所ナリ議員ノ發議ニカカル事項ハ議長ノ提議ニヨリ初メテ會議ノ審議ニ上ル

第八條 特別會議ノ事務ハ商工省ノ官吏中ノ一人之ヲ總ベ事務ノ取扱ハ商工大臣ノ任命スル者之ヲ掌ル事務取扱ニ必要ナル費用ハ實費ニ應ジテ之ヲ支出ス特別會議ノ議事ハスベテ議事録ニ収メ大多數ノ意見及議員中多數ノ意見ニ不同意ナル者ニシテ特ニ自己ノ意見ノ議事録ニ記入セラレンコトヲ希望スル者ノ意見ヲ収ム議事録ニハ討議ノ問題ニ對シテナセル議長ノ決定ヲ記入スルモノトス

第九條 戰爭終了ト共ニ商工大臣ハ兩院ニ對シ大臣ガ議長

大臣ノ任命スル商工者代表者四名 (四) 各委員會ノ選舉スル全露地方自治同盟會ノ代表者各一名 (五) 中央戰時產業委員會會議ノ選出スル代表者三名

備考一 特別會議員タル帝國立法府代表者ニシテ不在ナルカ又ハ病氣ナル場合之ガ代理ヲナスタメ兩院ヨリ各二名ノ代理者ヲ選出ス

備考二 下院議員ニシテ特別會議員タル者ハ議會解散ノ場合ト雖モ新召集マデ本會議員タルノ權利ヲ保留スルモノトス

第四條 商工大臣不在ナルカ又ハ病氣ナル場合商工次官中ノ一人又ハ次官ノ權利ヲ有スル者代リテ議長ノ任務ヲ行フ

第五條 特別會議長ハ (一) 商工業代表者會議本部 (二) 南露西亞商工業者會議本部 (三) ウラル鑛山業代表者會議本部 (四) 南露西亞鑛山業者會議本部 (五) バク石油業者會議本部 (六) グロズナ石油業者會議本部及ソノ他ノ產業團體學界技術勞働者ノ代表者并ニスベテ有益ナリト認ムル者ヲ特別會

トシテ講シタル處置ニ關シ詳細ナル報告ヲ提出スルモノトス而シテ右報告ニハ議事録及議長ノ決定ヲ添フルモノトス

第十條 特別會議長ハ會議ニ於テ審議ノ上次ノ處置ヲ採ルコトヲ得

第一項 政府及公共團體ノ機關官吏及個人并ニ私立會社ニ對シ特別會議ノ任務遂行上援助ヲ求ムルコト

第二項 燃料採取及製造ニ從事スル個人私立會社及其ノ他ニ對シ他ノ注文ニ先ジ (會議ノ注文以前既ニ成立セル注文ニモ先ジテ) 會議ノナス注文ヲ引キ受ケシメ之ヲ履行セシムルコト并ニ右企業ノ事業ニ關シ必要ナル報道ヲ要求スルコト

第三項 第二項記載ノ企業ニ對シ臨戰地帶規則第十九條第十八項ヲ適用シテ徵用ヲ行フコト但シ徵用セル企業ノ取締ハ當該大臣又ハ長官ト協議ノ上特別會議長ノ任命スル者之ヲナス右ニ要スル費用ハ企業ノ收入ヨリ支出シ殘部ハ徵用ヲ免ジタル後之ヲ所有主ニ交附スルモノトス

第四項 必要ノ場合燃料採取製造ニ從事シツツアル企業ノ

幹部取締等ノ役員ヲ免ジ之ニ代フルニ特別會議ノ任命スル者ヲ以テスルコト

第五項 燃料ノ全部及一部ノ徵發ヲナスコト

委員ヲ命ジテ商工業經營ヲ取調ベソノ所有スル燃料并ニ燃料購求又ハ納附ニ關スル義務ヲ記入セル商帳簿及書類ヲ請求シ之ガ寫ヲ取り又ハ必要ナル控ヲ取ルコト

第七項 國內及國外ニ於テ自己一個ノ考ヲ以テ額ニ制限ナ

ク燃料ノ製造ヲナサシムルコト但シ官廳ヲ經テ之ガ製造ヲナサシムルトキハ當該官廳長ト協議スルモノトス

第八項 各種燃料ノ價格ニ最高限ヲ附シ需要者ニ燃料ノ供給ヲ安全ナラシメンガタメアヲル手段ヲ講ズルコト

第九項 請負人及用達ト協議ノ上契約ノ條件ヲ變更スルコト

第十項 各省管轄ノ官廳ノタメ製造セル燃料ヲ他ノ官廳又ハ私立經營及國防ノタメ勞働シツアル個人ニ融通スルコト

第十三條 第十條ニ記載ノ企業ガ特別會議ノ必要ニヨリ特別會議外ノ注文及用達ヲ期間内ニ履行シ能ハザル場合ト雖モ右企業ニシテ之ヲ契約者ニ速カニ通知スルニ於テハ責任ヲ負フコトナシ此ノ場合右契約者ハ契約中不履行ノ部分ヲ無効トシ契約ニヨリ支拂ヘル手附金又ハ前渡金ノ相當分ヲ返還スルコトヲ得

第十四條 燃料ノ採取又ハ製造ヲ以テ營業トナス私立會社及個人ニ屬スル企業ヲ徵用セル場合ノ燃料拂下價格及徵發ノ場合ノ燃料價格ハ商工大臣ノ指定スル者ヲ議長トスル各縣特別委員會之ヲ定ム右委員會ハ陸軍大藏交通商工省吏又場合ニヨリ海軍農務省及會計検査院吏各一名縣參事會代表者一名縣會ノ選出スル縣内各郡會代表者一名地方自治令ノ實施ナキ地方ニ於テハ縣市所在ノ農業組合ノ選出セルソノ代表者各一名縣市市參事會ノ代表者一名縣内組合ノ代表者一名商工大臣ノ指定スル株取引會議所又ハ相當燃料ノ關係スル商工團體ノ選出スル代表者四名ヨリ成ル

第十一項 特別會議ノ事業ニ必要ナル費用ヲ請求スルコト

第十二項 官ノ燃料中國防及交通ノ必要并ニ殊ニ重大ナル意義ヲ有スル官公機關及企業ノ必要ヲ満足セシメタル上ノ餘分ハ之ニ價格ヲ定メテ個人ニ轉讓スルコト

第十三項 燃料ノ配當ハ規則ニ基キノ方法及條件ヲ定ムルコト

第十四項 液體固體ノ鑛物性燃料ヲ採取スル企業ノ勞働賃銀ヲ定ムルコト

第十一條 前第十條ニ記載ノ處置ハ特別會議長ノ必要ト認ムル場合ニ於テハ別ニ會議ニ附セズシテ之ヲ行ヒ會議アリ次第之ヲ報告スルモノトス

第十二條 命令履行ノタメ議長ハ各地方ニ委員ヲ任命シ右委員ヲシテ特別會議ノ管掌事務審議ノタメ各地方ニ同人ヲ議長トシ同人ノ有益ト認ムル者ヲ以テ會議ヲ組織セシムルコトヲ得右會議ニハ全露地方自治同盟會及全露市自治同盟會ノ地方部及地方戰時産業委員會會議ノ設ケアル地ニ於テハ右代表者ヲ加フ

右委員會會長ノ意見ニヨリ有益ナル報道ヲ提供シ得ルト認メラレタル者ヲ委員會ニ出席セシムルコトヲ得

特別會議長ハ右委員會ヲ設置スベキ縣(州)及「グランドナチャーリストヴオ」ヲ決定シ必要ト認ムル場合右委員會ノ權限ヲ當該縣(州)外ニ及ボスコトヲ得

第十五條 前第十四條ニ記載ノ委員會ハ特別會議長ノ命ニヨリ燃料ノ官製ニ對スル價格ニ關スル問題ヲ討論スルコトアルベシ本問題ニ關スル委員會ノ決議ハ特別會議長ノ裁可ヲ受クルモノトス

第十六條 特別會議長ノ採レル處置ニ必要ナル費用及同會議ノ事業ニ必要ナルソノ他ノ費用ハ大臣會議ヨリ支出ス

緊急支出ヲ要スル場合ハ特別會議長ノ要求ニヨリ大臣ヨリ前渡金トシテ支出ス

第十七條 前第十六條ノ規定ニヨル支出ハ一般規定ニ基キ會計検査院ノ検査ヲ受ク

第十八條 燃料供給事務審議統一特別會議長ハソノ命令ヲ

至急陸軍大臣ニ通知スルモノトス陸軍大臣ハ國防事務審議統一特別會議長ノ資格ヲ以テ(一)燃料供給事務審議統一特別會議長ノ命令ヲ停止シ(二)(一)記載ノ命令ヲ國防事務審議統一特別會議ノ議ニ附シ燃料供給事務審議統一特別會議長及同議員ヲ招致シテソノ議ニ參セシム

第十九條 第十條第二項規定ノ命令ニ服從セザルカ又ハ第十條第六項ノ要求ニ服從セザル者第十條第八項ニ基ク規定ヲ履行セザル者ハ三ヶ月以内ノ禁錮又ハ三千留以内ノ罰金ニ處ス

前記犯罪ヲ故意ニ行ヘル者ハ一ケ年四ヶ月乃至二ケ年ノ禁錮ニ處シ刑法第五十條ニ依リ特權及特典ノ一部ヲ剥奪ス

本條規定ノ犯罪行為ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬ス

(附屬書三)

(訳文)

糧食供給事務審議統一特別會議規則

第一條 陸海軍用食料及菽秣料準備并ニ一般食料問題ニ關スル政府ノ處置ヲ討議統一シ又人民ノ食料供給ヲ

不在又ハ病氣ノ場合之ガ代理ヲナスタメ兩院ヨリ各二名ノ代理者ヲ選出ス

備考二 下院議員ニシテ本會議員タル者ハ議會解散ノ場合ト雖モ新召集マデ特別會議員タル資格ヲ保留ス

第四條 農務大臣不在ナルカ又ハ病氣ナル場合農務次官中ノ一人又ハ次官タルノ權利ヲ有スル者代リテ議長ノ任務ヲ行フ

第五條 特別會議長ハ商業工業株商農業ノ代表者及株取引會議所ノ代表者并ニスベテ有益ナリト認ムル者ヲ會議ニ招クコトヲ得

第六條 特別會議ハソノ議員ヲ以テ委員會ヲ組織スルコトヲ得ソノ數及擔任事項ハ會議ニ於テ豫メ討議ノ上議長之ヲ定ム委員ハ特別會議之ヲ選舉シ委員長ハ議長之ヲ任命ス委員長ハ有益ナリト認ムル者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得特別會議員ハ委員ニアラザル者ト雖モ委員會ノ會議ニ列席スルコトヲ得

第七條 特別會議ノ審議事項ハ議長ノ提出スル所ナリ議員ノ發議ニカカル事項ハ議長ノ提議ニヨリ始メテ會

管掌シツツアル各機關ノ事業ヲシテ齟齬ナカラシメンガタメ特別會議ヲ設ケ農務大臣ヲシテ之ニ議長タラシム

第二條 特別會議ハ國家最高ノ機關ニシテ何等ノ官廳官吏ト雖モ之ニ命令シ又ハ報告ヲ要求スルヲ得ズ

農務大臣ハ特別會議長ノ資格ヲ以テ上院法第三十六條及四十四條ノ規定及下院法第三十三條及四十條ノ規定ニ基キ上下兩院ニ對シ報告及説明ヲナスノ義務ヲ有ス

特別會議員ハソノ職務遂行上犯セル犯罪行為ニ對シテハ上院法第八十六條ニ依リ處分セラル

第三條 特別會議ハ次ノ議員ヨリ成ル

(一) 上院議員七名下院議員七名 (二) 農務大臣ト協議ノ上當該長官ノ任命スル内務陸軍大藏交通商工各省及會計検査院代表者各一名 (三) 農務大臣ノ任命スル同省代表者三名 (四) 各委員會ノ選舉スル全露地方自治同盟會及全露市自治同盟會ノ代表者各一名

備考一 特別會議員タル帝國立法府代表者ニシテ

議ノ審議ニ上ル

第八條 特別會議ノ總務管理ハ大臣ノ任命スル農務省吏ノ一人之ニ當リ事務取扱ニ要スル費用ハ實費ニヨリ支出ス

特別會議ノ議事ハスベテ議事録ニ収メ大多數ノ意見ト議員中多數ノ意見ニ不同意ニシテ特ニ自己ノ意見ノ議事録ニ記入セラレンコトヲ希望スル者ノ意見ヲ収ム又議事録ニハ討議ノ問題ニ對シテ議長ノ下セル決定ヲ記入ス

第九條 戰爭終了ト共ニ農務大臣ハ兩院ニ對シ大臣ガ特別會議長トシテ講ゼル處置ニ關シ詳細ナル報告ヲ提出スルモノトス右報告ニハ議事録及議長ノ決定ヲ添フ

第十條 特別會議長ハ會議ニ於テ討議ヲ了セル後次ノ處置ヲ爲スヲ得

第一項 政府公共團體ノ機關官吏及私人并ニ私立會社ニ對シ特別會議ノ任務遂行上援助ヲ求ムルコト

第二項 個人私立會社及ソノ他ニ屬スル企業ニ對シ他ノ注文ニ先ジ(會議ノ注文以前既ニ引キ受ケタル他ノ

注文モ亦同シ）會議ノナス注文ヲ引キ受ケシムルコト此等ノ企業ヲシテソノ事業ニ關スル必要ナル報道ヲ求ムルコト

第三項 個人私立會社及ソノ他ヲシテソノ所有ニカカル屋舎敷地ノ食料及菽秣料保管ノタメ提供セシムルコト
但シ鐵道附屬ノ屋舎敷地ニシテ運輸貨物ノ保管ニ當テアルモノハ之ヲ除ク

第四項 第二項及第三項記載ノ企業及屋舎ハ臨戰地帶規則第十九條第十八項ヲ適用シ之ヲ徵用スルコトヲ得但シ徵用企業ノ取締ハ當該大臣及長官ト協議ノ上特別會議長ノ任命スル者之ニ當ル而シテ之ニ要スル費用ハ企業ノ收入ヨリ支出シ收入殘部ハ徵用ヲ免ジタル後之ヲ所有主ニ交付スルモノトス

第五項 特別會議長ハソノ委員ヲ命ジ商工企業ヲ取調ベシメ此等ノ企業ソノ所有食料及菽秣料ノ數量并ニ此等物品ノ購入又ハ用達ノ義務ヲ記入セル商品帳簿及書類ノ提示ヲ求メシメ右帳簿及書類ノ寫ヲ取り又ハ必要ナル控ヲ取ルコト

第十項 ヲ定メ相當支出ニ關スル報告ノ手續ヲ定メ第十項記載ノ物品ノ納附入札無入札納附餘分拂下ゲノ手續ヲ定メ又ハ食料問題及菽秣料ノ準備ニ關スル政府トノ各種契約ノ調印履行手續ニ關スアラユル問題ヲ解決スルコト

第十一條 前第十條規定ノ處置ハ特別會議長ニシテ必要ト認ムル場合會議ヲ經ズシテ之ヲ行ヒ會議ノアリ次第之ヲ報告スルモノトス

第十二條 命令履行ノタメ議長ハ各地方ニ委員ヲ任命シ右委員ヲシテ特別會議ノ管掌事務審議ノタメ各地方ニ同人ヲ議長トシ同人ノ有益ト認ムル者ヲ以テ會議ヲ組織セシムルコトヲ得右會議ニハ全露地方自治同盟會及全露市自治同盟會ノ地方部及地方戰時産業委員會設ケアル地ニ於テハ右代表者ヲ加フ

第十三條 第十條記載ノ企業及個人ハ特別會議ノ必要ニヨリ注文及用達ヲ期限内ニ履行シ能ハザル場合ト雖モ右企業ニシテ之ヲ契約者ニ速カニ通知スルニ於テハ責任ヲ負フコトナシ此ノ場合右契約者ハ契約

第六項 アラユル手段ヲ用ヒ相當ト認ムル條件ヲ以テ額ニ制限ナク食料品及菽秣料ノ製造ヲナサシムルコト自己ノ意見又ハ當該官廳官吏及私人ノ申出ニ基キ

第七項 (イ)市村民救助用食料品ノ製造運搬割當及(ロ)地方毎ニ食料品賣買ノ規則及ソノ賣價又ハ最高價格ニ關スル地方官憲并ニ中央官憲公共團體ノ規定命令ヲ廢止スルコト

第八項 全帝國并ニ各地方ノ有スル食料及菽秣料ノ現在高ヲ取調ベルコト之ガタメ當該官憲ヲシテ各官廳官吏及個人ヨリ必要ナル報道ヲ要求セシメ又ハ之ヲ保管シツツアル屋舎内ノ食料品及菽秣料ノ現在量ノ調査ヲナスコト

第九項 食料品及菽秣料ノ保管并ニ之ガ帝國外又ハ地方外輸出禁止ニ關スル臨時規制ヲ公ニスルコト

第十項 畜類各種食料品并ニ之ガ運搬用ノ袋ノ全部又ハ一部ノ徵發ヲ命ジ徵發ノ條件并ニ徵發物ノ償金ヲ定ムルコト

第十一項 食料問題及菽秣料ノ準備ニ關シ戰時特別ノ處置ニ對シ必要ナル經費ヲ計上シ右經費ノ支出ノ手續

中不履行ノ部分ヲ無効トシ契約ニヨリ支拂ヘル手付金又ハ前渡金ノ相當分ヲ返還スルコトヲ得ルモノトス

第十四條 戰時特ニ必要ナル食料供給及軍隊用食料菽秣料準備ニ必要ナル費用ハ大臣會議ヨリ支出ス緊急支出ヲ要スル場合右費用ハ特別會議長ノ要求ニヨリ前渡金トシテ大藏大臣ヨリ支出ス

第十五條 前第十四條ノ規定ニ依ル支出ハ一般規定ニ基キ會計檢査院ノ檢査ヲ受ク

第十六條 軍管區司令官ガ地方官ト協議ノ上同管區ノ範圍内ニアル地方ニ於テ軍隊用畜類食料菽秣料ノ買上價格ヲ決定シ又ハ市場ニ於テ右物資ノ不足セル場合之ヲ一定價格ニヨリ徵發スル等ノ事項ヲ議スルタメ特別會議長ハ種々ノ特別委員會ヲ組織シ委員長ヲ任命スルコトヲ得各委員會ハ次ノ委員ヨリ成ル農務省軍隊物資供給委員一名同省及會計檢査院ノ地方吏各一名縣參事會代表者一名地方自治制ナキ地方ニ於テハ縣市所在ノ農業組合ノ代表者各一名縣市參事會同市株取引會議所縣内組合ノ代表

者各一名

委員長ハ郡會市會及株取引會議所ノ代表者ヲ招キ
テ委員會議ニ參與セシムルコトヲ得

第十七條 軍管區司令官ハ特別會議ノ審議後同議長ノ許可
ヲ得ルニアラザレバ畜類食料菽秣料并ニ粒穀及牧
草種子ヲ一地方ヨリ他地方ニ輸出スルヲ禁ズルヲ
得ズ

第十八條 特別會議長ハソノ食料問題ニ關スル決定ヲ直チ
ニ陸軍大臣ニ通知スルモノトス但シ陸軍大臣ハ國
防事務審議統一特別會議長ノ資格ヲ以テ
(一)糧食供給事務審議統一特別會議長ノ命令ヲ
停止シ

(二)(一)ニ記載ノ命令ヲ國防事務審議統一特別
會議ノ議ニ附シ糧食供給事務審議統一特別會議長
及ソノ議員ヲ會議ニ招クコトヲ得

第十九條 第十條第二項及第八項規定ノ命令ニ服從セザル
カ又ハ第十條第三項及五項規定ノ要求ニ服從セザ
者又ハ第十條第九項ニ基キ發布セル規定ニ從ハザ
ル者ハ三ヶ月以内ノ禁錮ニ處シ又ハ三千留以内ノ

第三條 特別會議ハ次ノ議員ヨリ成ル

(一)上院議員七名下院議員七名(何レモ各院ノ
選舉ニカカル) (二)商工大臣ト協議ノ上當該長
官ノ任命スル陸軍海軍大藏商工農務省及會計檢査
院代表者各一名(三)大臣ノ任命スル交通省代表
者五名(四)各委員會議ノ選舉スル地方委員會議
ノ代表者各一名(五)各委員會議ノ選出スル全
露地方自治同盟會及全露市自治同盟會代表者各一
名

備考一 特別會議員タル帝國立法府代表者ニシテ
不在ナルカ又ハ病氣ノ場合之ガ代理ヲナスタメ兩
院ヨリ各二名ノ代理者ヲ選出ス

備考二 下院議員ニシテ本會議員タル者ハ議會解
散ノ場合ト雖モ新召集マデ特別會議員タルノ資格
ヲ保留スルモノトス

第四條 交通大臣ニシテ不在ナルカ又ハ病氣ノ場合ハ交通
次官中ノ一人又ハ次官ノ資格ヲ有スル者議長ノ任
務ヲ行フ

第五條 特別會議長ハ有益ト認ムル者ノ出席ヲ求ムルコト

罰金ヲ課ス

前記ノ犯罪ヲ故意ニ行ヘル者ハ一ケ年四ヶ月乃至
二ケ年ノ禁錮ニ處シ刑法第五十條ニ基キ特權及特
典ノ一部ヲ剥奪ス

本條規定ノ犯罪事項ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬ス

(附屬書四)

(訳文)

運輸事務審議統一特別會議規則

第一條 燃料食料及軍用貨物ノ運輸ニ關スル處置ヲ討議統
一ノタメ特別會議ヲ設ケ交通大臣ヲシテ之ニ議長
タラシム

第二條

特別會議ハ國家最高ノ機關ニシテ何等ノ官廳官吏
ト雖モ之ニ命令シ又ハ報告ヲ要求スルヲ得ズ

交通大臣ハ特別會議長ノ資格ヲ以テ上院法第三十
六條及四十四條ノ規定下院法第三十三條及四十條
ノ規定ニ基キ上下兩院ニ對シ報告及説明ヲナスノ
義務ヲ負フ

特別會議員ガソノ職務遂行上犯セル犯罪行為ニ對
シテハ上院法第八十六條ノ規定ニヨリ處分セラル

ヲ得

第六條

特別會議ハソノ議員ヲ以テ委員會ヲ組織スルコト
ヲ得ソノ數及擔任事項ハ豫メ會議ノ議ヲ經タル後
特別會議長之ヲ定ム委員ハ特別會議之ヲ選舉シ委
員長ハ特別會議之ヲ任命ス委員長ハ有益ト認ムル
者ヲ委員會ニ出席ヲ求ムルコトヲ得特別會議員タ
ル者ハ委員ニアラザルモ委員會ニ參與スルコトヲ
得

第七條

特別會議ノ審議事項ハ議長ノ提出スル所ナリ議員
ノ發議ニカカル事項ハ議長ノ提議ニヨリ初メテ會
議ノ議ニ附スルモノトス

第八條

特別會議ノ事務管理ハ交通大臣ノ任命スル交通省
吏之ヲナシ事務ノ取扱ハ鐵道管理局又ハ議長ノ特
ニ任命スル者之ヲ行フ事務ノ取扱ニ要スル費用ハ
實費ニ應ジテ之ヲ支出ス

特別會議ノ議事ハスベテ之ヲ議事録ニ収ム議事録
ニハ大多數ノ意見并ニ之ト不同意ノ議員ニシテ記
入ヲ希望スル者ノ意見ヲ錄ス議事録ニハ討議事項
ニ對シテ下セル議長ノ決定ヲ錄ス

第九條 戰爭終了ト共ニ交通大臣ハ上下兩院ニ對シ特別會議

議長ノ資格ヲ以テ採レル處置ニ關シ詳細ナル報告ヲナスモノトス右報告ニハ議長ノ決定ヲ附セル議事録ヲ添フ

第十條 特別會議ノ命令ハ交通省ノ相當機關ヲ經由シテ之ヲ實施ス

第十一條 特別會議長ハ鐵道及水路ニヨル各種貨物及旅客運輸ノ要求ガ右交通機關ノ輸送力ニ過グルトキハ會議ノ議ヲ經テ次ノ處置ヲ採ルコトヲ得

第一項 政府公共團體ノ機關官吏及個人又ハ私立會社ニ對シ特別會議ノ任務遂行上援助ヲ求ムルコト

第二項 現行法律ノ規定ニ拘ラズ貨物ノ受付運送保管積卸ニ關スル臨時特別規則ヲ設クルコト

第三項 戰時ノ要求ニヨル次ノ經費ヲ計上スルコト
(イ)鐵道輸送力ノ増加倉庫ソノ他ノ補助設備ノ設置ニ要スル費用
(ロ)鐵道ニ必要ナル物資相當備品等ノ購入費
(ハ)車輛ノ外国及国内ニ於ケル注文費

第四項 官ノ命令ニヨリ官金ヲ以テスル支線布設ノ許可ヲシテ支出スルモノトス

第十四條 前十三條ノ規定ニ基ク支出ハ一般規定ニ基キ會計検査院ノ検査ヲ受ク

第十五條 特別會議長ノ決定ハ即時之ヲ陸軍大臣ニ通知スルモノトス陸軍大臣ハ国防事務審議統一特別會議長ノ資格ヲ以テ(一)運輸事務審議統一特別會議長ノ命令ヲ停止スルコト并ニ(二)(一)記載ノ命令ヲ国防事務審議統一特別會議ノ議ニ附シ運輸事務審議統一特別會議長及ソノ議員ヲ會議ニ招クコトヲ得

第十六條 輸送力不足ノタメ交通大臣ニ提出セル他ノ特別會議ヨリノ要求ガ履行シ得ザルトキハ之ヲ国防事務審議統一特別會議ノ議ニ移ス

三〇四 九月七日 在露国本野大使ヨリ
大隈兼任外務大臣宛

露国国防特別會議開会式挙行ノ件

公第一四六号

(九月二十八日接受)

大正四年九月七日

在露

與フルコト私費ヲ以テスル支線ノ布設ハ政府ノ保證ヲ要スル株又ハ債券ノ發行ヲ必要トセザル場合之ヲ許可スルコト

第五項 私費ヲ以テスル私用ノ支線ヲ官有又ハ私有鐵道ニ接續シテ布設スルノ許可ヲ與フルコト

第六項 個人會社及他ノ官廳ニ屬スル車輛ノ強制使用ヲナシ右使用ノ條件ヲ定ムルコト

第七項 汽船小廻船ソノ他ノ船舶強制使用ニ關スル規則ヲ一九一四年六月二十八日(露曆)發布戰時船舶徵發令ニ基キテ定ムルコト

第十二條 前第十一條記載ノ處置ハ本規則發布後二ケ年以内ニ實行シ得ル場合ニ於テ初メテ之ヲナス

第十三條 特別會議長ノ採レル處置并ニ會議ノ事業ニ要スル費用ハ之ヲ大臣會議ヨリ支出ス緊急支出ヲ要スル場合ハ議長ノ要求ニヨリ大藏大臣ヨリ前渡金ト

特命全權大使男爵 本野 一郎(印)

外務大臣伯爵 大隈重信殿

九月四日皇帝陛下親シク冬宮ニ出御アラセラレ公第一四五号ヲ以テ報告ノ国防事務審議統一特別會議、燃料供給事務審議統一特別會議、糧食供給事務審議統一特別會議、運輸事務審議統一特別會議ノ開会式ヲ行ハセラル開会式ニ参列セルハ各大臣特別會議員タル上下兩院議長及議員全露地方自治同盟會長全露市自治同盟會長中央戰時産業會議長ノ諸氏ナリ

皇帝陛下ハ大要左ノ勅語ヲ賜ヒタリ

国防特別會議ノ事業ハ刻下ノ急務ナリ我が勇敢ナル軍隊ノ期待スルハ一ニ軍需品ノ供給ニシテ之ヲ以テ敵ノ侵入ヲ防ギ再ビ我ニ勝利ヲ収メントス

議會ハ戰爭ノ全勝ヲ以テ終局セザルベカラザルヲ声明セリ之レ朕ガ夙ニ期セル所ニシテ又露国ガナスベキ唯一ノ回答タルナリ朕ハソノ之ガ露国全土ノ声ナルヲ信ジテ疑ハザルナリ

本會議ハ政府立法府公共団体及産業界各方面ノ代表者ヲ網羅シタリ卿等宜シク和衷協同国家ノタメ努力センコト

ヲ冀フ

朕ハ終始會議ノ議事ニ留意シ必要ニ応ジテ會議ニ親臨スベシ

吾人ハ此処ニ全土ノ努力ヲ集中シ一意敵ヲ国外ニ驅逐セシコトヲ努ムベク假令国家重要ノ事ト雖トモ刻下ノ急ニアラザルモノハ一時之ガ顧慮ヲ控フベキナリ

「ポリワーノフ」陸相上下両院議長「クロムジン」及「ロヂヤンコ」兩氏ノ奉答演説アリ「ロヂヤンコ」氏ハ「陛下ニ忠誠ナル露国全民ヲ此ノ神聖ナル事業ニ与ラシメ給ヘ陛下及国民ノ信任厚キ政府アリテ指導宜シキヲ得バ陛下ヲ中心トシテ嚴ノ如ク團結セル国民ハ如何ナル犠牲ヲモ敢テ辞セザルナリ」ト述ヘタリ

式後皇帝陛下ニハ別室ニ於テ親シク各議員ニ優渥ナル御詔ヲ賜ヒ皇后陛下東宮殿下ニモ出御同ジク各員ニ御会釈アラセラレタリ

右及報告候 敬具

三〇五 九月八日 在露国本野大使ヨリ
大隈兼任外務大臣宛(電報)

露国皇帝領内ヨリ敵驅逐ノ決意ヲ語リ親ラ総

察セラル右ニ對シ警視總監側ハ特ニ諭告ヲ發スル等種々鎮撫ニ努メツツアルモ時節柄事態更ニ發展スルノ虞アリ

(露都經由九月十八日午前一二、四二
第八五二号)

三〇七 九月十八日 在露国本野大使ヨリ
大隈兼任外務大臣宛(電報)

社会民主党及労働党ノ煽動ノ下ニ軍需工場労働者ノ同盟罷工発生ノ件

第八五一号

曩ニ上下両院内ニ組織セラレタル改進大同團結ノ綱領ガ政府ノ(脱)容ルル所トナラス九月十六日議會ノ停会セラルルヤ社会民主党及労働党ノ煽動ノ下ニ当地軍需品製造工場ノ労働者ハ政府ノ処置ニ反對シ示威的同盟罷工ヲナスニ至レリ露都軍管区司令官ハ十七日布告ヲ發シ鎮撫ノ手段ヲ執リツツアリ議會停会後ニ於ケル改進大同團結ノ態度ハ明白ナラサルモ社会民主党及労働党ト一致ノ行動ヲ執ルカ如キコトナカルヘシ委細郵便

三〇八 九月二十日 在モスクワ平田總領事代理ヨリ
大隈兼任外務大臣宛(電報)

同盟罷工漸次蔓延ノ件

一五 露国内政関係雑纂 三〇七 三〇八 三〇九

軍指揮ニ当ルコトナリタル件

第八二一号

九月四日皇帝ハ軍需品燃料食料運輸ニ関スル四国防委員會會議ノ開会式ヲ行ヒ刻下唯一ノ目的ハ露国領内ヨリ敵ヲ驅逐スルニアリトノ勅語ヲ賜ヒタリ同日皇帝ハ戦地ニ向ケ出發セラレタリ九月五日「ニコラス、ニコライウキツチ」大公ハ高加索大守兼高加索軍司令官ニ任シ皇帝自ラ總軍ヲ指揮スルコトナリタル旨九月八日發表セラル

三〇六 九月十八日 在モスクワ平田總領事代理ヨリ
大隈兼任外務大臣宛(電報)

モスクワニ於テ電氣鉄道及軍需工場ノ就業者

同盟罷工開始ノ件

第六二号

(九月十九日接受)

莫斯科市營電氣鉄道及若干軍需品製造工場ノ就業者九月十七日同盟罷工ヲ開始シタリ動機ハ主トシテ目下中央政局ニ関聯セルモノノ如ク最近内閣改造運動ハ当市実業界カ其ノ中心勢力ヲナセルモノナリシ所今回議會ハ閉会ヲ命セラレ右運動モ自然失敗ニ終ラントスルヲ見労働者階級ノ一部又之レト呼応シ對政府示威運動トシテ此ノ拳ニ出タルモノト

第六三号

(九月二十一日接受)

往電第六二号ニ関シ同盟罷工ハ九月十六日一部工場ニ始マリ爾後漸次蔓延シテ一般職工ニ及ヒ新聞紙ハ十九日ヨリ殆ント全部休業シ製造工場ノミノ罷業者數約四万五千ニ達ス右ニ関シ市參事會ハ十八日ノ臨時會議ニ於テ決議文ヲ可決シタルカ労働者ノ不穩行為ヲ排斥スルト共ニ議會再開及内閣改造ニ関スル前來ノ主張ヲ反覆シ又莫斯科県 Zensivoモ同日略同様ノ決議ヲナセリ

(露都經由九月二十日午後一二、一〇
第七五八号)

三〇九 九月二十一日 在モスクワ平田總領事代理ヨリ
大隈兼任外務大臣宛(電報)

同盟罷工ノ落着見込及對政府ノ諸決議報告ノ件

第六四号

(九月二十二日接受)

往電第六三号ニ関シ電車ハ二十日ヨリ運輸新聞紙ハ廿一日ヨリ發刊其他一般職工モ漸次復業シテ明廿二日迄ニ略ホ落着ノ見込然ルニ一方二十日ヨリ当地ニ於テ開催ノ全国都市聯合會及ヒ Zensivo 聯合會ニテハ議會再開内閣改造盛ニ主張セラレ Cadeu 党十月党大会及当地取引所亦同一趣意

ノ決議ヲナス等對政府運動ハ右ノ如キ形式ノ下ニ益其氣勢ヲ昂メツツアリ

(露都經由九月二十二日午後二、五三) (第八六一号)

三一〇 九月二十二日 在モスクワ平田總領事代理ヨリ 大隈兼任外務大臣宛(電報)

同盟罷工落着ノ件

第六五号 (九月二十三日接受)

往電第六四号同盟罷工ハ今二十二日全ク落着シタリ

(露都經由九月二十二日午前九時三十五) (分第八六八号)

三二一 九月二十四日 在モスクワ平田總領事代理ヨリ 大隈兼任外務大臣宛(電報)

都市連合会及ゼムストヴオ連合会決議ニ関スル件

第六六号 (九月二十六日接受)

往電第六四号ニ関シ都市聯合会及ゼムストヴオ聯合会ハ孰レモ九月廿二日ノ最終會議ニ於テ決議文ヲ通過シ各其実行委員ヲシテ之ヲ皇帝ニ上奏セシムルコトニ決シタリ右決議文ハ双方略ホ其内容ヲ同ウシ最後ノ勝利迄戰爭ヲ繼續スルノ決意ト共ニ政弊刷新議會ノ再開及ヒ内閣改造ニ関スル

要求ヲ宣言シタルモノニシテ其語調並ニ會議ノ状況ヨリ察スル時ハ更ニ無責任ナル前者ノ氣勢頗ル強ク万一政府ニ於テ此際妥協的態度ニ出デザルニ於テハ或ハ遂ニ革命的氣運ヲ喚起スルニ至ルヤモ難計孰レニセヨ今回ノ運動ハ露国現在ノ政事組織ノ上ニ何等カノ更改ヲ齎ササレハ已マサルベシ

(露都經由九月二十四日午後二) (第八七九号)

三二二 十月一日 在露国本野大使ヨリ 大隈兼任外務大臣宛(電報)

大本營御前會議參列帰京ノ外務大臣内話ノ件

第九〇五号 極秘 (十月二日接受)

九月二十九日大本營ニ於ケル御前會議ニ參列シ九月三十日帰京シタル外務大臣ハ本使ニ對シ左ノ通り語レリ

一、内閣改造問題ハ御前會議ニ於テ何等決定スル所ナク同問題ハ不日皇帝陛下御帰京後決定セラルヘシ本大臣ハ御前會議後更ニ皇帝ニ拝謁シタル節腹藏ナク内閣改造ノ必要ヲ奏上シ置キタリ

二、議會ノ再開ハ予定ノ通十一月ナルヘシ

三、勃牙利ハ結局塞爾比ニ對シ宣戰スルニ至ルヘント思考

在罷工職工ノ數約二万四千ニ達シ今後尚伝播ノ徵アリ何レモ純然タル經濟上ノ動機ニ出テ目下何等政事上ノ意味ヲ含マサルカ如シ

三二四 十月二十八日 在モスクワ平田總領事代理ヨリ 石井外務大臣宛

モスクワニ於ケル對政府運動ニ関シ報告ノ件

機密政第四号 (十一月二十九日接受)

大正四年十月廿八日

在莫斯科

總領事代理 平田 知夫(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

莫斯科ニ於ケル對政府運動ニ関シテハ九月十八日發往電第六十二号以下數次ノ電報ヲ以テ不取敢及報告置候処其後政府ハ一時ノ妥協的態度ヲ棄テテ再ヒ保守的態度ニ復シ莫斯科ニ戒嚴令ヲ布テ万ニ備ユル等飽迄新運動ノ發展ヲ阻止セントセルカ如キモ四圍ノ狀勢ハ却テ益々險惡ノ色ヲ呈シ政府力依然其ノ態度ヲ改メサル限り或ハ内乱の勃発ヲ誘起シ戦局上ヨリ延イテ國際關係上ニ容易ナラサル事態ヲ齎ラサストモ限リカタク帝國ノ立場上ヨリモ此際特ニ留意ヲ要

三二三 十月十八日 在モスクワ平田總領事代理ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

モスクワ織物工場職工ノ同盟罷工發生ノ件

第七一号 (十月二十日接受)

莫斯科 Zinder 織物工場ニ於テ十月十二日以来職工全部ノ同盟罷工行ハレタル所其ノ後同種三工場モ亦之レニ倣ヒ現

スル義ト確信仕候以下今日迄ノ經過ヲ約述シ玆ニ重ネテ供
貴覽候

近時戦争ノ形勢カ益々露軍ニ非ナルニ随ヒ敗戦ニ対スル憤
懣ト共ニ当局ニ対スル不信ノ念一般国民ノ間ニ漸ク其ノ度
ヲ高メ来レルハ争フヘカラサル事実ニシテ本年六月八日ヨ
リ同十日ニ亘リ露都ニ於テ開催セラレタル全露商工業者会
議カ閣員ノ更迭議會ノ召集ヲ以テ刻下ノ急務ナリト決議シ
タルハ即チ這般ノ民意ヲ伝フル第一ノ声ト云フヘシ其後内
閣ノ一部更迭セラレ大体保守派去リテ自由主義者之ニ代ハ
リ議會モ愈々八月一日開会ヲ見ルニ至リタル等當時政府ハ
民意ノ在ル所ヲ察シ頗ル妥協的態度ニ出テタルカ如クナリ
キ然ルニ「ワルシヤワ」陥落後露独単独媾和ノ風説伝ハル
ヤ一般国民ハ今更ノ如ク政府ニ対シテ疑惑ノ念ヲ抱キ莫斯
科市参事会先ツ起テ八月三十一日右ニ関スル主要ナル決議
ヲ發表シタリ即チ国民ハ軍隊ト総指揮官ニ信頼シ一國挙テ
戦勝ヲ得ルニ全力ヲ注クノ用意アルコト并ニ戦争ハ最後迄
継続スヘク完全ナル勝利ヲ占メ且ツ同盟諸國ト一致ノ上ニ
非ラサレハ断シテ媾和ヲナササルコトヲ言明スルト共ニ目
下ノ急務トシテ国民ノ信頼ヲ博スヘキ有力ナル政府ノ組織

者ノ一部同盟罷工ヲ開始シ翌十七日市營電氣鐵道就業者之
ニ倣ヒ十八日印刷職工ニ及ヒテ十九日ハ殆ント全部ノ新聞
紙休刊セラレ單ニ製造工場ノミノ罷業者約四万五千余名ニ
達シタリ此舉ノ動機カ全ク政治的ニシテ政府ノ措置ニ対ス
ル示威運動ニ外ナラサリシハ罷業者側ノ言明ニ徴スルモ明
カニシテ議會閉会ノ翌日ニ於テ之カ実行ヲ見タルカ如キ以
テ莫斯科ニ於ケル政治的氣運カ如何ニ鋭敏トナレルカヲ示
スニ余リアルヘシ

而シテ本同盟罷工ニ対シテハ固ヨリ官憲側カ種々鎮撫ニ努
メタルノミナラス市参事会ニ於テモ罷工者ノ意ノ在ル所ヲ
諒トスルモ今日ノ時機ニ於テ斯ノ如キ非常手段ニ出ツルハ
徒ラニ外敵ノ術中ニ陥ル所以ナリトシ十八日臨時會議ヲ開
キテ決議文ヲ可決シ是等ノ不穩行為ヲ排斥スルト同時ニ議
会ノ再開及内閣ノ改造ヲ要求シ又莫斯科県「ゼムストウオ」
モ同日略ホ同様ノ決議ヲナシ事体ノ解決ニ斡旋シタル結果
電車ハ二十日ヨリ運転ヲ開始シ新聞紙ハ二十一日ヨリ発行
セラレ一般職工亦漸次復業シテ二十二日迄ニ全ク落着スル
ヲ得タリ

然ルニ此舉ハ直接政府ヲ動かスヨリモ寧ロ在来ノ對政府運

セラレンコトヲ要求シタリ

市参事会ノ此舉タル固ヨリ普通ノ場合ニ於ケル権限ヲ逸脱
セルモノタルニ相違ナキモ這般ノ特別手段ハ一層民心ニ刺
激ヲ与ヘタルカ如ク對政府運動ノ首唱者トモ称スヘキ実業
政治家「リヤブシンスキー」氏ヲ戴ケル同市取引所并ニ商
業協會ヲ始メトシ露都其他全國重要都市ニ於ケル市参事会
及取引所等統々同一意味ノ決議ヲナシ其ノ傳播ノ速カナル
驚クヘキモノアリ而シテ一方中央議會ニ於テハ進歩、中央、
国民、十月、立憲民主ノ諸党ヲ包容スル政府反對「プロツ
ク」成立シ九月七日其ノ各派代表者會議ニ於テ前記莫斯科
市参事会ノ決議事項以外内政ノ各般ニ亘リテ改革ヲ要求ス
ル決議文發表セラルルアリ即チ對政府運動ハ今ヤ議會ノ内
外相呼応シテ益々其勢ヲ逞フスルニ至レリ

形勢右ノ如クナルニ對シ政府ノ態度ハ再び變調ヲ示シ議會
カ其ノ開会后僅カニ月余ニ過キサルニ當リ九月十六日之カ
閉会ヲ断行シタリ此ノ措置タル間接ニ民間運動ノ骨子タル
内閣改造其他ノ改革要求ニ對シ拒絶ノ意思ヲ表示スルモノ
ニシテ之カ反響ハ直チニ莫斯科ニ於テ同盟罷工ノ形ヲ以テ
現ハレタリ即チ九月十六日市内若干ノ軍需品製造工場就業

動ニ刺激ヲ与フルコト大ナリシカ如ク民間各団体ノ活動ノ
タメニ一層ノ精銳ヲ加ヘタルノ觀アリ即チ莫斯科取引所ハ
九月二十日臨時會議ヲ開キ議會再開内閣改造ヲ要求スル決
議文ヲ通過シ莫斯科ニ於ケル最近ノ出来事ヲ以テ「ゴレム
イキン」氏ヲ首相トスル現内閣カ現時ノ大勢ヲ解セスシテ
議會ヲ閉会シ国民ノ非難ヲ招キタルニ基クモノトナシ皇帝
ノ聖鑑ニヨリ時局ヲ改善シ速カニ議會ヲ召集シ且ツ四民ヲ
糾合シテ外敵ニ對スル戦勝ト国内ノ平和ヲ齎ラン得ヘキ衆
望アル人物ヲシテ政局ニ當ラシメンコトヲ要請シタリ

又全國都市聯合会并ニ全國「ゼムストウオ」聯合会ハ同日
ヨリ莫斯科ニ於テ何レモ特別大会ヲ開キタルカ議會閉会中
民意ヲ發表スルノ唯一ノ機關ト目セラレ議會ニ於ケル領袖
ヲ始メ多數民間ノ有力者ヲ網羅セリ殊ニ前者ニ於テハ第一
日以来現内閣攻撃ノ声ニ満チ中ニハ頗ル過激ノ言論ヲナセ
シモノモ渺カラス結局二十二日最終會議ニ於テ大要左ノ意
味ノ決議文ヲ可決シタリ

全國都市聯合大会ハ目下ノ難局ニ際シ熱誠ヲ以テ我勇
壯ナル軍隊ニ對シ慰問ノ意ヲ表ス全國国民ノ念慮ハ悉ク
戦勝ニ傾注セラレ之ヲ達セントスル我軍隊ノ重大ナル

任務ニ極力応援セシコトヲ熱望スルモノナリ国民ハ誠実ナル同盟国ト協力シテ最後ノ勝利ヲ獲ル迄戦争ヲ継続スルノ決心ニ於テ毫モ渝ルコトナキナリ

而シテ我最後ノ戦勝ヲ妨クルモノハ依然トシテ「官憲ノ責任無視ト官民疎隔」テフ我旧来ノ政弊ナリ今日ニ当リ断然且ツ真摯ニ之カ刷新ヲ企ツルハ国家ニ対スル義務トシテ当然ノ事ニ属ス而シテ刷新ノ途ハ国民ノ信任ヲ負ヘル人物ヲシテ現内閣ニ代リテ国務ニ当ラシメ速ニ議會ヲ再開シテ重要ナル事務ヲ継続セシメ且ツ過去ノ政争ヲ咎メス四民同業ノ法ヲ制定シ以テ戦勝ノ保障タルヘキ国内ノ平和ト人心ノ一致ヲ齎ラスニ在リ又全国「ゼムストウオ」聯合大会モ同シク二十二日大要次ノ如キ決議文ヲ可決シタリ

我忠勇ナル軍隊ニ信頼シ最後ノ勝利ヲ見ルニアラサレハ断シテ媾和ヲスヘカラサルコトヲ宣言ス

然ルニ吾人ハ戦勝ノ保障タルヘキ「国内ノ一致」ヲ破壊スヘキ危険ノ切迫シツアルヲ認ム此危険タル一ニ官憲ノ刷新即チ其ノ代表者カ国民ノ信任ヲ博スルモノタルニヨリテ免ルルヲ得ヘシ

レタルカ實際政府ノ態度ニ何等シキ変化ナク前記兩大会委員カ直接皇帝ニ決議ノ内容ヲ上奏セントスルヲ違例ノ故ヲ以テ卻ケタルノミナラス十月十日僅カニ数週日前ニ新任セラレタル内務大臣「シチエルバートフ」公爵ヲ逐ヒテ右党領袖「フウオストフ」氏ヲシテ之ニ代ラシメ同時ニ教務院總裁「サマーリン」ヲ辞セシメ代フルニ「ウオルジン」氏ヲ以テセリ即チ首相「ゴレムイキン」氏ハ一時ノ妥協的態度ノ非ヲ悟リタルモノカ飽迄民間ノ意思ヲ無視シ保守的政策ヲ貫徹スルニ決心セルカ如シ

察スルニ政府カ右ノ如キ態度ヲ固執セントスルハ民間ノ要求ニ窮極ナク若シ退讓ニ尋クニ退讓ヲ以テセンカ遂ニ政治ノ中心権力全ク人民ノ手ニ落チサレハ止マサルヘシトナシ且ツ議會ノ進歩派「プロツク」ヲ始メ對政府運動ノ中心勢力ハ必スシモ多ク恐ルルニ足ラストナセルニ基ケルカ如ク殊ニ今日迄ノ処事態ハ何等シキ發展ヲ見サルヨリ政府當局者ハ或ハ之ヲ以テ時局解決ノ徵象トナセルヤモ知ルヘカラサルモ少クトモ莫斯科ニ於ケル事態ノ閑スル限り全然異リタル觀察ヲ下ササルヲ得ス蓋シ今回ノ對政府運動カ政府ノ高圧的態度ニヨリ屏息スル程爾カク単純微弱ノモノニア

議會ノ国防ニ関スル功績顯著ナルニ拘ラス政府ハ之カ事務ヲ中絶セシメタリ是レ「国内ノ一致」ヲ阻害スルコト甚シキモノニシテ一般ノ激昂ヲ誘起シタルハ怪ムニ足ラス云々

「ゼムストウオ」聯合大会ハ其ノ代表分子ノ性質上平素穩健ノ態度ヲ失セサルモノナルニ拘ラス尚ホ此種ノ決議文ヲ發表スルニ躊躇セス殊ニ都市聯合大会ニ至リテハ一層激越ノ態度ヲ示シ其ノ少数者意見ヲ代表シタル決議案ノ如キ前記決議文ノ内容ヨリ進ンテ内政全般ニ亘レル改革事項ヲ網羅シ殆ント革命宣言書ニ類スルモノナリシト云ヘリ而シテ兩聯合大会何レモ決議実行委員ヲ選ビ彼等ヲシテ決議ノ内容ヲ直接皇帝ニ上奏セシムルコトトシタリ即チ正当ノ手段ニヨル對政府運動ハ是ニ至リテ殆ント其ノ最後ニ達シタルモノト云フヘシ

此時ニ當リ政府ハ固ヨリ事態ノ頗ル重大ナルヲ了得シタルニ相違ナク数日後大本營ニ於ケル御前内閣會議ノ如キ主トシテ之カ善後策ヲ講シタルモノト見ルヘク殊ニ閣員中ニモ民意ノ在所ヲ諒トシ且ツ将来ニ於ケル憂フヘキ事態ノ發展ヲ慮リ此際妥協ノ可ナルヲ主張スルモノアリシト伝ヘラ

ラサルハ本運動ヲ喚起シタル特殊ノ事情ニ徴スルモ明カニシテ開戦當時政府ハ克ク国民ノ信頼ヲ博シ得タルニ拘ラス戦局ノ進展ニ随ヒ戦備不充実ノ事実暴露シ遂ニ民間ノ協力ヲ仰キテ時局ノ急ニ応スルノ止ムヲ得サルニ至レルモノ而シテ民間各階級ハ拳テ此ノ要請ニ応シ所謂工業の動員ノ實現ヲ見ルニ至リタルモ之ト同時ニ内閣ニ對スル曩時ノ信頼ハ為メニ大ニ其度ヲ減シタルハ争フヘカラス否国民ノ一部ハ平素官僚政治ノ弊ヲ認ムルモノ今日ノ事アルニ及ヒ益々其弊ノ甚シキヲ思ヒ信頼ニ代フルニ不安ノ念ヲ以テスルニ至レリ即チ時局救済ノ途ハ現制度ニ改革ヲ加ヘ差當リ立法機關ノ実権ヲ行ヒ且ツ民意ヲ代表スルモノヲシテ国政ニ参加セシムルニアリトナシ遂ニ議會召集内閣改造ヲ要求スル今回ノ對政府運動ノ出現ヲ見ルニ至リタル所以ニシテ全国民ノ敵愾心ニ根底ヲ有スルモノ決シテ尋常ノ場合ニ於ケル政治的運動ト同一視スヘキモノニ非ラス殊ニ此ノ運動ノ裏面ニハ戦争ニ伴フ生活上ノ苦痛ノ伏在セルヲ思ハサルヘカラス莫斯科ヲ始メ各主要都市ニ於テハ今ヤ一般物価ノ暴騰ニ加フルニ生活必需品ノ欠乏ヲ来シ或ハ砂糖ノ如キ或ハ薪炭ノ如キ中流階級以下民衆ノ手ニ落ツルコト日々益々難キ

ヲ加ヘントセリ況ンヤ屢次ノ兵員徵募ハ今日遂ニ第二種国民軍ニ属スルモノヲ召集スルニ至リタルニ於テオヤ即チ戦役カ齎ラス重荷ハ今ヤ殆ント其頂ニ達セリト云フモ必スシモ過言ニ非ラス之ヲ以テ平素隱忍性ニ富メル露国民衆モ近來漸ク昂奮性ヲ帯ヒ来リ些細ノ動機ノ下ニ不穩ノ挙動ニ出ツルヲ怪シマス現ニ九月二十七日夜莫斯科市繁華ノ地区ニ於テ民衆ト憲兵トノ間ニ衝突起リ後者発砲シテ十数名ノ死傷者ヲ出シ十月十四日即チ露曆同月一日市電氣鉄道就業者カ賃銀問題ニ関シ翌日ニ亘リテ再ヒ同盟罷工ヲ実行スルアリ更ニ市内「チンデル」更紗織物工場始メ同種三工場職工二万四千余名カ同様ノ問題ニ関シ十月十二日ヨリ二週間ニ亘リ同シク同盟罷工ノ挙ニ出ツルアリ（本月十九日付公信通第一九八号参照）即チコレヲ以テスルモ一般人心ノ趨向ヲ察知スルニ足ルヘシ而シテ今日事態カ著シキ發展ヲ見サルハ主トシテ民間有識者カ内訌ノ戦局ニ禍スル所以ナルヲ自覺シ深ク自ラ戒ムルノミナラス進ンテ人心ノ鎮静ニ努力スルカ為メナルハ当市民間有力者ノ直話ニ徴スルモ明カナル次第ニシテ今回政府カ当莫斯科市及同名郡ニ限り本月十五日以來従来ノ非常警戒令ニ一歩ヲ進メ臨戦地境トシテ一層

ヲ期スルハ実ニ対露外交上当面ノ急務ナリト確信スルモノナリ

右及報告候 敬具

三二五 十一月一日 在モスクワ平田総領事代理ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

同盟罷工ヲ為シタル電氣鉄道従業員ノ解雇ニ

関スル件

第七四号 （十一月二日接受）

莫斯科電氣鉄道従業員賃金増額ニ関スル要求貫徹ノ為メ十月廿九日全部同盟罷工ヲナシタルニ対シ市当局者断然其大部ヲ解雇シ爾來軍憲ト協力シテ之カ補充ニ努メツアルモ今日迄電車ノ運転一部ニ止マリ解決困難ノ模様ナリ

三二六 十一月六日 在露国本野大使ヨリ
石井外務大臣宛

露国政況内情ニ関スル上田通訳官ノ報告書第

二進達ノ件

機密往第二七号 （十二月一日接受）

大正四年十一月九日

在露

警戒ヲ嚴ニスルニ至リタルハ這般ノ形勢ニ鑑ミ高圧手段ヲ以テ万一ノ場合ニ当ラントスルモノナルハ疑フヘカラス（本月十八日付公信政第一九四号）然ルニ警戒ノ嚴果シテ永ク政治的新運動ヲ阻止シ得ヘキヤ否ヤ將タ有識者ノ深慮ト自制果シテ克ク險惡ナル機運ノ發展ヲ抑制シ得ヘキヤ否ヤコレ露国運ノ為メ并ニ同盟協商国ノ利害ノ為メ特ニ留意ノ要アルモノニシテ本官カ諸方面ノ意見ヲ参酌シテ觀察スル所ニヨルニ政府カ今更強硬ノ態度ニ出テテ其ノ威信ト権力トヲ張ラントスルハ形勢ヲ察スルニ迂ナルノ嫌アリ將タ少クトモ時機ヲ失セルノ譏ヲ免レサルモノニシテ新機運ハ警戒ノ嚴ト高圧手段トニ拘ラス穩密ノ裡ニ益々發展ヲ続クヘク政府ヲシテ今日ノ態度ヲ改メサル限り或ハ戦争ノ終局ヲ俟タス何等カ新ナル動機ノ下ニ内乱の勃発ヲ見ルニ至ルヤモ測ルヘカラス而シテ事若シ玆ニ出テンカ露国ハ啗ニ交戦ニ専ラナル能ハサルノミナラス或ハ戦争繼續ノ初志ヲ翻シ独逸ノ希望通り單獨媾和ヲ為スノ止ムヲ得サルニ至ルヤノ虞アリ其ノ帝國始メ聯合諸国ニ取リテ容易ナラサル事態タルハ特ニ怪ムヲ要セサル次第ニシテ此際適當ノ手段ニヨリ這般ノ事態ヲ未然ニ防止スルニ於テ万遺漏ナカラント

特命全權大使男爵 本野 一郎（印）

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

露国政況内情ニ関スル上田通訳官ノ調査報告書第二及進達候条御査閱相成度此段申進候 敬具

（別紙）

露国政況内情（第二）

一、戦況ト政況ノ關係

二、民論ト政府

三、第三次戦時議會

四、下院諸党派相互關係

五、議會ト政府提出法案

六、高等審問委員會

七、物資供給特別會議 附 戦時産業委員會會議

八、政府対議會多數党關係

九、上下兩院保守団

十、上下兩院改進黨組織運動

十一、單獨平和説

十二、モスクワ政事家會議

十三、モスクワ市決議案

十四、物資供給特別會議開会式

十五、改進黨ノ綱領ト内閣

十六、議會停会命令

十七、同盟罷工

十八、全露地方自治団及全露市自治団兩代表者聯合會議

十九、全露地方自治団及全露市自治団兩代表者聯合會議決

議案ト政府

二十、保守団綱領發表

二十一、大本營御前會議

二十二、大本營御前會議以後ノ政況

露国政況内情（第二）

一 戦況ト政況ノ關係

歐洲大戦争就中露對独塊戦況ト露国政況トハ直接ニ密着ナル關係ヲ有ス曾テ同戦争ヲ是認シタル露国民ハ戦況ノ好良ナリシ間ハ物資供給問題ニ容喙スルノ必要ヲ認ムルコト無カリキ同国民ハ当初本問題ニ関スル一切ノ措置ヲ政府ニ一任シ政府ヲシテ専心戦争ノ事ニ從ハセシメンカ為メ戦争中内政問題ニ関シ政府ニ對シ一切何等ノ要求ヲモ提起セサルコトトシタリ之カ為メ政況ハ至極無事ニシテ從ツテ政府

ノ内政政策ニ何等ノ變更ヲ來スコト無カリキ然ルニ其後戦況不可トナルニ至ルヤ国民ハ国防ニ関スル一切ノ措置ヲ政府ニ一任スルヲ危險ナリトシテ物資供給問題ニ容喙ノ必要ヲ認ムルニ至レリ茲ニ於テカ從來国民ヲシテ物資供給問題ニ關係セシムルハ危險ナリトノ意見ヲ有シタル露国政府ハ国民ヲシテ本問題ニ容喙セシメ以テ国民ノ支持ヲ求ムルヲ必要トスルニ至レリ斯クテ国民ハ産業ヲ動員シテ政府ト共ニ軍隊ニ物資ヲ供給スルコトニ決スルト同時ニ之カ条件トシテ政府ニ向ツテ諸般ノ要求ヲ提起シ其結果政界多事トナリ政府ハ其政策ヲ變更スルノ已ムヲ得サルコトナレリ

二 民論ト政府

国民力戦時ニ産業ヲ動員シテ政府ト共ニ軍隊ニ物資ヲ供給スルコトニ關聯シ政府ニ對スル国民ノ態度如何ニツキ露国民論大体ニ於テ多数説及少数説ノ二ニ分レタリ多数説ハ国民力政府ト共ニ一致協力シテ軍隊ニ物資ヲ供給スルニ就テハ此一致協力ヲ全カラシムル為メ政府ヲシテ制度組織ノ改善ヲ行ハシムルヲ要ストスルニ反シ少数説ハ制度組織改善ノコトハ之ヲ戦後ノ問題トシテ今日国民ハ自国軍ヲシテ敵軍ニ對シ勝利ヲ制セシムル為メ無条件ニ政府ト共ニ専心

集命令ヲ下シタルニ拘ラス内閣全部ノ改造ハ議會召集ノ日マデ完成スルニ至ラザリキ加フルニ政府ハ朝野ノ保守派人士ノ制肘ヲ受ケテ国民ノ要求ヲ容ルルニ吝ニシテ自ラ進ンテ改革ヲ行フノ狀無キヲ以テ国民ノ多数ハ依然政府ニ對シテ不滿ヲ抱キ從ツテ政府ト議會トノ關係ハ更ニ円満ヲ欠クニ至レリ第三次戦時議會開會当日ニ於ケル下院議長及各党派代表者議員ノ演説ハ之ヲ証スルニ足レリ

第三次戦時議會ハ本年八月一日ニ開カレ同日議長ハ其開院ノ辭中国民ハ最後マテ戦争ヲ繼續シ政府ト共ニ軍隊ニ兵器彈藥ヲ供給スヘキニツキ政府ハ須ラク民論ヲ容レテ制度ヲ改善スルヲ要スト述ヘタリ又同日議會ニ於テハ総理陸軍海軍外務及大藏五大臣ノ演説アリタリ総理大臣ノ演説ハ戦時施政一般ノ方針ニ關係シ而シテ陸軍大臣以下四大臣ノ演説ハ各自所管ノ政務ニ専ラ關係セリ

以上諸大臣特ニ総務大臣ノ演説ニ對シ下院各党派議員各自ニ其党ヲ代表シテ其態度ヲ明カニシタリ各党代表者ノ演説ハ右ハ右党（保守派）ヨリ左ハ極左党（社会民主党）ニ至ルマテ滿院一同挙国一致以テ最後マテ戦争ヲ繼續シテ敵ヲ屈伏セシムヘント云フニ一致スルニ至リタルモ国民力戦時

三 第三次戦時議會

政府ハ民論ヲ容レテ既ニ内閣ノ改造ニ着手シ而シテ議會召

産業ヲ動員シテ政府ト共ニ軍隊ニ物資ヲ供給スル点ニ関シテハ各党代表者ノ説大体ニ於テニ分レ現ニ同院多数派タル国民、中央、十月、改進黨及立憲民主諸党并ニ労働及社会民主兩党ハ国民力挙國一致シテ軍隊ニ物資ヲ供給スルノ先決問題トシテ内閣改造ノ完成内政改革等一定ノ条件ヲ必要トスルニ反シ少数派タル右党ハ国民力無条件ニ現制度及組織ノ下ニ於テ軍隊ニ物資ヲ供給スルヲ要スト主張セリ尤モ多数派ノ主張ハ之ヲ詳細ニ識別スレハ各々其趣旨ヲ異ニス現ニ国民党ハ十月党ト同シク内閣ノ改造完成ヲ以テ満足スト雖改進黨ハ進シテ責任内閣ヲ要求シ又社会民主党ハ現内閣総辭職ヲ促セリ

議會ニ於ケル各党代表者ノ演説終局ヲ告グルニ至ルヤ諸党ハ単独ニ又ハ共同シテ決議案ヲ議會ニ提出シタリ諸決議案中十月、中央及国民三党カ共同シテ提出シタル決議案ハ三党ノ外改進黨及立憲民主兩党ノ大多数ヲ以テ可決セラレタリ同案ハ勝利ヲ制スルマテ戦争ヲ継続スルノ意思ヲ表示スルト同時ニ内閣改造ノ完成ヲ政府ニ促シタルモノニシテ其内容ハ歐洲戦争開始前院内改進黨乃至立憲民主兩党カ自己ノ綱領中ニ列挙シタル要求事項ニシテ當時国民党ハ勿論十月党

テ政府ニ反対シ居レリ

右改進黨組織ノ企議ハ元ト立憲民主及改進黨ヨリ出タルモノニシテ同団カ斯克モ容易ニ実現スルニ至リシハ時勢ノ然ラシムル所ナリトハ云ヘ又立憲民主黨ノ所謂外交的態度大ニ与カリテ力アリ同党ハ第一議會及第二議會解散當時ノ失策ヲ省ミ又時勢ニ鑑ミテ敢テ露骨ニ其本色ヲ發揮スルコト無ク又国民ノ同情ヲ失フカ如キ態度ヲ避ケ裡面ニ於テ其地歩ヲ占ムルヲ以テ目的トセリコレ迄立憲民主黨ハ改進黨ト共ニ院内ニ於テ其左ニ位シ而モ無勢力ナル労働及社会民主兩党ト關係ヲ保チ政府ニ対シタリシモ今回ハ右兩党ト提携スルヲ避ケテ反ツテ其右ニ位スル十月、中央、国民諸党ノ多数党ト提携スルト同時ニ此等諸党ヲ左ニ傾カシメ以テ一方ニハ政府反対党ノ勢力ヲ大ニシ又他方ニハ自党ノ地盤ヲ堅フスルノ策ヲ講スルニ至レリ其結果従前政府党トシテ常ニ立憲民主黨ノ主張ニ反対シタル十月、中央及国民諸党ハ漸次立憲民主黨ノ綱領ノ一部ヲ採用スルニ至レリ現ニコレマデ下院陸海軍委員會(国防委員會)ノ委員選舉ニ関シ政府反対黨議員ヲ其委員ニ選舉スルヲ以テ有害危険ナリトシテ之ニ反対シタル国民、中央及十月諸党ハ今ヤ之ニ同意

サヘモ亦此要求ヲ以テ過大ナリトシテ之ニ反対シタリ然ルニ今回時ノ政府党タリシ国民中央及十月三党カスル要求事項ヲ列挙シタル決議案ヲ自ラ率先シテ議會ニ提出シ而シテ改進黨及立憲民主兩党等ノ政府反対党ト共ニ之ヲ可決スルニ至リシハ頗ル奇異ニシテ又以テ戦争ノ為メ如何ニ時勢力変遷スルニ至リシカヲ知ルニ足レリ

四 下院諸党派相互關係

下院諸党相互并ニ諸党ノ政府ニ対スル關係ハ近年大ニ變更ヲ来シタリ第三議會ニ於テ政府党ノ中堅タリシ十月党ハ第四議會ニ至リ政府反対党ニ接近シ来リタルモ大体ニ於テハ依然其右翼ニ位スル中央及国民兩党ト提携シテ未タ依然政府党タルノ実ヲ失ハサリキ然ルニ歐洲戦争勃発スルヤ社会民主及労働兩党ハ勿論立憲民主及改進黨兩党ノ外十月及中央ノ兩党及国民党ノ一派モ亦政府反対党ト化シ而シテ政府党トシテ現内閣ヲ支持スルモノハ今ヤ右党及国民党ノ他ノ一派ノミニ過キサルニ至レリ此ノ如キ關係ハ固ヨリ一時的ニシテ立憲民主黨ト中央党乃至国民党ノ一派トカ永久ニ提携一致スルコトノ不可能ナルヤ論無シト雖現在此等諸党ハ一致シテ改進黨ナル名称ノ下ニ一種ノ大同団結ヲ組織シテ以

スルコトトナレリ玆ニ於テ議會ハ同委員會ノ委員ノ數ヲ増加シテ十余人ノ政府反対黨議員ヲ之カ委員ニ選ヒ而モ立憲民主黨領袖「シンガリヨフ」氏ヲ之カ委員長ニ選舉スルニ至レリ

立憲民主黨ハ院内ニ於テ改進黨ノ左ニ位スルヲ以テ從ツテ前者ノ主義及其平素ノ主張ハ後者ノ夫レニ比シ一層急激ニシテ進歩的ナルヲ以テ順序ヨリ云ヘハ今回改進黨カ議會ニ提出シタル責任内閣要求ニ関スル決議案ハ立憲民主黨ヨリ提出セラルヘキモノナリ加フルニ立憲民主黨ハ同案ノ採決ニ際シ之ニ賛成ノ投票ヲナスコト無クシテ棄權シタリ右ハ同党カ該案ニ反対ナルカ為メニアラスシテ蓋シ其原因ハ同党カヨシヤ之ニ賛成スルトモ多数党ハ当然之ニ反対スヘキニツキ案ノ否決ハ夙ニ明白ナルカ為メナルト同時ニ又立憲民主黨カ該案ニ賛成セハ同党ノ態度ハ自然十月、中央及国民諸党ノ感色ヲ害シ遂ニハ此等諸党ヲ左ニ傾カシメテ自己ノ地盤ヲ固クシ且政府反対党ノ勢力ヲ大ニセントスルノ目的ヲ達シ得サルヘキカ為メニ外ナラス

立憲民主黨ノ態度ハ前記ノ如クナルヲ以テ同党ト労働及社会民主兩党ノ關係ハ今ヤ全ク疎遠トナリ兩党ハ立憲民主黨

ニ対シ不快ノ感ヲ抱クニ至レリ立憲民主党最近ノ態度ニ対シ嫌焉タルモノハ畜ニ社会民主党及労働兩党ニ止ラス右党モ亦然リ現ニ右党機関紙ハ立憲民主党カ国民、中央及十月三党ヲ左ニ傾カシメントスル同党ノ手段ヲ以テ陰險ナリトシ三党ニ警告ヲ与ヘツツアリ之カ為メ其後国民黨員ノ大多数ハ自党カ中央及十月兩党ト共ニ立憲乃至改進諸党ト提携スルヲ以テ将来ノ為メ危険ナリトスルニ至レリ然トモ国民員党ノ一部ハ中央、十月兩党ト共ニ立憲民主乃至改進諸党ト提携スルコトハ戦時ニ於テ必要已ムヲ得サルコトナリトノ見解ヲ固執シテ遂ニ其党ヲ脱シ最近ニ至リ院内ニ別ニ国民改進党ナルモノヲ組織スルニ至レリ

右ノ如ク下院ノ諸党派ハ第三次戦時議會召集ノ當時事実上中央右翼及左翼ノ三団ニ分レ立憲民主、改進、十月、中央及国民改進諸党ノ多数党ハ有力ナル中央ヲ形成シ右党及国民党ハ之カ右翼ヲ組織シ而シテ社会民主及労働兩党ハ之カ左翼ヲ組成セリ

五 議會ト政府提出法案

第三次戦時議會ハ開院当日其決議案ヲ以テ政府ニ内閣改造ノ完成ヲ要求スルト同時ニ戦争継続ヲ必要ナリト主張スル

セラレタリキ要スルニ各黨議員カ政府ヲ攻撃スルノ声ハ頗ル大ニシテ右党及国民党等ノ政府黨議員サヘモ亦或点ニ於テハ同シク政府ヲ攻撃セリ然レトモ政府黨即チ極右党カ政府ヲ攻撃スル点ハ極左党乃至中央派カ之ヲ攻撃スル点ト同シカラスシテ現ニ極左党乃至中央派ハ政府カ民意ヲ容レスシテ改革ヲ断行セサルコトヲ攻撃スルニ反シ極右党ハ政府カ濫リニ民意ヲ容レテ改革ヲ実行セントスルコトヲ以テ露国将来ノ為メ危険ナリトシテ政府ヲ攻撃セリ

六 高等審問委員會

歐洲戦争開始當時露国軍事当局者陸軍大臣「スホムリノフ」大將ハ内外ニ向ツテ露国軍備ノ充実セルコトヲ誇リ又「レノンカンブ」將軍ノ如キハ国民ニ向ツテ大言壯語シタルコト等ノ事実アルヲ以テ露国国民ハ一般ニ右当局者ノ言ヲ信シ從ツテ露軍ハ独壊軍ニ對シ容易ニ勝利ヲ制スヘキヲ期待シタリ然ルニ其後露軍敗戦シ而シテ其原因カ軍備ノ不充実ニ在ルコト明白トナルト同時ニ物資注文ニ関シ諸般ノ情弊アルコト公然ノ秘密トナルニ至ルヤ国民ハ大ニ激昂シテ政府ハ国民ヲ欺キタリトシ以テ政府ヲ攻撃スルコトトナレリ玆ニ於テ国民ハ国防問題ニ直接容嘴スルヲ必要トシ政府

モノナルヲ以テ政府カ議會ニ提出シタル其所謂戦争ニ直接關係ヲ有スル諸法案ハ容易ニ而モ迅速ニ議會ヲ通過シ今ヤ既ニ裁可セラレテソレソレ現行法トナルニ至レリ

コレヨリ先キ政府カ戦争ニ直接關係アル法案トシテ帝國銀行兌換券制限外発行權擴張法案及第二補充兵召集法案ト共ニ物資供給特別會議法案ヲ議會ニ提出スルヤ下院ニ於テハ右法案ヲソレソレ委員會ニ附托シ就中物資供給特別會議法案ハ同院財政及陸海軍兩委員會ノ聯合会ノ議ニ附セラレタリ同法案ハ八月十三日下院ヲ通過シテ上院ニ回附セラレタリ以上諸法案カ下院委員會乃至本會議ニ於テ議セララルニ至ルヤ同院各党派議員ハ自己所屬ノ党ヲ代表シ又ハ一個人ノ資格ヲ以テ忌憚無ク一般ニ政府殊ニ軍事当局者ノ失政ヲ非難攻撃セリ同攻撃演說ハ頗ル過激ニ亘リ就中労働及社会民主兩黨議員ノ演說ハ激烈ヲ極メタリ元來労働及社会民主兩黨議員ハ露国ニ於ケル言論出版取締規則嚴重ニシテ自由ニ政府ノ失政ヲ暴露スルヲ得サルカ為メ議場ニテ忌憚無ク政府ノ失政ヲ數ヘ議院ノ速記録ニ依リテ之ヲ暴露シ以テ民衆ヲ煽動スルノ目的ヲ有スルヲ以テ兩黨議員ハ其演說中往々治安ニ妨害アルノ言辭ヲ弄シテ議長ヨリ演說ノ中止ヲ命

モ亦其方針ヲ一變シテ物資供給ニ関シ国民ノ援助ヲ求ムルコトニ決シ其結果政府ハ国民ノ要求ニ從ヒ物資供給特別會議ヲ組織スルコトニシタリ物資供給特別會議ニ関スル法案ノ下院秘密會議ニ附セラルルヤ同院各党派議員ノ大多数ハ異口同音ニ軍事当局者ノ軍備ヲ怠リ且又物資注文ニ関シ不正ノ行為ニ出テタルコトヲ攻撃シテ当局者ノ罪責ヲ調査審問シテ当局者ヲ裁判ニ附スヘント要求シタリ

政府ハ右法案ノ議事ニ際シ議會ヨリ斯ル要求ノ提起セラルヘキヲ予期シタルヲ以テ新陸軍大臣「ポリワーノフ」將軍ハ予メ閣僚ト謀リテ之ニ對スル措置トシテ高等審問委員會ナルモノヲ組織シテ同委員會ニ軍事当局者其他ノ者ノ罪責有無ヲ審査セシムルコトニ既ニ決シ居リタルヲ以テ議會ニ於テ右要求提起セラルルニ至ルヤ陸軍大臣ハ直チニ之ニ對シ政府カ既ニ此種ノ審問委員會ヲ組織スルコトニ決セルコトヲ声明シ以テ議員ヲ満足セシメタリ

高等審問委員會ノ組織ニ関スル勅命ハ七月二十五日ニ下リ同委員會ノ委員長ハ上院議員「ペトロフ」將軍ニシテ委員ハ左記ノ人々ヨリ成レリ

ゴルーベフ（上院副議長）

ワルンセクレット(下院副議長)

ナウーモフ(上院議員)

ボープリンスキー伯(下院議員)

パンテレフ將軍

ボズニコフ(元老院議員)

右高等審問委員会ハ其後軍事当局者ノ罪責ニ関スル証拠書類ノ蒐集ニ着手シ昨今諸新聞ノ所報ニ依レハ同委員会ハ不日前陸軍大臣「スホムリノフ」將軍ヲ審問スヘシト云フ

七、物資供給特別会議 附 戦時産業委員会

物資供給特別会議法案カ上下両院ノ協賛ヲ経テ裁可セラレ法律トナリシハ八月三十日ノコトトス同法律ニ依レハ特別會議ハ左ノ四ニ分ル

- 一、国防事務審査統一特別會議(長陸軍大臣)
- 二、糧食事務審査統一特別會議(長農務大臣)
- 三、燃料供給事務審査統一特別會議(長商工大臣)
- 四、燃料糧食及物資運輸事務審査統一特別會議(長交通大臣)

以上四會議ハイツレモ一定数ノ上下両院議員、關係諸官省代表者、全露市自治団聯合会代表者、全露市自治団聯合

商業者代表者ハ同會議ニ於テ一方ニハ全国ノ産業ヲ拡張シテ一般ニ物資特ニ兵器彈藥ヲ軍隊ニ供給スルノ目的ヲ以テ民間ニ戦時産業委員会ナルモノヲ組織スルヲ必要トシタルト同時ニ又他方ニハ物資供給ニ国民一般ヲ關係セシムルヲ必要ナリトシテ政府ニ注意スル所アリタリ玆ニ於テ政府ハ大体ニ於テ全露工商代表者會議ノ意見ヲ容レテ此種ノ會議ヲ組織スルコトニ決シタルト同時ニ工商業者カ戦時産業委員会會議ヲ組織スルコトニ同意ヲ与ヘ其結果露曆八月二十七日日皇帝ハ戦時産業委員会會議規則ヲ裁可シタリ

戦時産業委員会會議規則ニ依レハ同會議ハ中央戦時産業委員会及地方戦時産業委員会會議ノ二ニ分レ「ベトログラード」市ヲ以テ中央戦時産業委員会會議所在地トス中央戦時産業委員会會議ノ委員ハ左記代表者ヨリ成ル

- 一、工商業代表者會議本部員
- 二、地方戦時産業委員会代表者
- 三、全露市自治団代表者聯合會議代表者
- 四、全露地方自治団代表者聯合會議代表者
- 五、「ベトログラード」市会代表者
- 六、「モスクワ」市会代表者

会代表者、中央戦時産業委員会會議代表者等ヨリ成レリ四特別會議ハイツレモ皆当該國務大臣ヲ以テ議長トス四特別會議ノ内其最モ主要ニシテ而カモ多数ノ委員ヲ有スルハ国防事務審査統一特別會議ニシテ同會議ノ委員ハ左ノ如シ

上院議長

下院議長

上院議員九名(互選)

下院議員九名(互選)

海軍省代表者一

大藏省代表者一

交通省代表者一

商工省代表者一

會計検査院代表者一

陸軍省代表者五

全露地方自治団聯合会代表者一

全露市自治団聯合会代表者一

中央戦時産業委員会會議代表者四

物資供給委員会會議ハ本夏露都ニ於テ開カレタル第九回全露工商業者代表者會議ノ決議案ニ胚胎シタルモノトス全露工

- 七、諸官衙代表者
- 八、労働者代表者

中央戦時産業委員会會議ノ長ハ当初工商業代表者會議本部長「アウダーコフ」氏ナリシモ其後同氏ハ病氣ノ為メ其任ヲ辭シ而シテ第三議會當時下院議長タリシ「グチコフ」氏ハ選ハレテ之カ委員長トナルニ至レリ中央戦時産業委員会會議ハ物資供給特別會議ト同シク同氏カ直接ニ物資供給問題ニ容喙スルヲ得ルノ機關ニシテ此機關ハ国民カ今回ノ戦争ヲ名実両ラ国民的タラシムルノ具ニ外ナラス

物資供給特別會議法カ公布セラルルヤ上下両院ニ於テハ其代表者トシテ同會議ニ列スヘキ委員選舉ノ為メ各自相談会ヲ開キタリ下院ニ於テハ同相談会ノ席上ニ於テ十月黨議員ハ左右兩極端黨ヨリ委員ヲ選舉スルハ不可ナリトノ説ヲ唱ヘタリト雖衆議ハ此説ヲ以テ挙国一致ノ精神ニ戻ルモノナリトシテ各党派ヨリ平均ニ委員ヲ選舉スヘシトノコトニ決セリ併シ乍ラ社会民主及労働兩極左党ハ自党ヨリ之カ委員ヲ出スコトヲ欲セサリシヲ以テ結局下院ハ右兩党ヲ除キ其他ノ諸党ヨリ公平ニ委員ヲ選ブコトトシテソレソレ委員ヲ選定シタリ就中国防事務審査統一特別會議ノ委員選舉ハ九

月一日ニ行ハレ而シテ其結果ハ左ノ如シ

正委員 サウイツチ (十月党)

シンガリヨフ (立憲民主党)

スウエルチコフ (中央党)

シユルギン (国民改進黨)

ドブロフスキー (立憲民主党)

チハチエフ (国民党)

エフレイモフ (改進黨)

ドミチユルコフ (十月党)

コルコフ (右党)

副委員 クルペンスキー (中央党)

ヲボチニン (十月党)

アッゼモフ (立憲民主党)

八 政府對議會多數党關係

物資供給特別會議ハ国防事務ノ審議ニ国民ヲ直接干与セシムルモノニシテ此事ヤ下院多數党ノ要求ニ從ヒテ從來ノ政策ヲ一變シタルモノニ外ナラサルヲ以テ同院少數党ハ上院ノ右党ト共ニ政府カ国民ノ要求ヲ容ルルコトニ反對シテ政府ニ注意ヲ促セリ然トモ下院多數党ハ上院ノ同志ト歩調ヲ

一ニシ政府ニ内政改革ヲ迫リ而シテ其勢力偉大ナルモノアリシヲ以テ政府ハ少數党ノ注意ニ耳ヲ傾クルコト無クシテ或範圍内ニ於テ民意ヲ容ルルコトニ決シ一時將ニ一二在野政治家ニ大臣ノ椅子ヲ与ヘテ内閣改造ヲ完成セントスルニ至レリ現ニ當時露都諸新聞ハ農務大臣「クリウオセイシ」氏ハ總理トナリ在野政治家ヲ入レテ新内閣ヲ組織スヘシト報シタリキ

九 上下兩院保守團運動

政府カ下院多數党ノ要求ヲ容レテ内政ヲ改革シ又内閣ノ改造ヲ完成セントスルノ兆候顯ハルルニ至ルヤ上下兩院ノ右党ハ政府カ民論ヲ容ルルヲ不可ナリトシテ之ニ反對シ保守團ヲ組織シ以テ内政改革及内閣改造反對運動ヲ試ミタリ此保守團ノ組織ニ加入シタルモノハ最初下院ヨリハ右党ノミナリシモ其後国民党ノ大部分モ亦之カ組織ニ加入スルニ至レリ同團ニ属スル人士ハ刻下戰時中国民ハ内政問題ヲ提起スルノ場合ニアラス内閣ヲ改造シテ在野政治家ニ閣員ノ椅子ヲ与フルカ如キハ以テノ外ノコトナリトノ意見ヲ有シ政府ニ民論庄迫及議會解散ヲ勸告セリ

保守團ノ勢力ハ当初頗ル微々タルモノナリシモ其後同團ノ

主張ハ官僚并ニ宮内部内ヨリ支持セラレ從ツテ同團ノ勢力ハ侮ルヘカラサルモノトナルニ至レリ茲ニ於テ内閣ハ同團ニ制肘セラレテ民意ヲ卻クルノ方針ニ出ツルコトナレリ之カ為メ内閣改造ノ風説ハ其後全ク立消ヘトナレリ

十 改進黨組織運動

政府カ保守團ノ説ニ耳ヲ傾クルニ至ルヤ上下兩院多數党ハ政府ヲ以テ戰時ニ必要ナル官民上下挙国一致ヲ無視スルモノナリトシテ政府ニ對シ反對運動ヲ試ミルコトヲ必要トシタリ茲ニ於テ同党ハ右保守團ニ對抗シ改進黨ヲ組織シテ一方ニハ保守團ノ運動對抗運動ヲ試ミルト同時ニ又他方ニハ政府ニ警告ヲ与ヘテ政府ヲシテ飽マテ民論ヲ容レシムルコトニ決セリ

改進黨組織ノ必要ヲ率先シテ唱道シタル者ハ下院ニ於テハ改進黨及立憲民主党ニシテ其後兩党ノ以右ニ位スル十月及中央兩党モ亦改進黨組織ニ賛成シ尚ホ其後ニ至リ国民党ノ一部人士モ亦之カ組織ニ賛同シ本党ヲ脱シテ新ニ院内ニ国民党改進黨ナルモノヲ組織スルニ至リタリ茲ニ於テ下院立憲民主、改進黨、十月、中央及国民党五党代表者ハ上院學士團(左党)及中央党代表者ト会同シテ意見ヲ交換シ其結果

改進黨組織セララルコトナリタリ

上下兩院ノ多數党カ有力ナル改進黨ヲ組織スルコトハ兩院内ノ保守團ニ對スル大打撃タルヲ以テ保守團ハ之ニ對シ政府ヲシテ改進黨ノ主張ニ耳ヲ傾ケシメサランカ為メ官僚及宮中派人士ト結托シテ議會解散運動ヲ企テタリ此企ハ直チニ風説トシテ世間ニ伝播セリ

議會解散運動ノ企ニ關スル右ノ風説カ世ニ行ハレシハ露軍「ウイルナ」方面退却前後ノコトニシテ當時同方面ノ戰況大ニ露軍ニ非ナルモノアリキ之カ為メ此當時露国ニ於テハ人心恟々諸説紛々或ハ同方面ノ戰況如何ハ現皇室ロマノフ家ノ興敗ニ關係スヘシト風説シ或ハ官僚及宮中派人士ハ保守團ノ後援ヲ得テ帝室及帝權擁護ノ為メ議會ヲ解散シ民論ヲ庄シテ独逸ト单独平和ヲ締結スルノ準備ヲナシツツアリト耳語スル者アリタリ

十一 单独平和説

今回ノ戰爭ハ露国ニ於テハ最初ヨリ国民的トシテ苟モ露国国民タル諸民族ハ皆戰爭ヲ是認シ来リタルノ關係アルヲ以テ今日戰況カ露軍ノ為メ非トナリタリトスルモ何人モ公然ト戰爭ヲ否認スルモノ無キノミナラス之ヲ否認スル者ハ社

会ニ容レラレサルノ状態ナリ故ヲ以テ内政關係上專制政治ヲ謳歌スル者若クハ独逸露三帝神聖同盟ヲ欲スル者ハ勿論又露国国民タル独逸民族特ニ「バルチツク」海沿岸「クーランド」、「エストランド」及「リフランド」三県内ノ貴族ノ或部分ハ内心露国カ独逸ト戦争スルコトヲ好マスシテ露独兩國ノ平和ヲ欲スト雖口ニハ戦争繼續論ヲ唱道セリ斯ノ如キ有様ナルヲ以テ露国諸民族及諸階級人士ヲシテ今回ノ露独戦争ニ関シテ忌憚無ク其意ヲ吐カシムレハ此内ニハ独逸トノ單獨平和説ヲ唱フル者無シトセス然レトモ露国国民ノ大多数就中独逸民族ノ敵タル「スラブ」民族人士ハ奮ニ言論ノ上ニ於テノミナラス内心ニ於テ直ニ戦争ノ繼續ヲ必要トセリ

元来露国ニ於テハ宮中部内ノ高官ニ「バルチツク」海沿岸地方出身ノ独逸民族貴族多キノミナラス皇后陛下下ヲ首メ皇族配偶ノ大部分ハ皆独逸聯邦諸皇室ヨリ嫁シ来リ居タルカ為メ露西亜人ハ皇室ヲ中心トスル所謂宮中派人士ノ心裡ヲ疑ヒ又此等露西亜人一派ノ見解ニ依レハ露对独逸戦争カ露軍ノ為メ将来大ニ非トナルニ至ラハ露国ノ民心ハ動揺ヲ来シ從ツテ内政不穩トナルヘキヲ以テ宮中派人士ハ此機ニ乘

占メシ所以ハ固ヨリ独逸民族ノ智識及教育ノ程度カ他ノ民族ノ夫レニ優リタル結果ニ外ナラスト雖又強大ナル同民族国タル独逸カ露国ノ隣邦タルコト及露独兩皇室カ親密ナル親族の關係ヲ有シタルコト等モ亦之カ一原因ニ外ナラス故ヲ以テ露国国民タル独逸民族ノ多数ハ固ヨリ自ラ独逸臣民タルコトヲ希望セスシテ飽マテ露国臣民タルコトヲ欲スト雖露国ニ於ケル自己ノ位置ヲ安全ニスルカ為メ独逸カ大敗シテ弱国トナルコトヲ希望セス現ニ露独開戦後露国臣民タル独逸民族ノ位置ハ頗ル不安全ニシテ一般ニ独逸民族ノ權利制限及「バルチツク」海沿岸地方独逸民族貴族(男爵)ノ特權廃止ニ関スル法律制定ノ必要ヲ唱フル者多クシテ本件ハ早ヤ既ニ議會ノ問題ト成リタルト同時ニ又露国スラブ派人士中ニハ外敵タル独逸人ヲ征伐シテ独逸ヲ滅亡ニ帰セシムルノ目的ヲ達シタル咄ニハ次ニ達スヘキ目的ハ内敵タル露国臣民独逸人ノ退治ナリト揚言スル者少カラス故ヲ以テ露国臣民タル独逸民族中ニ自己ノ位置ノ安全ヲ求ムル為メ独逸カ滅亡ニ帰セサルコトヲ祈ル者乃至速カニ露国カ独逸ト單獨平和ヲ締結スルコトヲ希フ者アルヘキヤ勿論ナリ果シテ然ラハ露国ニ陰然單獨平和説ヲ唱フル者アルヘキハ

シ政府ヲシテ内乱鎮圧ヲ名トシテ輿論ヲ圧迫シ独逸ト單獨平和ヲ結ハシムルト同時ニ政府カ外敵ト平和ヲ締結スルノ已ムヲ得サルニ至リシ所以カ畢竟内敵カ内乱ヲ醸サントシタルカ為メナリトシテ單獨平和ヲ締結ノ罪ヲ国民ニ嫁セントスルノ深キ野心ヲ有スルモノナリトアリ此見解ハ固ヨリ猜疑心ニ富メル露西亜人ノ偏見ヨリ出テタルモノナリトスルモ諸民族及諸階級ヨリ成レル露国国民中ノ或民族及或階級中ニ自家ノ利益ノ為メ内心ニ独逸トノ單獨平和ヲ希望スル者アルヘキヤ自然ノ勢ニシテ特ニ此種ノ希望ヲ有スル者ハ独逸民族中ニハ当然有リ得ヘキコトナリ何トナレハ露国国民タル独逸民族ハ他ノ民族ト共ニ露国臣民トシテ外敵ト戦ヒ君国ノ為メニ尽シツアルニ拘ラス「スラブ」民族其他ハ此独逸民族ヲ敵国ノ間諜ナリトシテ之ヲ排斥シ且ツ迫害ヲ加ヘツツアルヲ以テ露国内ノ独逸民族カ自己ノ将来ヲ慮リテ敵国タル独逸カ露国ニ全滅セラレタル場合ニ於ケル自己ノ不幸ナル境遇ヲ予想スヘキヲ以テナリコレマテ露国ニ於ケル其臣民タル独逸民族ノ位置ハ優勝ニシテ同民族ハ事實上一種ノ特權的民族トシテ「スラブ」民族其他諸民族ノ上ニ位シタリ斯ノ如ク独逸民族カ露国ニ於テ優勝ノ位置ヲ

想像スルニ難カラス現ニ故「ウイッテ」伯ハ陰然平和説ヲ唱ヘタルノ人ナリト世ニ称セラル宮中部内ニモ其高官ニ独逸系統ノ人士多キヲ以テ世人ハ是等高官中ニハ口ニ戦争繼續ヲ唱フルモ内心ニ露独ノ單獨平和ヲ希望シテ機會アレハ直ニ單獨平和説ヲ實現セシメント欲スルノ底意ヲ有スル者アリトノ見解ヲ下セリサレド「スラブ」民族統一主義ヲ有セラるルコトヲ以テ名アル時ノ總軍司令官尼古来親王ノ左右ニ侍ヘリタル高官ハ多ク「スラブ」派人士ニシテ而モ世人ハ此等人士ヲ目シテ戦争繼續論者トナセリ此故ニ露軍ウイラ退却前後ニ皇帝カ尼古来親王ニ代リテ親ラ總軍ヲ指揮セラルヘシトノ情報伝ヘラルルヤ世人ハ之ヲ以テ露独單獨平和ヲ締結ノ前兆ニハアラサルヤトノ疑ヲ惹シタリ此情報ノ世間ニ伝ハリシハ恰モ上下兩院保守団ノ議會解散運動關ハナルノ時ナリシヲ以テ世人ハ總軍司令官ノ更迭ト保守団ノ運動トカ密接ノ關係ヲ有スルモノナリト思惟シテ一時不安ノ念ヲ抱キタリ然レトモ戦争ハ既ニ國民的トナリ而モ戦争繼續説ハ国論トナリテ今ヤ平和説ヲ唱フル者ハ国賊ヲ以テ目セラルルノミナラス露国ト同盟軍国トノ間ニハ單獨平和ヲ禁スルノ協定存在シ又財政ニ困難スル露国カ若シ資本ニ不

足スル独逸ト单独ニ平和ヲ締結セハ資本国タル英仏兩國ハ戦後露國ニ財政上ノ援助ヲ与フルコト無カルヘキヲ以テ露獨間ニハ单独平和ハ万々実現スルコト無カルヘシ然レトモ露國ニハ其國情民俗其他ノ關係上往々常軌ヲ以テ律スヘカラサル出来事多キヲ以テ意想外ノ事實發生セストモ限ラサルナリ

十二 モスクワ政事家會議

上下兩院ノ保守団カ官僚及宮中派人士ト結託シテ議會解散運動ヲ為シ又此運動ト關聯シテ或筋ニ单独平和締結ノ運動内々行ハレツツアリトノ訛伝アルト同時ニ他方ニハ政府ハ内閣改造ノ完成ヲ実行スルヲ欲セスシテ之ヲ中止スルコトニ決シタリトノ風説行ハルルニ至ルヤ上下兩院ノ改進黨及同団ノ組織ニ賛成スル在野政治家ハ此際大ニ運動シテ保守団ニ對抗スルコトシタリ玆ニ於テ「モスクワ」及「ペトログラード」兩市ニ在ル民間ノ政治家等ハ「モスクワ」ニ集會シ「コノワローフ」氏宅ニ會議ヲ開キテ時局問題ニ關シ意見ノ交換ヲ行ヒタリ同日會議ハ一種ノ決議案ヲ議決セリ同決議案ハ秘密ニ附セラレタルヲ以テ未タ之ヲ詳カニスルニ由無キモ諸新聞ノ所報ヲ綜合スルニ其内容ハ单独平和ヲ

市会ノ例ニ倣ヒ時局問題審議ノ為メ臨時會議ヲ開キ各々決議案ヲ以テ「モスクワ」市会ノ決議案ニ全然同意ヲ表スルコトヲ議決シタリ要スルニ「モスクワ」市会カ其決議案ヲ以テ表示シタル意思ハ今ヤ殆ント全露國國民ノ輿論トナルニ至レリ

十四 物資供給特別會議開會式

九月四日皇帝カ冬宮ニ於テ物資供給特別會議ノ委員一同ヲ集メ同會議開會式ヲ行ヒテ委員一同ニ下サレタル詔勅ハ單獨平和締結ノ風説ヲ一掃シテ世人ニ安心ヲ与ヘシムルノ目的ニ出タルモノナリ然トモ同日皇帝ハ戰場ニ向ハレ翌五日予テ風説ノ通り總軍司令官尼古來親王ハ其職ヲ免セラレテ高加斯大守ニ任セラレ而シテ皇帝カ親ヲ總軍ヲ指揮セラルルコトトナルニ至ルヤ世人ハ一時危惧ノ念ヲ抱キ尼古來親王ノ転任ヲ以テ一種ノ貶黜ナリトスルト同時ニ单独平和ノ實現ヲ容易ニシタルモノナリトセリ

十五 改進黨綱領ト内閣

上下兩院多數黨ヨリ成ル改進黨カ其綱領ヲ制定シテ之ヲ世ニ発表セシハ皇帝カ戰地ニ向ヒ總軍指揮ノ權ヲ執ラルルコトトナリタル以後ノコトニ屬ス同綱領ハ「モスクワ」市会

否認シテ最後マテ戰爭ノ繼續ヲ必要トシ且内閣改造ノ完成ヲ政府ニ促スコトニ決シタルモノナルカ如シ

十三 モスクワ市會決議案

「モスクワ」ハ露國國民論ノ中心トシテ而モ政府反對ノ氣焰ハ常ニ同地ニ高キヲ以テ議會解散單獨平和内閣改造中止等ノ風説カ民間ニ行ハルルニ至ルヤ「モスクワ」在野政治家及實業者ハ之ニ對シ天下ニ率先シテ活動スルノ必要ヲ認メ其結果九月一日「モスクワ」市會ハ臨時會議ヲ開キテ時局問題ニ關スル決議案ヲ議決シタリ

右「モスクワ」市會決議案ノ内容ハ單獨平和ヲ否認シテ戰爭ノ繼續ヲ必要トシ現内閣ヲ信任セスシテ政府ニ國民ノ信任ヲ有スル人士ヲ入閣セシメテ之ニ國務大臣ノ椅子ヲ与ヘ以テ内閣ヲ根本的ニ改造スヘシト要求シタルモノトス斯ノ如ク「モスクワ」市會カ其決議案ヲ以テ政府ニ内閣員更迭ヲ迫ルニ至ルヤ政府ハ之ニ對スル態度措置ニツキ一時大ニ狼狽シタリト云フ

「モスクワ」ニ於テハ右市會ノ外商業取引會議所及商業者協會各々時局問題ニ關シ臨時會議ヲ開キテ市會ト略ホ同一ノ決議案ヲ議決シタリ其後全露國內諸市會モ亦「モスクワ」

カ其決議案ヲ以テ政府ニ要求シタル事項ヲ網羅シタルモノニシテ同綱領ノ旨意ハ國民カ政府ト一致協力シテ軍隊ニ物資ヲ供給スルニツキ政府ハ之ニ對シ内閣ヲ根本的ニ改造シテ以テ國民ノ信任アル人物ヲ内閣ニ入レ且内政政策ヲ改革シテ露國國民一般ニ同一ノ權利ヲ賦与スルコトヲ政府ニ要求スルニ在リ

斯ノ如ク上下兩院多數黨ハ其綱領ヲ以テ内閣ニ更迭ヲ促シ而モ議會ハ少クモ總理大臣外二三ノ大臣カ其職ヲ去ルニアラサレハ満足セサルヘキヲ以テ内閣ハ右綱領ニ對スル政府ノ態度ヲ定ムルカ為メ閣議ヲ開キタリ

之ヨリ先キ上下兩院議員カ改進黨ヲ組織シテ政府ニ要求ヲ提起セントスルヤ之ニ對スル閣員ノ說ニ二分レ現ニ閣員ノ一半即チ農務大臣クリウオセイン内務大臣シチエルバートフ公一派ハ政府カ改進黨ノ要求ヲ容レテ内閣ヲ改造スルノ必要ナルコトヲ主張シタルニ反シ他ノ一半即チ總理大臣ゴレムイキン司法大臣フオストフ氏一派ハ改進黨ノ内閣改造ニ關スル要求ヲ容ルルヲ不可ナリトノ說ヲ唱ヘタリト云フ之カ為メ改進黨ノ綱領ニ對スル政府ノ態度ヲ定ムルノ目的ヲ以テ開カレタル閣議ニ於テモ亦閣員ノ說容易ニ一致ス

ルニ至ラサリキ然トモ之ニ対スル政府ノ態度ヲ一定スルコトハ緊急事項トシテ忽ニスルヲ得サル次第ナルヲ以テ衆議ハ兎モ角モ二三ノ閣員ヲシテ改進黨代表者ト会见セシメ以テ其意見ヲ交換セシムルコトニ決シ其結果會計検査院長ハリトノフ氏内務大臣シチエルバートフ公外一二大臣ハハリトノフ氏宅ニ於テ右代表者ト会见協議ヲ遂ケシメタリ然ルニ改進黨ノ要求ハ頗ル強固ニシテ同団ハ現内閣カ議會ト一致協力ノ誠意ヲ表彰スル為メ總理大臣首メ二三大臣ノ更迭ヲ断行スルコトヲ政府ニ迫レリ故ヲ以テ總理大臣ハ閣員ノ去就ニ関シ上奏ノ上勅裁ヲ仰クコトニ決シ玆ニ於テ九月十一日總理大臣ハ大本營ニ赴キ皇帝ニ拝謁シテ上奏スル所アリタリ

總理大臣ゴレムイキン氏カ九月十三日大本營ヨリ帰京スルヤ同日司法大臣フウオストフ氏外二三閣員ハ直ニ總理ヲ訪問シテ非公式ニ其拝謁結果ノ報告ニ接シタリト云フ總理カ閣議ニ於テ正式ニ拝謁ノ結果ヲ報告セシハ九月十五日ノコトニシテ其前日露都諸新聞ハ報道スルニ總理大臣大本營行ノ結果政府ハ改進黨ノ要求ヲ容ルルコト無クシテ議會ニ停會ヲ命スルコトニ決シタリトノコトヲ以テシタリ果哉九月

テ政府ニ対シ大ナル不満ヲ抱ケリ殊ニ社会民主及労働兩党ハ不満ノ余リ政府ヲ苦シメンカ為メ直接又ハ間接ニ労働者ヲ煽動シテ同盟罷工ヲ行ハシムルニ至レリ然トモ改進黨ニ属スル諸党ハ政府ニ対シテハ固ヨリ大不満ナルニ拘ラス目前ニ外敵ヲ有スルヲ以テ名分ヲ重ンシ斯ル極端的ノ手段ニ出ツルヲ敢テスルニ至ラス尤モ同団ニ属スル立憲民主及改進黨員中ニハ激昂ノ余リ政府カ議會ニ停會ヲ命シタルコトニ反对ノ意ヲ表スル為メ兩党ハ須ラク自党ヨリ選ハレタル物資供給特別會議ノ委員ヲ同會議ヨリ脱セシムヘント主張シタル人士少カラサリシト雖コレニハ十月、中央及国民改進黨議員ノ側ヨリ反对アリタルカ為メ右兩黨議員ノ主張ハ消滅スルニ至レリ

十七 同盟罷工

議會停會ヲ命セラルルヤ極左党タル社会民主及労働兩党ハ不満ノ余リ直接又ハ間接ニ職工労働者等ヲ煽動シ其結果「モスクワ」及「ペトログラード」ニ於テ兵器彈藥等其他物資製造中ナル諸工場ノ職工労働者等カ同盟罷工ヲナシタルコトハ強大ナル外敵ヲ目前ニ控ユル露国ニ対スル大打撃タリ右ハ露国軍力敵軍ニ対シ勝利ヲ制スルコトヲ困難ナラ

十六日皇帝ハ勅令ヲ以テ上下兩院ニ停會ヲ命シタリ

十六 議會停會命令

九月十六日勅令ニ依レハ議會ハ同日ヨリ停會セラレ同會ハ十一月一日（露曆）以後トアルヲ以テ政府ハ当分議會ノ肘制ヲ受クルコト無キニ至レリ政府ノ見地ヲ以テスレハ第三次戰時議會ハ政府ノ提出ニ係ル所謂戰爭ニ直接關係アル諸法案ニ協賛ヲ与ヘタルヲ以テ政府ハ最早此上ニ議會ヲ開キ置クノ必要ヲ認メサルノミナラス議會ヲ開キ置カハ議會ハ戰爭ト全ク關係無キ法案ヲモ提出スヘク且又政府ニ諸般ノ要求ヲ提起シ之カ為メ政府ハ議會ノ肘制ヲ受ケテ全力ヲ戰爭ノ為メニ尽スヲ得サルノ嫌アリ加之議會ノ多数党ハ改進黨ノ名ヲ以テ既ニ政府ニ過大ノ要求ヲ提起シタルヲ以テ議會ノ開會カ基礎繼續セラルル場合ニハ政府ハ自然議會ト衝突スルニ至ルヘシ故ヲ以テ政府ハ議會即チ改進黨ニ反省ヲ促ス為メ議會ニ停會ヲ命シタル次第ナリトアリ

右議會停會ハ上下兩院ノ少数党タル保守団ヨリ大ニ歡迎セラレタリト雖兩院ノ改進黨并ニ下院ノ極左党タル社会民主及労働兩党ハ政府カ民意ニ反シテ議會ニ停會ヲ命シタルコトヲ以テ政府ハ官民上下挙国一致ヲ無視スルモノナリトシ

シメ遂ニハ露国軍ノ敗戦カ動機トナリテ戰時中露国ニ大革命發生スルニ至ルノ危険アルヲ以テ政府ハ右同盟罷工ヲ中止セシムルヲ必要トシテ此中止ノ目的ヲ貫ク為メ罷工者ノ制裁ニ関シ嚴重ナル法律ヲ發布シタリ之ト同時ニ改進黨ニ属シテ而モコレマテ永年政府反对党トシテ極左党ト提携シタル關係ヲ有スル立憲民主及改進黨代表者ハ改進黨ニ属スル諸党ヲ代表シテ職工労働者間ニ勢力ヲ有スル極左党即チ社会民主及労働兩党ノ領袖ト交渉シ同領袖ヲ經テ職工労働者等ヲシテ其職ニ就カシメンカ為メ百方論サシメ又「モスクワ」市長ハ同盟罷工ノ中心タル「モスクワ」市及其附近ニ在ル工場ノ職工労働者等ヘ特ニ檄文ヲ廻ハシテ以テ國家艱難ノ際ニ於テ職工労働者等カ同盟罷工ヲナスコトハ外敵ニ利益ヲ与ヘテ露国ヲ滅亡ニ近カシムルモノナリトノ意味ヲ以テ懇々彼等ニ注意ヲ与ヘテ反省ヲ促シタリ且又所謂宮中派ニ対シテ一種ノ疑念ヲ懷抱スル在野政治家及実業者等ハ職工労働者等カ今日同盟罷工ヲ行ヘハ独逸ト单独平和ノ締結ヲ希望スル人士ハ宮中派ト共ニ同盟罷工ヲ口実トシ職工労働者等ハ國家艱難多事ノ時ニ内乱ヲ企ツルモノナリトシテ内乱鎮定ヲ名トシ政府ヲシテ独逸ト单独平和ヲ締結

セシメ以テ单独平和締結ニ至ラシメタル罪ヲ職工労働者ニ婦セシメントスルノ危険アルヲ以テ同盟罷工ハ民党ノ為メ不利ナリトシテ同盟罷工煽動者ニ注意スル所アリタリ其結果モスクワ及ベトログラード両市及其附近ニ於ケル同盟罷工ハ一時中止セラレタリ

十八 全露地方自治団及全露市自治団兩代表者會議政府カ国民多数ノ意ニ反シ議會ニ停会ヲ命シタルカ為メ政府ニ対スル国民多数ノ惡感ハ旧ニ倍スルニ至レリ議會停会ニ反對スル国民一般ノ意見ニ依レハ刻下露國ノ急務ハ戰爭ニ於テ外敵ニ対シ勝利ヲ制スルコトニシテ此目的ヲ達スルニハ官民上下挙國一致ヲ必要トス之カ為メニハ国民ノ代表者タル議會ト政府トノ提携肝要ナリ然ルニ政府ハ議會ノ開會ヲ無用ナリトシテ之ニ停会ヲ命シテ民意ヲ容ルルヲ欲セス斯ノ如クシテハ露國カ敵國ニ対シテ勝利ヲ制スルコト困難ナリ故ヲ以テ政府ハ民意ニ從ヒ速カニ議會ヲ再開スルヲ要スト云フニ在リ

右ノ意見ハ諸新聞ノ社説又ハ公私諸団体ノ決議案トナリテ表示セラレタリ現ニ九月十八日モスクワ市會及モスクワ地方會ハ各々會議ヲ開キテ此意味ノ決議ヲ議決シ又同十九日

抵同一ニシテ大戦争ヲ目前ニ控ヘ自國軍隊ヲシテ敵ニ対シ勝利ヲ制セシムル為メ官民上下挙國一致以テ軍隊ニ物資ヲ供給スルヲ要スルノ今日ニ於テ政府カ民意ニ反シ議會ニ停會ヲ命シタルカ如キハ以テノ外ノコトナリト述ブルト同時ニ内閣ヲ根本的ニ改造シテ國民ヨリ人望アリ信任アル人物ヲ以テ内閣ヲ組織スルヲ必要ナリトシテ不人望ナル閣員ニ辭職ヲ促セリ右兩會議ハ最終ノ日ニ於テ各々決議案ヲ議決シ同時ニ代表者ヲシテ皇帝ニ拜謁ヲ求メシメテ決議事項ヲ具ニ上奏セシムル為メ代表者ヲ選ヒタリ兩會議ノ決議ハ其文句及語氣ニ多少異同アリト雖其内容ハ略ホ同一ニシテ兩案ノ旨トスル所ハ单独平和ヲ否認シテ戦争継続ヲ必要トシ政府ニ内閣ノ更迭ヲ迫リテ議會ノ再開ヲ促シタル点トス

十九 全露地方自治団及全露市自治団兩代表者聯合會議ノ決議案ト政府

モスクワ市ニ於テ開カレタル全露地方自治団代表者聯合會議及全露市自治団代表者聯合會議ノ兩決議案ハ上下兩院改進團ノ綱領ト共ニ政府ニ対スル一種ノ最後通牒トス兩案ハ政府ニ内閣改造完成ヲ迫リタルモノナリト同時ニ政府ニ議會ノ再開ヲ促シタルモノナルヲ以テ内閣員ハ同決議案ノ決

十月党ハモスクワニ於テ會議ヲ開キ議會再開ノ必要急務ナルコトヲ議決シタリ此外モスクワ市ニ於テ開カレタル全露地方自治団代表者聯合會議及全露市自治団代表者聯合會議モ亦時局問題ヲ議シテ右ト同様ノ意味ノ決議案ヲ議決シタリ

全露地方自治団代表者聯合會議及全露市自治団代表者聯合會議ハ予定ノ通九月二十日イヅレモモスクワ市ニ於テ開カレ其議事三日ニ亘レリ右兩會議カモスクワニ於テ開會セラヘキコトハ議會停會命令ノ下リシ以前ニ既ニ決定シ居リタリ兩會議ノ目的ハ改進團カ其綱領トシテ政府ニ要求スル事項ヲ政府ニ採用セシムルニ在ルコト明白ナリシヲ以テ兩會議開會前政府ノ部内ニ於テハ議會停會命令ノ下リタル今日ニ於テ右會議ヲ開カシムルハ頗ル危険ノ業タルヲ以テ政府ハ須ラク之カ開會ヲ禁スルヲ要ストノ説起リタリ然トモ閣員ノ多数ハ今日之ヲ禁スルコトヲ以テ反ツテ危険發生ノ懼アリトシ其結果政府ハ之カ開會ヲ禁スルコト無カリキ全露地方自治団代表者聯合會議及全露市自治団代表者聯合會議ニ於テ會員ハ傍若無人ニ時局問題ニ関シテ其意見ヲ述ベ以テ政府ノ内政策ヲ非難シタリ諸會員ノ演説ハ其趣旨大

議後一時大ニ狼狽シテ之ニ対シテ政府ノ執ルヘキ態度ヲ定ムル為メ閣議ヲ開キタリ閣議ニ於テハ此態度決定問題ニ関シ閣員ノ説ニ二分レ甲ハ此際政府カ或程度マテ上下兩院改進團乃至全露地方自治団及全露市自治団兩代表者聯合會ノ要求ヲ容レテ内閣ノ改造ヲ完成シ議會ヲ再開スルニアラサレハ議會ノ多数党ハ地方及市自治団役員工商業者ト共ニ政府ニ反對スルニ至ルヘク又下院ノ極左党タル社会民主及労働兩党ハ政府ト議會多数党トノ不和ヲ機トシ職工労働者等ヲ煽動シテ遂ニハ露國ニ革命發生スルニ至ルノ危険アリト説キタルニ反シ乙ハ政府カ右ノ要求ヲ容レテ内閣ヲ改造シ且又一旦既ニ停会ヲ命シタル議會ヲ期日前ニ再開スル場合ニハ政府ノ威敵ハ全ク地ニ墜ツルニ至ルヘシト唱ヘタリト云フ

以上兩説中甲説ヲ唱ヘタル者ハ閣員ノ多数ナリト称セラレタリ之カ為メ當時議會ハ兎モ角モ期限前ニ再開セラルニ至ルヘシトノ風説ハ一時巷間ニ行ハレタリ

二十 保守團綱領發表

内閣會議ニ於テ閣員ノ多数カ改進團乃至「モスクワ」會議ノ要求ヲ容レテ内閣改造ヲ完成シ議會ヲ再開スヘシトノ風

説伝ハルニ至ルヤ保守団ハ官僚及宮中派人士ト共ニ又々内閣制肘運動ヲ始メタリ保守団ハ一方ニ於テハ改進黨ノ綱領ニ對シ自己ノ綱領ヲ世ニ發表スルト同時ニ又他方ニハ政府ニ注意スルニ政府カ此際國民ノ要求ニ從ヒ讓歩ノ態度ニ出ツル場合ニハ政府ノ威信ハ全ク地ニ墜チ國民ノ要求ハ増大ヲ來スノミナルヘシトノコトヲ以テシタリ

保守団ノ綱領ノ内容ハ戰時中一切ノ内政改革ヲ否認シ全力ヲ戰爭ノ為メニ尽クスヲ急務トシ政府ノ威嚴ヲ大ニスルヲ必要トシタルモノトス保安団ハ政府カ國民ノ要求ニ從ヒテ議會ヲ再開シ改革ヲ実行スル場合ニハ國民ノ要求ハ増長シテ停止スル所無ク遂ニハ露國ハ民主國ト化スルノ危險アリトセリ加フルニ同団ハモスクワ市ニ於テ開カレタル兩自治団代表者聯合會議代表者カ皇帝ニ拝謁シテ上奏セントスルコトニ極力反對シテ同代表者ノ拜謁上奏ノ目的ヲ達セシムルヲ危險ナリトスルト同時ニ國民ノ要求ニ從ヒテ内閣力進退スル如キハ國家ノ不祥ナリトセリ

右保守団ハ野ニ在リテハ少数派トシテ勢力無シト雖官僚部内殊ニ宮中ニ在リテハ大ナル勢力ヲ有セリ之カ為メ同団ノ主張ハ往々内閣ノ意見ヲ左右シ現ニ總理大臣「ゴレムイキ

ルコトトナリ議會ハ指定ノ期限前ニ再開セラルルコト無ク而シテ自治団代表者聯合會議全權員拜謁ハ之ヲ許可セサルコトニ決セリ

大本營御前會議ノ結果カ露都諸新聞紙ニ漏ラサレテ世ニ公ケトナリシハ九月十七日即チ閣員カ大本營ヨリ帰京シタルノ日トス同會議ノ結果ハ改進黨全露地方自治団代表者聯合會全露市自治団代表者聯合會工商業代表者會議等露國國民大多數派ノ要求ヲ斥ケテ少数派タル保守団ノ主張ヲ容レタルモノナルヲ以テ右多數派中ニハ激昂ノ余リ政府ニ對シ断然反對運動ヲ試ミルヲ必要ナリトノ意見ヲ主張シタリ然レトモ此等多數派ハ自派力保守派ト労働及社会派トノ中間ニ在リテ而モ露國ノ主腦ヲ以テ自任スルノ關係上外敵ヲ目前ニ控ユルノ今日ニ於テ此ノ如キ輕拳ニ出ツルハ穩當ナラストシテ此際慎重ノ態度ヲ執ルヲ必要ナリト主張シタリ要之國民多數派ノ政府ニ對スル激昂ハ固ヨリ甚大ナルモ同派ハ今日ハ輕拳以テ政府反對運動ヲナスノ場合ニアラスシテ時機ヲ見テ運動スルモ必シモ遲シトセストノ意見ヲ有セリ

二十二 大本營御前會議以後ノ政況

大本營御前會議ノ結果トシテ一度民意ヲ容レントシタル政

ン」氏ノ如キハ輓近同団ノ主張ニ同意スルニ至リタリト稱セラル

二十一 大本營御前會議

政府ハ曩ニ改進黨ノ要求ヲ斥ケテ議會ニ停會ヲ命シタルモ全國ノ地方自治及市自治兩団体員并ニ工商業者ハ右改進黨ノ要求ヲ至當ナリトシテ各自決議案ヲ議決シテ改進黨ト同様ノ要求ヲ提起シタルヲ以テ閣員ノ多數ハ政府カ此要求ヲ容ルルノ已ムヲ得サルヲ認ムルニ至リタルカ最近ニ至リテ此要求ニ對スル有力ナル反對ハ保守団ノ側ヨリ起リ来リタルヲ以テ閣員ノ一部ハ右要求ヲ容ルルコトヲ欲セサルニ至レリ玆ニ於テ右要求ニ對スル閣員ノ意見ハ二ニ分レタルヲ以テ總理大臣「ゴレムイキン」氏ハ本件ニ関シ勅裁ヲ仰ク為メ九月十三日大本營ニ向ヒ皇帝ニ拝謁シテ上奏スル所アリタリ其結果皇帝ハ閣員一同ヲ大本營ニ招キ御前會議ヲ開カルルコトトナリタリ

大本營御前會議ハ九月十六日ニ開ケ同日皇帝ハ親ラ議長トナリテ内閣更迭議會再開并全露地方及市自治団代表者聯合會議全權員拜謁許可問題ヲ同會議ニ附セラレタリ同會議ノ結果總理大臣「ゴレムイキン」氏首メ閣員一同其保留任ス

府力更ニ其方針ヲ一変シテ民意ヲ斥クルニ至リタルカ為メ大多數ノ國民殊ニ改進黨人士ハ政府ニ對シテ大ニ不平ナリト雖同団人士ハ政府ニ對シ何等反抗運動ヲ舉行スルコト無カリキ加之極左黨タル社会民主及労働兩党ハ形勢ヲ傍觀シテ進ンテ労働者職工等ヲ煽動スルコトヲ中止シ今日同盟罷工ヲ起サシムルハ時機ニアラストノ見解ヨリシテ寧ロ職工労働者等ノ運動ヲ制肘シツツアルノ狀アリ要之政府ハ御前會議ノ結果カ世ニ公ケトナルニ至ラハ國民激昂シテ労働者職工等ハ直ニ政治的大同盟罷工ヲ行ヒ從ツテ内政非トナルニ至ルヘシト予期シテ大ニ警戒スル所アリタリト稱セラルルモ政況ハ無事ナリキ

斯ノ如ク御前會議以後政況カ表面比較の無事ナリシ所以ハ畢竟ウイイルナ方面ニ於テ危地ニ陥リタル露軍ノ退却カ無事ニ行ハレテ戰況カ思ヒノ外非ナルニ至ラサリシカ為メニ外ナラス然トモ露國ニ於ケル政府反對ノ氣焰ハ裡面ニ於テハ旧ニ倍シ熾シニシテ現ニ目下改選中ナル上院民選議員ノ選舉ニ於テハ改進黨ニ屬シ又ハ同団ノ綱領ニ賛成ヲ表スル人士ハ続々當選シ前下院議長「グチコフ」「モスクワ」知名實業政治家「リヤブーシンスキー」諸氏ノ如キモ亦同院商

工業代表者議員ニ當選シ加フルニ「モスクワ」貴族会ハ「ペトログラード」其他ノ貴族会ト其態度ヲ異ニシテ改進黨ニ接近シ来ルニ至レリ

右ノ如ク政府反対派ノ勢力ハ次第ニ増進シ此勢ヲ以テ進ミナハ政府ト国民トノ一大衝突ハ早晚免カルヲ得サルニ至ルヘキヲ以テ政府部内ニ於テ進歩的ノ思想ヲ有スル閣員ノ一部ハ刻下露國ノ急務ハ敵國ニ對シ勝戰ノ目的ヲ達スルニ必要ナル所謂國內ノ平和ヲ克復スルコトニシテ之カ為メニハ官民上下挙國一致肝要ナルヲ以テ政府ハ此際宜シク改進黨ト妥協シテ或範圍内ニ於テ同團ノ綱領ヲ容ルルヲ必要ナリトノ説ヲ最近ノ閣議ニ於テ主張シタリト云フ然レトモ總理大臣「ゴレムイキン」氏ヲ首メトシ閣員ノ他ノ一部ハ政府會議会ニ停会ヲ命ジテモ國民ハ政府ニ對シテ何等反抗ニ出テ得サル有様ナルヲ以テ政府ハ改進黨ト妥協スルノ必要ヲ有セスト主張シタリト稱セラル

右兩說中進歩思想ヲ有スル閣員ノ説ハ行ハレスシテ保守團ノ主張ニ賛成シタル閣員ノ説ハ勝利ヲ制シ其結果改進黨ノ主張ニ賛成シタル内務大臣「シチエルバートフ」公及宗務大臣「サマーリン」氏ハ九月二十二日其職ヲ辭シ同時ニ下

奔走ニ出タルカ為メ此ノ政敵タル改進黨ニ屬スル人士及同團ノ綱領ヲ支持スル諸新聞ハ未タ新内務大臣ヲ否難スルニ至ラスシテ新大臣ノ行動ニ注目シ居レリ要スルニ世人ハ新内務大臣ニ對シ同大臣カ果シテ其自ラ示シタル施政ノ方針ヲ実行スヘキヤ否ヤヲ確メ而ル後ニ評論ヲ下スヘシトノ態度ヲ有セリ

フウオストフ氏ハ何人ノ推薦ニテ内務大臣ニ任セラレタルヤ未タ之ヲ知ルニ由無シト雖内閣部内ニ於テ改進黨ノ要求ヲ容ルルヲ必要ナリト主張シタル「シチエルバートフ」公カ内務大臣ノ職ヲ去リテ同氏カ之ニ代リタル所ヲ以テ見レハ氏カ内務大臣ニ任セラレタル原因ハ氏カ右黨代議士トシテ保守團ニ屬スヘキ人ナリシカ為メニ外ナラス右ノ如ク「フウオストフ」氏ハ保守團ニ屬スヘキ人ナルノ故ヲ以テ内務大臣ニ任セラレタリトスルモ氏ハ術策ニ長シタル人ナリト稱セラレ最近ハ右黨領袖トシテ其位置ヲ曖昧ニシタリシ程ノコトナレハ氏ハ内務大臣トシテ内政關係上一時改進黨團ノ綱領ヲ容ルルノ必要アルニ際会セハ改進黨ノ要求ヲ容ルルニ至ルヤモ亦知ルヘカラサルナリ

フウオストフ氏就職後新聞記者ニ語リテ曰ク國民ノ信任ヲ

院右黨議員「フウオストフ」氏ハ内務大臣ニ任セラレ越ヘテ五日内務省総務局長「ウオロージン」氏ハ宗務大臣ニ任セラルルニ至レリ

右兩大臣ノ更迭就中内務大臣ノ任免ハ露國內政問題ニ大ナル關係ヲ有ス此任免ハ政府カ明カニ保守團ノ綱領ヲ採用シテ改進黨ノ要求ヲ斥ケタルコトヲ意味スルモノニシテ現ニ右任免カ官報ニテ發表セラルルニ至ルヤ諸新聞ハ右任免ニツキ異口同音ニ此意味ノ評論ヲ下セリ新任内務大臣フウオストフ氏ハ下院議員ニシテ其代議士タル以前「ニゼゴロド」県知事トシテ議員選舉干渉ヲナシタルヲ以テ名アリ氏ハ下院右黨ニ入黨シテ同黨ノ領袖タリ歐洲戰爭開始後一時氏ハ同黨ヲ脱シテ別ニ温和右黨ナルモノヲ組織セントシタルモ其運ヒニ至ラスシテ最近マテ依然同黨總理タリ氏ハ多年地方官タリシト同時ニ下院議員トシテ院内各派議員ニ接觸シタリシヲ以テ民情ニ精通シ愚民籠絡及新聞縱横ノ秘訣ヲ解セリト云フ故ヲ以テ氏ハ内務大臣ニ任セラルルヤ直ニ在野政治家医士僧侶弁護士新聞社長等ノ重ナル者ヲ悉ク訪問シ且又特ニ新聞記者ヲ引見シテ施政ノ方針ヲ示シテ支持ヲ求メタリ斯ノ如ク「フウオストフ」氏ハ就任早々異例ノ

得タル者ヲシテ國務大臣タラシムヘシトノ輿論ノ關係上予カ内務大臣ニ任セラレタルハ予カ代議士タルノ資格ヲ有スルカ為ナリ何トナレハ代議士ハ選舉民ヨリ選舉セラレタリモノトシテ其政見主義ノ如何ニ拘ラス國民ノ信任ヲ有スルヲ以テナリ予ハ下院右黨ニ屬シテ内務大臣トナリタルヲ以テ露國ノ内政策ハ保守ニ傾クヘシトノ評ヲ下スモノアレトモ政策カ保守的ト成リ又ハ改進黨ノ傾向ヲ取ルナドト曰フハ平時ノ話ニシテ戰時ニテハ右傾モ無ク又左傾モ無クシテ單ニ全國民カ舉國一致以テ敵國ニ對シ一心不乱勝戰ヲ期スルノ一事アルノミト以上内務大臣「フウオストフ」氏ノ言ハ頗ル簡單ナリト雖此言ニ依リ同氏性格ノ一端ヲ知ルニ足レリフウオストフ氏カ新聞記者ニ示シタル政策ハ下院右黨ノ主張ニ全ク反シテ改進黨ノ主張ニ適シタルモノナルヲ以テ同政策カ其言辭ノ通りニ果シテ実行セラルルニ至レハ國民ハ満足スヘシト雖其實行ノ有無及能否ハ未タ大ニ疑問ニ屬スルノミナラス氏ノ屬セル下院右黨ノ代議士及同黨機關紙ハ同氏ハ飽マテ我黨ノ士トシテ改進黨ノ主張ヲ容ルルカ如キコトハ斷シテ之レ無カルヘシトセリ